

# チヌ（黒鯛）の紀州釣り完全攻略マニュアル

## 紀州釣りの上級者になるための6つのステップ



# 目 次

## 序 章

- 0－1 [マニュアルの概要](#)
- 0－2 [スマートフォンでの閲覧手順](#)
- 0－3 [著作権と免責事項](#)
- 0－4 [筆者の紹介](#)
- 0－5 [ご購入者サポートのご案内](#)



## 第1章 紀州釣りの基礎知識

### 1-1 [生態と習性](#)

### 1-2 [釣れる場所とポイント](#)

### 1-3 [釣れやすい時期と釣れにくい時期](#)

### 1-4 [釣れる時間](#)

### 1-5 [釣行計画の立て方](#)

## 第2章 紀州釣りの道具

### 2-1 [紀州釣りのロッド](#)

### 2-2 [紀州釣りのリール](#)

### 2-3 [紀州釣りの玉網](#)

### 2-4 [紀州釣りのバツカン](#)

### 2-5 [紀州釣りのダンゴ杓](#)

### 2-6 [紀州釣りのスカリ](#)

### 2-7 [紀州釣りのストリンガー](#)

## 第3章 紀州釣りの仕掛け

- 3 – 1 [紀州釣りのウキ](#)
- 3 – 2 [紀州釣りの仕掛けパーツ](#)
- 3 – 3 [紀州釣りの道糸とハリスの結び方](#)
- 3 – 4 [紀州釣りの仕掛けの作り方](#)

## 第4章 紀州釣りのエサ

- 4 – 1 [紀州釣りのダンゴ配合餌](#)
- 4 – 2 [紀州釣りの自作のダンゴの配合レシピ](#)
- 4 – 3 [紀州釣りの刺し餌](#)
- 4 – 4 [紀州釣りの刺し餌の使い分け方](#)
- 4 – 5 [紀州釣りの刺し餌の使い分け実釣データ](#)
- 4 – 6 [紀州釣りの進化系ハイブリッドダンゴ](#)

## 第5章 紀州釣りの実釣 基本編

- 5 – 1 [釣り座の決め方](#)
- 5 – 2 [ダンゴの作り方](#)
- 5 – 3 [タナの取り方（ウキ下の設定）](#)
- 5 – 4 [ダンゴの握り方](#)
- 5 – 5 [ダンゴの投げ方](#)
- 5 – 6 [ラインメンディングのやり方](#)
- 5 – 7 [アタリの取り方](#)
- 5 – 8 [やり取りの方法とコツ](#)
- 5 – 9 [タモ入れの方法とコツ](#)

## 第6章 紀州釣りの実釣 応用編

- 6－1 [チヌ（黒鯛）とエサ取りの関係性](#)
- 6－2 [チヌ（黒鯛）が釣れる時の前兆現象](#)
- 6－3 [潮の流れが速い時のポイント形成](#)
- 6－4 [ライバルが多い釣り場の対策法](#)
- 6－5 [帰巢本能を意識した釣り座の選び方](#)
- 6－6 [サイズアップを目指す戦略](#)
- 6－7 [チャンスを倍増させるダブルのチヌ針](#)
- 6－8 [春の乗っ込み時期と夏の藻場攻略](#)
- 6－9 [砂浜および浅場の海岸攻略](#)

## 0－1 マニュアルの概要

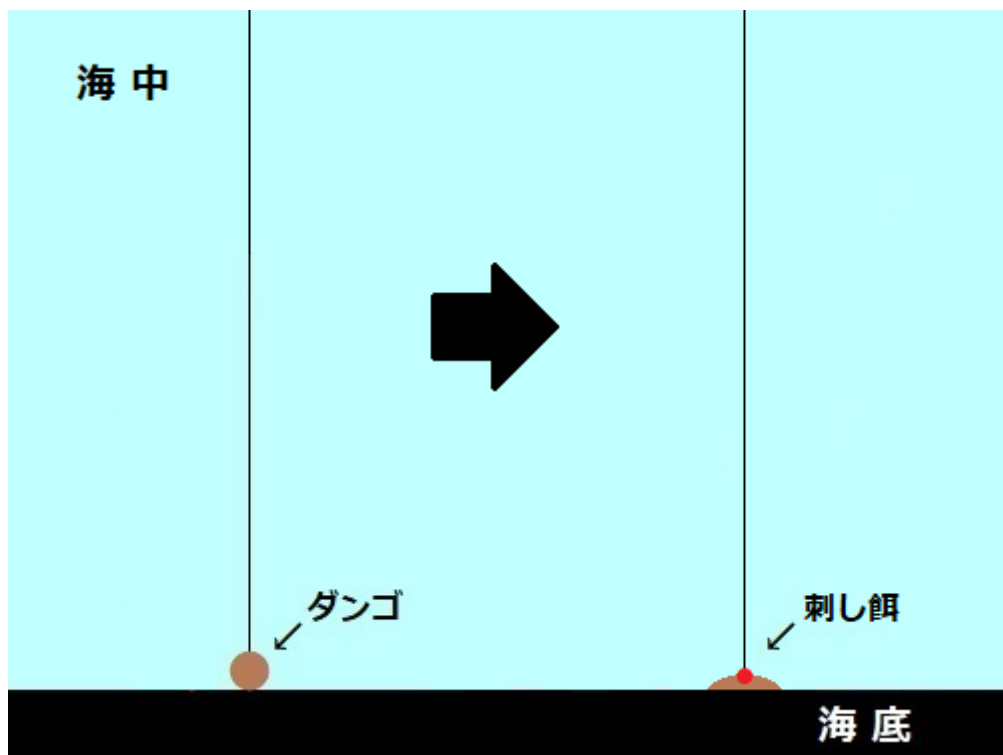
チヌ（黒鯛）の紀州釣り完全攻略マニュアル ～ 紀州釣りの  
上級者になるための6つのステップ ～ をご購入いただき誠に  
ありがとうございます。



紀州釣りは、はるか昔の江戸時代に和歌山県の紀州藩の藩主が  
藩士に釣りを奨励したのが始まりと言われています。

現在は、和歌山県発祥の紀州釣りという伝統釣法が日本の各地  
に広がり釣り場で楽しまれています。

チヌ針に刺し餌を付けてからダンゴを握り、ポイントに投げて  
海底でダンゴが割れてチヌ（黒鯛）が刺し餌を食べるという  
一連の流れになります。



上のイメージ図のように上層や中層にいるエサ取りの小魚たち  
を回避してダンゴと刺し餌が海底に届きます。

紀州釣りは **チヌ（黒鯛）の捕食層に刺し餌が必ず届く** こと  
が最大のメリットになり、刺し餌が沈下する過程でエサ取りの  
小魚たちに食べられてしまうというリスクは皆無です。



当マニュアルは、紀州釣りの初心者さんをはじめ既に紀州釣りの中級者さんであってもこれから釣技を磨き釣果アップおよびサイズアップしたい方にも対応しています。

- ・ 初心者さんは

⇒ 紀州釣りの **中級者** そして **上級者** に

- ・ 中級者さんは

⇒ 紀州釣りの **上級者** に

レベルアップする **紀州釣りの教科書** になります。

- ・ 第1章 紀州釣りの基礎知識
- ・ 第2章 紀州釣りの道具
- ・ 第3章 紀州釣りの仕掛け
- ・ 第4章 紀州釣りのエサ
- ・ 第5章 紀州釣りの実釣基本編
- ・ 第6章 紀州釣りの実釣応用編

上記のように第1章～第6章の6つのステップの合計39項目  
241ページで構成されています。



紀州釣りでチヌ（黒鯛）を釣るために必要な基本から応用に  
至るまでのノウハウとテクニックをマニュアルで伝授するので  
段階的にレベルアップできます。

第1章～第5章では、紀州釣りでチヌ（黒鯛）を釣るための  
基本ノウハウとテクニックを習得できます。

第6章では、釣果アップおよびサイズアップで上級者にレベル  
アップする応用ノウハウとテクニックを習得できます。



**第1章では、チヌ（黒鯛）の特徴を把握して釣り師のライフスタイルと釣行する時期に合わせた5つの釣行計画の立て方を解説しています。**



**第2章では、紀州釣りに必要不可欠な7つの道具と釣り師の予算に合わせた最適な選び方を解説しています。**



**第3章では、紀州釣りの仕掛けに必須のウキとパーツの揃え方  
および結びの技術と仕掛けの作り方を解説しています。**



**第4章では、チヌ（黒鯛）をポイントに集めるダンゴと食わ  
せる刺し餌の解説と釣行する時期や状況に合わせた使い分け方  
を解説しています。**



第5章では、防波堤などの釣り場に到着して紀州釣りの実釣を行う釣り座の選び方から最後にチヌ（黒鯛）をタモ入れして取り込むまでの一連のテクニックを解説しています。



第6章では、釣果アップおよびサイズアップを狙い紀州釣りの上級者になるテクニックを解説しています。

## 0-2 スマートフォンでの閲覧手順

当マニュアルは、Adobe Acrobat Reader などで閲覧することができる PDF 形式の電子書籍です。



- ・ パソコン
- ・ スマートフォン
- ・ タブレット

上記に対応しています。



スマートフォンは、ポケットなどに入れて持ち歩くことが可能なため釣具店で読みながら道具とエサを購入して更に釣り場で読みながら実釣を行う使い方もできます。

#### ◆ 作業手順（パソコン・タブレットから購入した場合）



⇒ [Microsoft OneDrive](https://onedrive.live.com/)

パソコンやタブレットから上記の Microsoft OneDrive などのオンラインストレージにアクセスします。

そして、新規登録（容量5GBまで無料）を行いマニュアルのPDFをアップロードします。

オンラインストレージは、その他に Google Drive や iCloud などがあり、一定の容量まで無料で利用できます。

スマートフォンに

- ・ iOS の方は

⇒ [Microsoft OneDrive（App Store）](#)

⇒ [Adobe Acrobat Reader（App Store）](#)

- ・ Android の方は

⇒ [Microsoft OneDrive（Google Play）](#)

⇒ [Adobe Acrobat Reader（Google Play）](#)

上記のアプリをインストールします。



次にスマートフォンの方から Microsoft OneDrive のアプリを起動してアップロードしたマニュアルのPDFをダウンロードして保存します。

そして、保存先の Adobe Acrobat Reader のアプリを起動するとマニュアルの PDF を閲覧できます。

もう1つの方法は、Adobe Acrobat Reader をインストールした後にパソコンやタブレットからマニュアルのPDFをメールに添付してスマートフォンに送信します。

そして、スマートフォンで受信したメールを開けばマニュアルの PDF を閲覧できます。

マニュアルの容量が大きいため使用する環境によりメールでは送受信できない場合があります。

## 0－3 著作権と免責事項

当マニュアルは、ご購入者様ご本人が読んで紀州釣りのノウハウとテクニックを習得する目的で販売しています。



### ◆ 著作権

著作権者の許可なくマニュアルの編集・複製・配布・転売などの行為を行うことは一切禁止しております。

マニュアルの編集・複製・配布・転売などの違法行為を行った場合は、関係法規に基づき著作権侵害として法的な措置を取らせていただく場合があります。

#### ◆ 免責事項

紀州釣りは、自然とチヌ（黒鯛）を相手に楽しむアウトドアになり、釣行頻度などで紀州釣りの釣技を磨いて上達する過程と所要期間には個人差があります。

マニュアルを読むことで釣果を100%保証するものではないことはご了承ください。

マニュアルのバージョンアップに伴い予告なしに内容の訂正や情報の更新などを行うことがあります。

ご購入者の皆様には、バージョンアップが完了した時にご案内メールを送信いたします。

## 0－4 筆者の紹介

当マニュアルの筆者は、小学３年生の時の夏休みに海に行って初めてアウトドアの魚釣りを体験しました。



人生で初めてチヌ（黒鯛）を釣ったのは、小学６年生の時ですが当時撮影した写真になります。

あれから２０年以上が経過して大人になった現在も防波堤などの釣り場へ釣行してチヌ（黒鯛）の紀州釣りをはじめ様々な釣りを楽しんでいます。

筆者がこれまでに経験したことを踏まえて、チヌ（黒鯛）の紀州釣りという1つの釣法をテーマにノウハウとテクニックをマニュアルに詰め込み電子書籍化しました。

筆者は



⇒ [チヌ（黒鯛）釣り入門](#)

上記の「チヌ（黒鯛）釣り入門」という名前の釣りに特化したブログも運営しています。

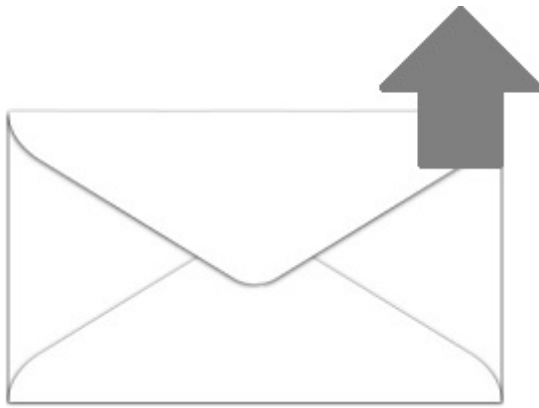


紀州釣りに関するコンテンツの他にも上の画像のように釣ったチヌ（黒鯛）の美味しい食べ方など魚料理レシピもブログで公開しています。

よろしければブログの方も参考にしてください。

## 0 – 5 ご購入者サポートのご案内

当マニュアルは、ご購入者様に対して無償のバージョンアップサポートとメールサポートをご用意しております。



バージョンアップサポートのお申し込みおよびメールサポートのお問い合わせ先につきましては、下記の専用メールアドレスにお願い致します。

⇒ [support@kisyuuturi.sakuraweb.com](mailto:support@kisyuuturi.sakuraweb.com)

バージョンアップサポートのお申し込みについては、お手数お掛けしますが、メールの件名または本文に「バージョンアップサポート希望」と記入してメールを送信してください。

メールサポートについては、メールの本文に紀州釣りに関する質問を記入してメールを送信してください。

回答するまでにお時間をいただく場合もございますが、個別に返信させていただきます。

ご購入者様に対するバージョンアップサポートおよびメールサポートは、筆者が独自に運営しているサーバーの web メールシステムを利用して送受信を行っております。

Microsoft Outlook などのメールソフトからの送信は、メールが不着になってしまう恐れがあります。

Gmail などの web メール（フリーメール）を使用することをおすすめします。



## 1－1 生態と習性

チヌ（黒鯛）は、北海道の南部から九州の鹿児島県まで日本列島の沿岸域に幅広く分布しています。



一方で、奄美大島より南の南西諸島には分布せず近縁種になるナンヨウチヌやミナミクロダイが分布しています。

水深50m以浅の岩礁帯や砂泥底の沿岸域に生息して、越冬を終えて春先になると群れで接岸してエサを漁り、体力をつけて藻場に移動して産卵を行います。

直径0.8～0.9 mm の分離浮性卵を産卵して、海水温20℃程度の環境下では、約30時間で孵化します。

- ・ 1年 約10 cm
- ・ 5年 約25 cm

紀州釣りシーンでよく釣れる平均サイズの体長30 cm 前後に成長するまでに5年以上かかります。

- ・ 10年 約40 cm
- ・ 15年 約45 cm
- ・ 20年 約50 cm

体長40 cm 以上になり、釣り師からは **良型** と呼ばれるサイズに成長するまでに10年以上かかります。

体長50 cm 以上の個体は、20年以上も生きて何歳なのか把握しにくいいため釣り師からは **年無し** と呼ばれています。

春の産卵時期は **乗っ込み** と呼ばれて、間もなく産卵を迎える大型の個体が群れて接岸するため良型や年無しサイズが釣れる可能性も高くなります。

チヌ（黒鯛）は、成長するとオスからメスに性転換する魚で2～3歳までは精巣が発達したオスですが、成長して4～5歳になると卵巣が発達してメスになります。

一方で、すべての個体がオスからメスに性転換する訳ではなく一部の雌性ホルモンが不足したオスはメスになりません。

チヌ（黒鯛）は、臆病で警戒心が非常に強い魚ですが、捕食スイッチが入ると目の前にあるエサに対し激しく食い付くなど好奇心が強く大胆な一面も併せ持っています。

濁りを好む習性があり、濁りの中では警戒心が弱まることから紀州釣りでは、濁りを発生させる米糠の中に数種類の集魚材を配合したダンゴを使用します。

食性は雑食性で小魚をはじめ甲殻類や貝類など海中に存在する小動物を捕食します。

一方で、自然界の海中には存在しない植物性の麦やコーン、動物性のさなぎ、ニンニクを配合して強烈な臭いを放つ練り餌も好んで捕食するため **悪食** とも言われます。

食性が雑食かつ悪食であることが理由で、紀州釣りシーンにおいては、状況に合わせて数種類の刺し餌を使用します。

紀州釣りの釣行時は、エサ取り対策も踏まえてオキアミ・コーン・さなぎ・練り餌などの刺し餌を用意します。

生活環境は異なりますが、空気中で生活している人間と同様に水中で生活している魚にも五感が存在します。

それでは、チヌ（黒鯛）の視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の五感について詳しく解説します。

## 1. 視覚

チヌ（黒鯛）の視力は、0.14と低いですが、視野角は広く敵から身を守るために300°以上あります。

黄色いエサに強い反応を示すという研究結果より、その習性を踏まえて開発された視覚へのアピール力が高い黄色い練り餌などの刺し餌も販売されています。

## 2. 聴覚

チヌ（黒鯛）は、両側面にある側線器官（遊離感丘）と頭の中にある見えない耳（内耳）で音を感じ取ります。

海中に伝わる音波の圧力の変化および水粒子のわずかな動きの振動を音と認識して感じ取ります。

## 3. 嗅覚

チヌ（黒鯛）の嗅覚は、タンパク質の成分になるアミノ酸を嗅ぎ分ける能力に優れています。

頭部にある鼻孔器官に常時海水を通過させて、海水の中に溶け込む極微量のアミノ酸を嗅ぎ分けます。

#### 4. 味覚

チヌ（黒鯛）は、空腹状態になると嗅覚でアミノ酸を嗅ぎ分けながらエサがある場所に近付きます。

該当する物体をエサと認識すると実際に捕食活動を行い味覚と触覚で確認して安全と判断したら飲み込みます。

アミノ酸の中でも特にアラニン・アルギニン・グリシン・プロリン4種類の成分を好みます。

釣具店で販売されている紀州釣り専用のダンゴ配合餌や集魚材の中には、チヌ（黒鯛）の嗅覚と味覚を刺激する有効成分が含まれています。

#### 5. 触覚

チヌ（黒鯛）は、警戒心が非常に強いいためエサを捕食してもすぐには飲み込まず入念に噛んで触覚で安全かどうか確認してから最終的に飲み込みます。

エサを口の中に入れ噛んで確かめている最中に違和感があると危険と判断してすぐに吐き出します。

⇒ **違和感なく刺し餌を食わせることが重要**

紀州釣りシーンにおいては、チヌ（黒鯛）やエサ取りの小魚たちが海底のポイントに落ちているダンゴを突いた時がウキに出る **ダンゴアタリ** になります。

ダンゴが割れてチヌ（黒鯛）が刺し餌を口の中に入れ噛んでいる時がウキに出る **前アタリ** になります。

そして、刺し餌が安全であると判断して飲み込みウキが完全に沈んだ時が **本アタリ** になるというパターンが王道です。

## 1－2 釣れる場所とポイント

釣り番組や釣り雑誌では、渡船屋さんを利用して沖の防波堤や磯の釣り場に渡り、名人が大物のチヌ（黒鯛）を釣り上げるというシーンが頻繁に見られます。



メディアの影響を受けて、チヌ（黒鯛）を釣るためには、沖の防波堤や磯の釣り場まで行く必要がある…。

チヌ（黒鯛）の紀州釣りは、ハードルが高い釣りになるという印象を持つ方もいると思います。



チヌ（黒鯛）は、私たち人間にとって身近な魚で皆様が普段釣行している防波堤などの釣り場でも釣れます。

また、水深が浅い砂浜や海岸および海に川の水が流れ込むような汽水域の河口でも釣ることができます。

環境適応性が高いので、徒歩や車で行ける範囲の海の釣り場であれば **どこでも釣れる可能性がある魚** と言えます。

チヌ（黒鯛）を釣ったことがある方は、過去の経験から既に釣れる場所は把握できています。

一方で、釣果実績ゼロで未経験の初心者さんの場合は、釣れる場所がはっきりと分からない状態です。

1. インターネットで調べる
2. 釣り雑誌を読む
3. 釣具店に行く

上記の3つの方法で情報収集することができます。

インターネットで調べるまたは釣り雑誌を読むという情報収集も有効ですが、更に自分が実際に釣行する地域にある釣具店も何店舗か見て回ることをおすすめします。

特に地域密着型の釣具店の場合は、店内の掲示板などで実績が高い釣り場の情報を公開していることがあります。

チヌ（黒鯛）釣り担当の店員さんがいる釣具店に行くと直接地元ならではの有力なアドバイスを聞けることもあります。

釣れる場所は把握できているのにまったく釣れない方は、自分の釣り方をもう一度見直す必要があります。

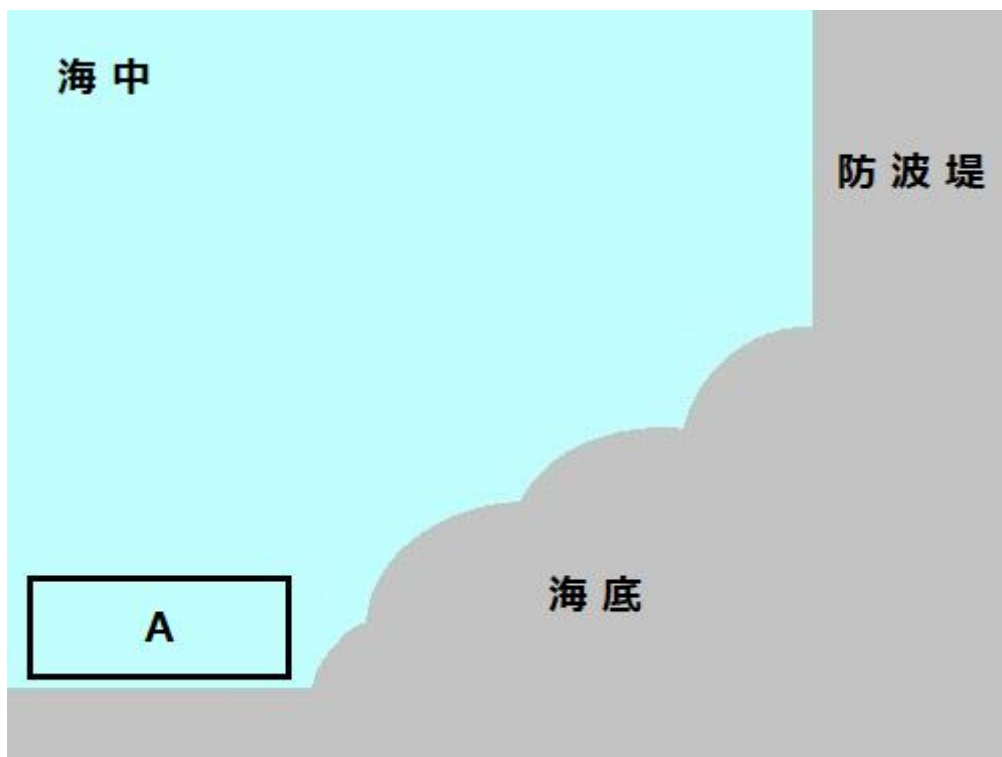
この教材を最後まで読めば、紀州釣りでチヌ（黒鯛）を釣るために必要なノウハウを身に付けることができます。

チヌ（黒鯛）は、海中の底層が遊泳層になり、海底に沈んだ障害物や水深が段々と変化するようなカケアガリ（段差）に沿って回遊する魚です。

遊泳層＝捕食層（釣れるタナ）になり、海底の障害物またはカケアガリの周辺が有力なポイントになります。

紀州釣りは、ダンゴを着底させてチヌ（黒鯛）を釣ることになるため理にかなった釣法であると言えます。

文章では、ポイントについて理解しにくいため一般的な防波堤の断面図を例に挙げて解説します。



図解のAは、チヌ（黒鯛）の有力な回遊ルートと言える場所になり、紀州釣りシーンでは、海底の障害物またはカケアガリの周辺の比較的にフラットな場所がポイントになると見立ててダンゴを集中的に打って攻めていきます。



例えば、偏光タイプのサングラスで海面を眺めて、上の画像のように **海底の変化が見える場所** がカケアガリの目安です。

海底の障害物やカケアガリの周辺を攻めなければ釣れないという訳ではありませんが、釣果アップに繋がる要素なので釣行時は回遊ルートも意識することをおすすめします。

釣行前の事前調査で釣れる場所つまり実績がある釣り場と有力なポイントを把握しておきます。

また、実際に候補となる釣り場を視察して、チヌ（黒鯛）が釣れているのか確認する方法も有効です。

紀州釣りを楽しんでいる釣り師が多い場所は、釣れる可能性が高いと判断できます。

実際に釣った現場を自分自身の目で確認できた場合は、釣れる場所と確定して間違いないです。

⇒ **情報収集と釣り場の視察**

チヌ（黒鯛）が釣れる場所と有力なポイントを釣行前に把握しておくとし紀州釣りで釣果を上げる近道になります。

### **1－3 釣れやすい時期と釣れにくい時期**

**チヌ（黒鯛）は、春夏秋冬1年を通して釣れる可能性がある  
私たち釣り師にとっては絶好の好敵手です。**



**一方で、気温の変化とともに海水温も変動するため釣れやすい  
時期と釣れにくい時期が存在します。**

**⇒ 1～3月、4～6月、7～9月、10～12月**

上記のように1年間で3か月単位で区切り、時期別の特徴などについて詳しく解説します。

#### ◆ 1～3月

1～3月は、外気温が低くて寒い真冬の厳寒期から春先になる  
ので同様に海も外気の影響を受けて海水温が低下するため釣れ  
にくい時期になります。

チヌ（黒鯛）の中には、冬だけ沖に移動して越冬する回遊系  
と冬も釣り場の近くで生活する居着き系がいます。

海水温の低下により活性が下がる（捕食活動が鈍くなる）こ  
とと越冬するため回遊系の個体が沖に移動して数が減ることで  
釣れにくい時期になるということです。

一方で、真冬の厳寒期から春先にかけては、エサ取りの小魚が  
少ないため紀州釣りを組み立てやすい時期でもあります。

大型の魚より小型の魚の方が海水温の低下の影響を大きく受け  
やすいためエサ取りの小魚の活動は鈍くなります。

ボウス覚悟の釣りで数釣りはあまり期待できませんが、釣れば良型になるパターンが比較的多いです。

真冬に釣れるチヌ（黒鯛）は **寒チヌ** と呼ばれて身のクセが少なく脂も乗り食べても美味しいです。

チヌ（黒鯛）は、環境適応性の高い魚ですが、海水温が極端に低下すると活性も下がります。

目安として、海水温が12℃以下まで低下すると徐々に活動が鈍くなり、積極的にエサを漁らなくなります。

⇒ [日別海面水温（気象庁）](#)

⇒ [リアルタイム海洋情報収集解析システム](#)

日本の海水温は、上記のホームページで確認できます。

真冬の厳寒期や春先の釣行では、なるべく海水温が10℃以上ある釣り場を選んでダンゴの集魚力と刺し餌の摂餌力を高めて食い渋り対策をすることをおすすめします。



#### ◆ 4～6月

4～6月は、越冬を終えたチヌ（黒鯛）が産卵を行うために接岸してエサを荒食いする春の乗っ込み時期になります。

春の抱卵した個体は **乗っ込みチヌ** と呼ばれて、1年の中でも40cm以上の **良型** や50cm以上の **年無し** と呼ばれるサイズが釣れやすくなるチャンスの時期です。



上の画像のような **藻場** と呼ばれる場所は、チヌ（黒鯛）が着く可能性が高く狙い目です。

理由として、藻場で産卵および藻場の奥深くに隠れて身を潜めることができる絶好の場所になるからです。

よって、春の時期になると藻が多く生えるような釣り場も釣れる可能性が高くなるため有力なポイントになります。

#### ◆ 7～9月

7～9月は、産卵後のチヌ（黒鯛）が消耗した体力を回復するためにエサを漁る時期になります。

釣り師からは **回復チヌ** と呼ばれて、春の乗っ込み時期と同様に藻場に着いている可能性が高くなります。

海中に生えている藻は、季節が進んで海水温が大きく上昇すると自然に消滅していきます。

夏の時期になっても藻が残っているような釣り場は、引き続き狙い目で有力なポイントになります。

梅雨が明けた後に訪れる真夏から秋口にかけては、日中の最高気温が高くなり、暑さが非常に厳しくなります。

日中の最高気温が35℃以上になる猛暑日の予報が出ている日は、熱中症のリスクも高まります。

チヌ（黒鯛）は、夜も捕食活動を行う魚なので、日中の猛暑を避けたい方は、夜釣りがおすすめです。

日中しか釣れないというイメージを持たれる方もいると思いますが、夜行性という一面もあるため問題なく釣れます。

産卵を終えた直後は、一時的に食いが落ちますが、夏から秋も釣れやすい時期になります。

一方で、海水温の上昇に伴ってエサ取りの小魚も活発にエサを漁るためエサ取り対策は必須になります。

紀州釣りシーンでは、ダンゴの中に刺し餌を入れて隠せるため海底のタナにダンゴが届くまでの過程で海中の上層や中層にいるエサ取り対策は簡単にできます。

海底にもエサ取りの小魚がいるため練り餌などの刺し餌を使用して対応していきます。

◆ 10～12月

10～12月は、チヌ（黒鯛）が越冬に備えてエサを荒食いして体内に脂肪を蓄える時期になります。

晩秋から初冬にかけては、越冬前の荒食い時期になり、釣り師からは **落ちのチヌ** と呼ばれて脂も乗り始めます。

海水温が安定してチヌ（黒鯛）の活性も高い時期になるためサイズを問わず数釣りが楽しめます。

一方で、エサ取りの小魚の活性も高い時期になるためエサ取り対策も必須になります。

上半期	上旬	中旬	下旬
1月	A	B	C
2月	C	C	C
3月	C	B	A
4月	A	A	A
5月	A	A	A
6月	A	A	B

下 半 期	上 旬	中 旬	下 旬
7 月	B	B	B
8 月	B	A	A
9 月	A	A	A
10 月	A	A	A
11 月	A	A	A
12 月	A	A	A

**A : 釣れやすい**

**B : 普通**

**C : 釣れにくい**

地域により多少の誤差はありますが、チヌ（黒鯛）の1年に渡る釣れやすさの目安をA B Cの三段階でランク付けしていくと上に掲載した一覧表の通りになります。

1月の下旬から3月の上旬にかけては、1年の中でも海水温が一番低くなり、チヌ（黒鯛）の活性も低い真冬の期間になるためC判定としています。

春の桜が咲く頃になり、日中の最高気温が上昇するようになると海水温も徐々に上昇していきます。

3月の下旬あたりから乗っ込みが始まり、チヌ（黒鯛）釣りの本格シーズンに突入するためA判定としています。

6月の下旬から8月の中旬にかけては、チヌ（黒鯛）が無事に産卵を終えて体力を回復する期間になります。

産卵して体力を消耗した反動で一時的に食べ気が落ちてしまう可能性があるためB判定としています。

8月の中旬以降は、海水温も安定してチヌ（黒鯛）が活発にエサを漁る期間になるためA判定としています。

## 1－4 釣れる時間

自然界の海中で暮らす魚たちは、日の出および日の入り前後の時間になると活発にエサを漁る習性があります。



海釣りシーンにおいては、一般的に朝マヅメとタマヅメの時間がゴールデンタイムになります。

チヌ（黒鯛）も例外ではなく朝マヅメとタマヅメの時間になるとアタリが集中することも多いため早朝または夕方のマヅメの時間帯も考慮して釣行することをおすすめします。

◆ 朝マヅメとは？

⇒ 夜が明け始めて朝日が昇るまでの時間

◆ タマヅメとは？

⇒ 夕日が差し始めて夜になるまでの時間

一方で、真冬の厳寒期と春先は、海水温が低く朝晩の冷え込みも非常に厳しくなります。

太陽が昇り海水温も上昇する昼頃からタマヅメにかけての時間の方が釣れる可能性は高くなります。

例えば、深夜の冷え込みにより海水温が下がった影響で早朝のチヌ（黒鯛）は、捕食活動が鈍くなります。

太陽が昇り海水温も0.5～1℃程度上昇する12時前後になるとエサを漁り始めるというパターンも見られます。

真冬の厳寒期から春先にかけての釣行は、午前の間は刺し餌がまったく取られない状態が続き午後になり海水温が上昇したら初めてアタリが出ることも多いです。



よって、真冬の厳寒期と春先に限り、冷え込みが厳しい早朝は避けてお昼前から紀州釣りを楽しむのも1つの手です。

海釣りシーンでは、上げ七分下げ三分および上げ三分下げ七分の潮位になる時間もチャンスになります。

◆上げ七分下げ三分とは？

⇒ 干潮から満潮に向かって潮が 70%満ちた水位

⇒ 満潮から干潮に向かって潮が 30%引いた水位

◆上げ三分下げ七分とは？

⇒ 干潮から満潮に向かって潮が 30%満ちた水位

⇒ 満潮から干潮に向かって潮が 70%引いた水位

上げ七分下げ三分と上げ三分下げ七分の時間は、1日の中でも潮が良く動くタイミングになります。

つまり、魚が活発に捕食活動を行う（ 活性が上がる ）時間になるということです。

潮位表などを活用して、釣行する地域の干潮時刻と満潮時刻を事前に調べて把握しておくことをおすすめします。

上げ七分は満潮時刻の約 2 時間前になり、下げ三分は干潮時刻の約 4 時間前が目安になります。

一方で、上げ三分は満潮時刻の約 4 時間前になり、下げ七分は干潮時刻の約 2 時間前が目安になります。

朝マヅメまたはタマヅメのゴールデンタイムと上げ七分などのチャンスの時間が複合する日も意外と多いです。

## 1－5 釣行計画の立て方

チヌ（黒鯛）が釣れる時期および時間を踏まえて、具体的な紀州釣りの釣行計画の立て方を解説します。



- ・ 釣り場の天気
- ・ 釣り場の風速
- ・ 日の出と日の入りの時刻
- ・ 干潮時刻と満潮時刻
- ・ 潮回り

紀州釣りを楽しむ時の釣行計画を立てるにあたり、事前に上記の5つの項目をパソコンなどで調べます。

天気予報を調べて、特に台風が接近している時など暴風警報や波浪警報が出ている地域への釣行は、命に関わる事故の危険が伴うため絶対に控えます。

晴れまたは曇りで風速 5m/s 以下の波の穏やかな日が紀州釣りにとってはベストな条件になります。

雨の日または雨の予報が出ている日は、事前にレインウェアを準備して着用することで雨天釣行も可能になります。

極端な大雨の日は別ですが、釣り場で多少の雨が降っていても釣果に与える影響は少ないです。

当日に晴れまたは曇りの予報が出ていても釣り場で突然の雨に降られることもあります。

紀州釣りの釣行時は、天気に関わらずレインウェアを持参して突然の雨に備えることをおすすめします。

## **1. 昼間の長時間釣行**

体力には自信があり、昼間に紀州釣りをできる限り長時間楽しみたいという方は、早起きして夜明け前に釣り場へ行き夜明けと同時に実釣をスタートします。

そして、夜になったら納竿という釣行計画を立てると朝マツメとタマツメの時間を狙うことができます。

## **2. 午前の短時間釣行**

午前を中心に紀州釣りを楽しみたい方は、早起きして夜明け前に釣り場へ行き夜明けと同時に実釣をスタートします。

そして、昼前に納竿するという釣行計画を立てると朝マツメの時間を狙うことができます。

特に日中の最高気温が30℃以上になる真夏日の予報が出ている日で気温が一番高くなるお昼前後の炎天下の時間帯を避けたい方にもおすすめの釣行計画になります。

### **3. 午後の短時間釣行**

午後を中心に紀州釣りを楽しみたい方は、昼頃に釣り場へ行き実釣をスタートします。

そして、夜になったら納竿という釣行計画を立てるとタマヅメの時間を狙うことができます。

特に真冬の厳寒期から春先にかけての非常に寒い時期に気温が一番低くなる早朝の冷え込む時間帯を避けたい方にもおすすめの釣行計画になります。

### **4. 夜間の長時間釣行**

釣り場の周囲が暗闇に包まれる夜間に限定して徹夜で紀州釣りをできる限り長時間楽しみたいという方は、夕方から釣り場へ行き実釣をスタートします。

そして、朝になったら納竿という釣行計画を立てるとタマヅメと朝マヅメの時間を狙うことができます。

## 5. 夜間の短時間釣行

徹夜は体力的に厳しいという方は、夕方に実釣をスタートして夜中に納竿または深夜に実釣をスタートして朝になったら納竿という夜間の短時間釣行も可能です。

夕方に実釣をスタートする場合は、タマヅメの時間を狙うことができ、深夜に実釣をスタートする場合は、朝マヅメの時間を狙うことができます。

夏は日中の炎天下を避けて涼みながら秋は夜長を楽しみながらの紀州釣りの夜釣りもおすすめです。

夜になると釣り場の周囲が真っ暗になり、人影などが見えなくなるためチヌ（黒鯛）の警戒心も弱まります。

深夜または夜明けと同時に紀州釣りの実釣をスタートする場合は、事前に現地入りして車内で仮眠するのもアリです。

アウトドア用品店やインターネット通販では、釣行時の車中泊に役立つアイテムも取り扱っています。

**具体的な紀州釣りの釣行計画を立てない行き当たりばったりの  
中途半端な釣行では、釣果にも悪影響を及ぼします。**



**釣果を上げるために海釣りシーンのゴールデンタイムになる朝  
マヅメやタマヅメの時間も狙えるような戦略で紀州釣りの釣行  
計画を立てることをおすすめします。**



## 2－1 紀州釣りのロッド

紀州釣りでチヌ（黒鯛）を釣るためには、対象魚に合わせたスペックのロッドが必要不可欠です。



チヌ（黒鯛）の紀州釣りシーンでは、通称 **磯竿** と呼ばれるロッドを使用します。

釣具店やインターネット通販で磯竿を探すと1万円前後で買える安価な物から高級品になると10万円以上する高価な物まであってラインナップは非常に豊富です。

磯竿のメーカーに関しては、シマノまたはダイワの製品を選べば間違いないです。

- ・ [シマノ ホリデー 磯 1.5-450 / 1.5-530](#)
- ・ [ダイワ リバティクラブ 磯風 1.5-45K / 1.5-53K](#)

上記のアイテムがおすすめになり、リンクからメーカーの製品情報をご覧ください。

磯竿は、全長 5.3 m が標準的で、釣り場での取り回しの良さを優先する場合は、全長 4.5 m がおすすめです。

- ・ [シマノ 鱗海 AX 1-530](#)
- ・ [ダイワ 飛竜 1-53](#)

上記の磯竿は、別名 **チヌ竿** と呼ばれチヌ（黒鯛）の重みを胴に乗せて引きをいなす専用設計になっています。

チヌ竿の場合は **1号** の全長 **5.3 m** のスペックがトータルバランスも良くておすすめです。

一方で、チヌ（黒鯛）とスリリングなやり取りを楽しみたいという釣り味を重視する釣り師の方もいると思います。

チヌ竿であれば、スタイルに合わせて **0号** や **0.6号** などの更にライトなスペックを選ぶこともできます。

紀州釣りでは、ダンゴを投げる作業が必要になるため実釣中はダンゴに集中し過ぎて磯竿のガイドの糸絡みに対する注意力が散漫になってしまうこともあります。

- ・ [シマノ 鱗海 SI 1-520](#)
- ・ [ダイワ マークドライ 1-52](#)

トラブルレスで楽しみたい釣り師の方には、上記の磯竿の中に道糸を通す **インナーガイドロッド** がおすすめです。

## 2－2 紀州釣りのリール

紀州釣りでチヌ（黒鯛）を釣るためには、対象魚に合わせたスペックのリールも必要不可欠です。



チヌ（黒鯛）の紀州釣りシーンでは、汎用性が高いスピニングリールにレバーが付いた **レバーブレーキリール** と呼ばれるリールを使用します。

指先のレバー操作で道糸を送り、チヌ（黒鯛）の強烈な引きに対処することでバラシを回避します。

ドラグ頼みのスピニングリールより、磯竿がのされた時に不利な態勢を一瞬で立て直すことができるレバールブレーキリールの使用をおすすめします。

釣具店やインターネット通販でレバールブレーキリールを探すと入門機があります。

レバールブレーキリールのメーカーも磯竿と同様にシマノまたはダイワの製品を選べば間違いありません。

- ・ [シマノ BB-X ラリッサ 2500DXG](#)
- ・ [ダイワ トライソ 2500H-LBD](#)

上記のアイテムがおすすめになり、リンクからメーカーの製品情報をご覧ください。

予算の都合により、出費を極力抑えて紀州釣りのリールを購入したいという釣り師の方は、レバーが装備されていない通常のスピニングリールでも対応することができます。

- ・ [シマノ ネクサーブ 2500HG](#)
- ・ [ダイワ リバティクラブ 2000](#)

上記のアイテムには、紀州釣りを楽しむにあたり、必要最低限の機能は装備されています。

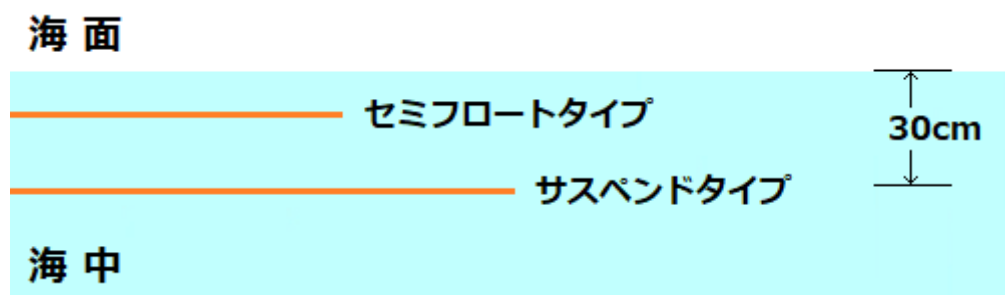


リールのスプールに巻いて使用する道糸の号数は、ナイロン製の **2号** がおすすめになります。

道糸の号数を上げると強度も上がりますが、太くなるため風や潮の流れの影響を受けやすくなります。

道糸が太くなるほど比例して紀州釣りの仕掛けにかかる抵抗も徐々に増加していきます。

つまり、道糸が太くなるほど風や潮の流れの影響をより大きく受けて操作性が悪くなるということです。



上のイメージ図のように海面直下を漂い風に煽られにくいセミフロートまたはサスペンドの道糸がおすすめです。

紀州釣りでは、強度と操作性のバランスが良い2号の道糸があれば大型にも十分対応できます。

## 2－3 紀州釣りの玉網

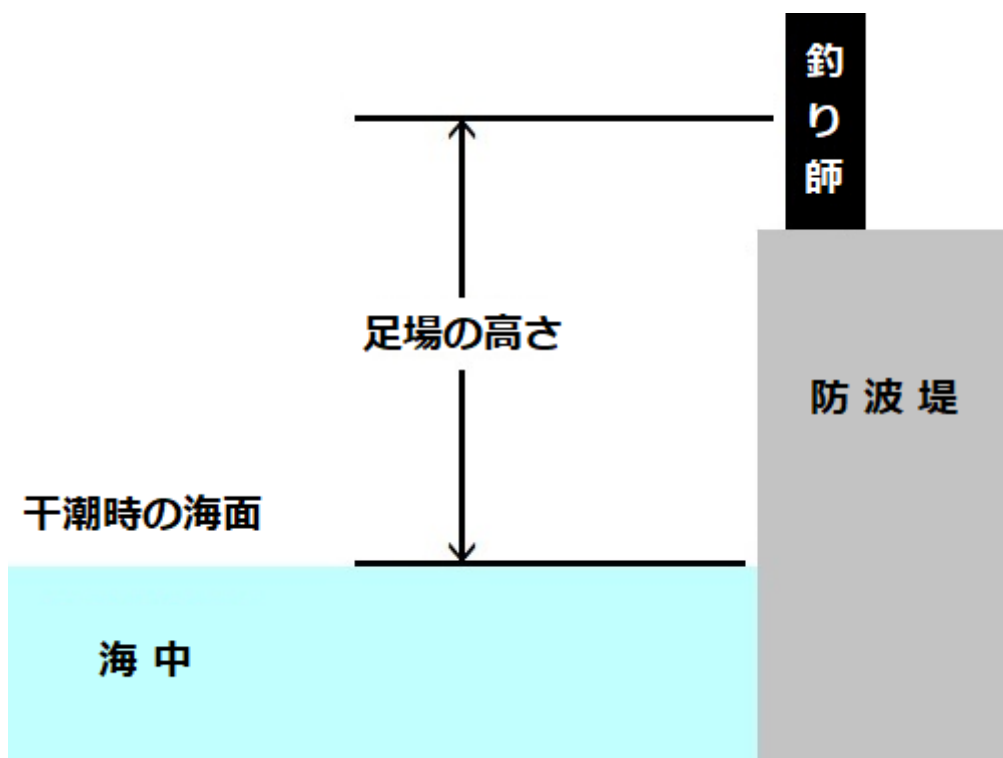
紀州釣りでチヌ（黒鯛）を海面に浮かせたら最後の取り込み作業を行う時に玉網が必要になります。



全長20cm前後の比較的に小型のチヌ（黒鯛）ならそのまま抜き上げること可能です。

一方で、中型や大型になると1枚あたりの重量があって磯竿やハリスに負担が掛かり、抜き上げるのが困難になるため玉網による取り込み作業が必須になります。





玉網を選ぶ時は、上のイメージ図のように皆様がよく釣行する釣り場の大潮の日の干潮時の水位を基準にします。

そして、紀州釣りを行う釣り座の立ち位置から海面までの足場の高さに合わせて玉網の長さを選びます。

判断がしにくい方は、大は小を兼ねるで **6m** の玉網があれば多くの釣り場に対応できます。

釣具店やインターネット通販で玉網を探すと5千円前後で買える安価な物から5万円以上する高価な物まであります。

安価な物は、玉網の柄が軟調になる傾向が強くタモ入れや取り込み作業で大きくしなります。

⇒ **安価な物ほど操作性が悪く扱いにくい**

逆に高価な物は、玉網の柄が硬調でハリが強いためタモ入れや取り込み作業がしやすく持ち重りもしにくいです。

⇒ **高価な物ほど操作性が良く扱いやすい**

玉網は、本体の価格に比例してタモ入れや取り込み作業を行う時の操作性も向上します。

⇒ [シマノ ホリデー磯 XT 玉網](#)

例えば、上記のグレードの玉網があるとベストですが、予算に合わせて選んでください。

## 2－4 紀州釣りのバツカン

紀州釣りシーンでは、釣行時にダンゴの材料を入れて釣り場に持ち運び、実釣を行う時にダンゴを作って保管しておくためのバツカンが必要になります。



サイズは 36cm または 40cm のフタが付いた **セミハードバツカン** を選ぶことをおすすめします。

フタ付きであれば、紀州釣りの実釣中に天気が急変して突然の雨に降られてもダンゴ材が濡れるトラブルを防げます。



**セミハードバックンは、折りたたみ不可能ですが、本体が頑丈に作られているため型崩れを起こさず安定しています。**

**ソフトバックンは、折りたたみ可能ですが、本体にたたみ癖が付きやすく型崩れを起こして不安定になります。**

**メリットとデメリットを踏まえて、価格はソフトバックンよりも高くなりますが、本体が頑丈に作られて安定したセミハードバックンを使用した方が無難です。**

## 2－5 紀州釣りのダンゴ杓

紀州釣りシーンでは、握ったダンゴをポイントに投げる作業が必要になるためダンゴ杓と呼ばれる道具があります。



ダンゴを手を持ち直接オーバースローまたはアンダースローでポイントに投入することもできますが、手で投げると飛距離があまり伸びないため狙える範囲は限られます。

飛距離を大幅に伸ばして沖のポイントにもダンゴを遠投できるダンゴ杓の使用をおすすめします。



上の画像の第一精工の **紀州ダンゴ杓** があれば、誰でも簡単にダンゴの遠投が可能になります。

例えば、ダンゴを手で投げる時と杓で投げる時の飛距離の差を比較してみると最大で2倍以上の差が出ます。

ダンゴを手で投げると10m程度しか投げられなかったところ杓で投げると飛距離が大幅に伸びて20m以上になり、更に沖のポイントまで届くようになります。

## 2－6 紀州釣りのスカリ

紀州釣りで釣ったチヌ（黒鯛）を持ち帰る場合は、納竿するまで活かしておくスカリが必要になります。



スカリの使い方は、上の画像のように釣ったチヌ（黒鯛）を中に入れて海に投入して使用します。

小さな生簀という感覚で使用する道具になり、全長30cm前後の中型のチヌ（黒鯛）を活かした状態で一時的にキープしておくのに適しています。



小型のチヌ（黒鯛）の場合は、海水を汲んだバケツに入れて納竿するまでキープすることもできます。

一方で、中型になるとバケツの中で泳がせておくのはサイズ的に厳しくなるため専用のスカリが必要になります。

釣ったチヌ（黒鯛）のサイズを問わず即リリースする釣り師の方は、スカリは必要ありません。



## 2－7 紀州釣りのストリンガー

紀州釣りで釣ったチヌ（黒鯛）を持ち帰る場合は、納竿するまで活かしておくストリンガーも必要になります。



ストリンガーの使い方は、上の画像のようにチヌ（黒鯛）の口の下顎部分に係留ロープが付いたクリップ型の金属フックを取り付けて海に投入して使用します。

全長40cm前後の良型や大型の年無しチヌ（黒鯛）を活かした状態で一時的にキープしておくのに適しています。



ストリンガーを使用すると上の画像のようにスカリの中に入らないサイズのチヌ（黒鯛）も直接ロープで係留して納竿するまで泳がせてキープすることができます。



チヌ（黒鯛）は、小型から大型まで釣れる可能性があるため  
紀州釣りの釣行時は、スカリとストリンガーの両方を用意して  
おくことをおすすめします。

釣ったチヌ（黒鯛）のサイズを問わず即リリースする釣り師  
の方は、ストリンガーは必要ありません。

### 3－1 紀州釣りのウキ

紀州釣りシーンでは、チヌ（黒鯛）のアタリを目視で捉えるために仕掛けにウキを取り付けます。



繊細なアタリも見逃さず捉えることができるように感度が高い浮力3 B～1号の **自立式の棒ウキ** を使用します。

自立式の棒ウキを使用する理由は、紀州釣りのダンゴがオモリの役割を担い刺し餌が海底のポイントに届くため仕掛けに浮力調整用オモリを付ける必要がないからです。

紀州釣りシーンでは、海面に浮く棒ウキのトップが



1. 上下に小刻みに動く = **ダンゴアタリ**
2. 半分沈む = **前アタリ**
3. 完全に沈む = **本アタリ**

上記の3つの挙動でアタリを見極めます。

紀州釣りで使用する自立式の棒ウキは、超高感度かつ潮乗りの安定性を備えた「立ちうきの王様」と呼ばれる **遠矢うき** がおすすめです。

◆ 遠矢うきの参考サイト

⇒ [遠矢うき TohyaDirect 楽天市場店](#)



紀州釣りシーンでは、その他に **寝ウキ** と呼ばれる特殊なウキを使用することもあります。

名前の如く、チヌ（黒鯛）のアタリを待つ時は、ウキは海面に立たず寝た（倒れた）状態です。

海面に寝かせた状態で使用するマニアックなウキですが、普通のウキとは異なる動き楽しむことができます。

紀州釣りシーンでは、海面に浮く寝ウキのトップが



1. 何度も斜めに立つ = **ダンゴアタリ**
2. 真っ直ぐに立った状態で半分沈む = **前アタリ**
3. 完全に沈む = **本アタリ**

上記の3つの挙動でアタリを見極めます。

◆ おすすめの寝ウキ

- ・ [ダイワ センサー寝ウキⅡ（湾内・外海）](#)

紀州釣りで自立式の棒ウキを使用するか寝ウキを使用するかは釣り師の好みによるので選び方は自由になります。

視認性を重視する場合は、遠距離は自立式の棒ウキで近距離は寝ウキでという使い分けもできます。



チヌ（黒鯛）は、夜行性という一面もあるため紀州釣りでは夜釣りも有効になります。

釣り場の周囲が薄暗くなり始めたら納竿する釣り師の方もいると思いますが、夜になるタイミングでチヌ（黒鯛）の警戒心が解けてアタリが出ることもあります。



紀州釣りシーンでは、海面に浮く電気ウキの光が



1. 上下に小刻みに動く = **ダンゴアタリ**
2. 海面の直下に沈む = **前アタリ**
3. 海中に走り出す = **本アタリ**

上記の3つの挙動でアタリを見極めます。

◆ おすすめの電気ウキ

- ・ [ハピソン 白色発光自立ラバートップミニウキ](#)
- ・ [ハピソン 緑色発光自立ラバートップミニウキ](#)

紀州釣りの釣行時は、夜釣りを行う予定が無くてもタマツメを狙う時は電気ウキを用意することをおすすめします。



釣り場の周囲が薄暗くなり始めて夜になるまでのタイミングに訪れる時合いも狙えるようになります。

ケミホタルなどの使い捨ての発光体をウキトップに取り付けて代用する方法もありますが、高輝度 LED を搭載した電気ウキと比較すると視認性は劣ります。

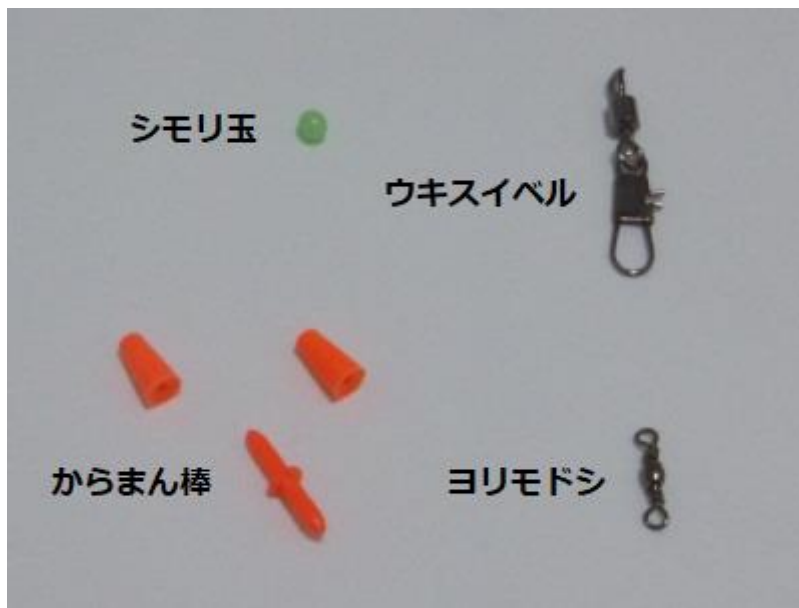
## 3 - 2 紀州釣りの仕掛けパーツ

紀州釣りの仕掛けを作るためには、釣り具の小物に分類されるパーツが必要になります。



### 1. ウキ止め糸

ウキ止め糸は、紀州釣りの仕掛けのタナ（ウキ下）を設定するためのパーツで、道糸に結び付けて固定するとウキ止め糸の位置でウキが止まるようになります。



## 2. シモリ玉

シモリ玉は、紀州釣りの仕掛けのウキスイベルがウキ止め糸の部分を通過しないようにするためのパーツです。

## 3. ウキスイベル

ウキスイベルは、紀州釣りの仕掛けに棒ウキまたは寝ウキを取り付けるためのパーツで、道糸に付けたウキ止め糸の部分までウキが遊動するようになります。

#### 4. からまん棒

からまん棒は、紀州釣りの実釣で仕掛けが絡むトラブルを防止するためのパーツです。

#### 5. ヨリモドシ（サルカン）

ヨリモドシ（サルカン）は、紀州釣りの仕掛けの道糸とフロロカーボンハリスを結束するためのパーツで、糸の撚りを戻すことからヨリモドシと呼ばれています。



## 6. フロロカーボンハリス

フロロカーボンハリスは、紀州釣りの仕掛けのヨリモドシ（サルカン）とチヌ針を結束するためのパーツです。



## 7. チヌ針

チヌ針は、オキアミなどの刺し餌を付けて、チヌ（黒鯛）に食わせて口に掛けるためのパーツで、紀州釣りの仕掛けの中で一番重要な部分です。

釣り場で紀州釣りの仕掛けを作る時は、棒ウキまたは寝ウキの他に今回の項目で紹介した

1. ウキ止め糸
2. シモリ玉
3. ウキスイベル
4. からまん棒
5. ヨリモドシ（サルカン）
6. フロロカーボンハリス
7. チヌ針

上記の7つのパーツをすべて揃える必要があります。

フロロカーボンハリスは **1.5号** を選べば40cm以上の良型のチヌ（黒鯛）にも十分対応できます。

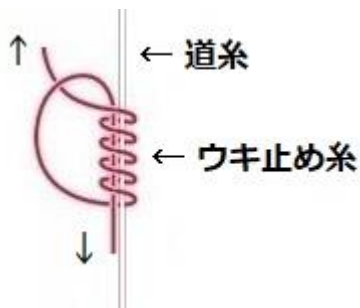
チヌ針は **1号・2号・3号** を選んで揃えておけばエサ取りの小魚の状況に合わせて使い分けることができます。

### 3－3 紀州釣りの道糸とハリスの結び方

紀州釣りの仕掛けを作るためには、道糸とハリスを結ぶ技術の習得が必須になります。

この項目では、釣行に備え習得しておきたい3種類の結び方を図解付きで詳しく解説していきます。

#### ◆ ウキ止め糸の結び方

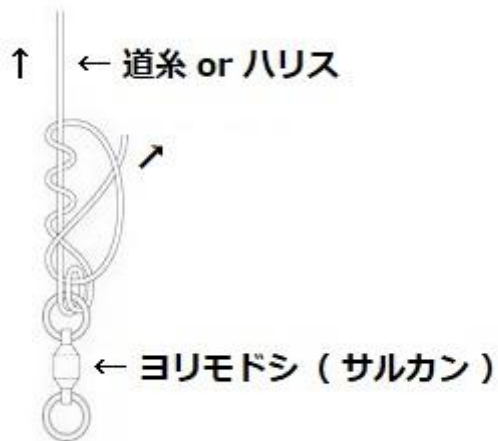


上の図解は、紀州釣りの仕掛けの **タナを設定する時** に道糸に付けるウキ止め糸の結び方です。

道糸に対してウキ止め糸の輪を作り、5～6回程度巻き付けて最後に両端を引っ張って締め込み固定します。



## ◆ ダブルクリンチノット



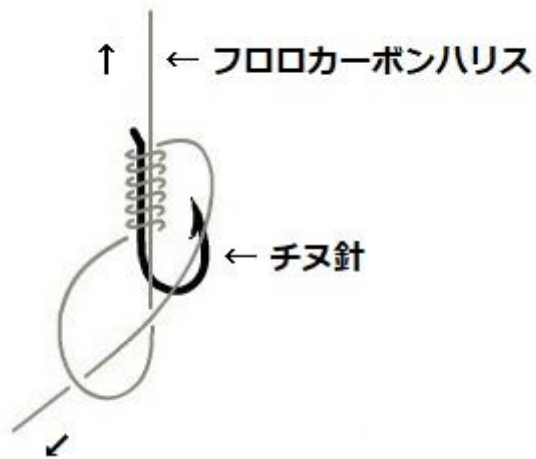
上の図解は、**道糸とハリスをヨリモドシに結束する時** の結び方になるダブルクリンチノットです。

ヨリモドシの輪に道糸またはハリスを2回通してから3～5回程度巻き付けて最後に唾で濡らし締め込みます。

唾で濡らしないと締め込む時の摩擦熱で傷んで結束強度が極端に低下する恐れがあります。

道糸やハリスを締め込む時は、必ず唾で濡らしてゆっくりかつ丁寧に締め込むようにしてください。

## ◆ 外掛け結び



上の図解は、**チヌ針とハリスを結束する時** の専用の結び方になる外掛け結びです。

ハリスをチヌ針の軸に5～8回程度巻き付けてから最後に輪の中に通して唾で濡らし締め込みます。

紀州釣りの仕掛けを作るために難易度と結束強度のバランスが良い3種類の結び方を習得することをおすすめします。

## **3－4 紀州釣りの仕掛けの作り方**

紀州釣りの実釣で使用する仕掛けの作り方の手順を図解付きで詳しく解説します。

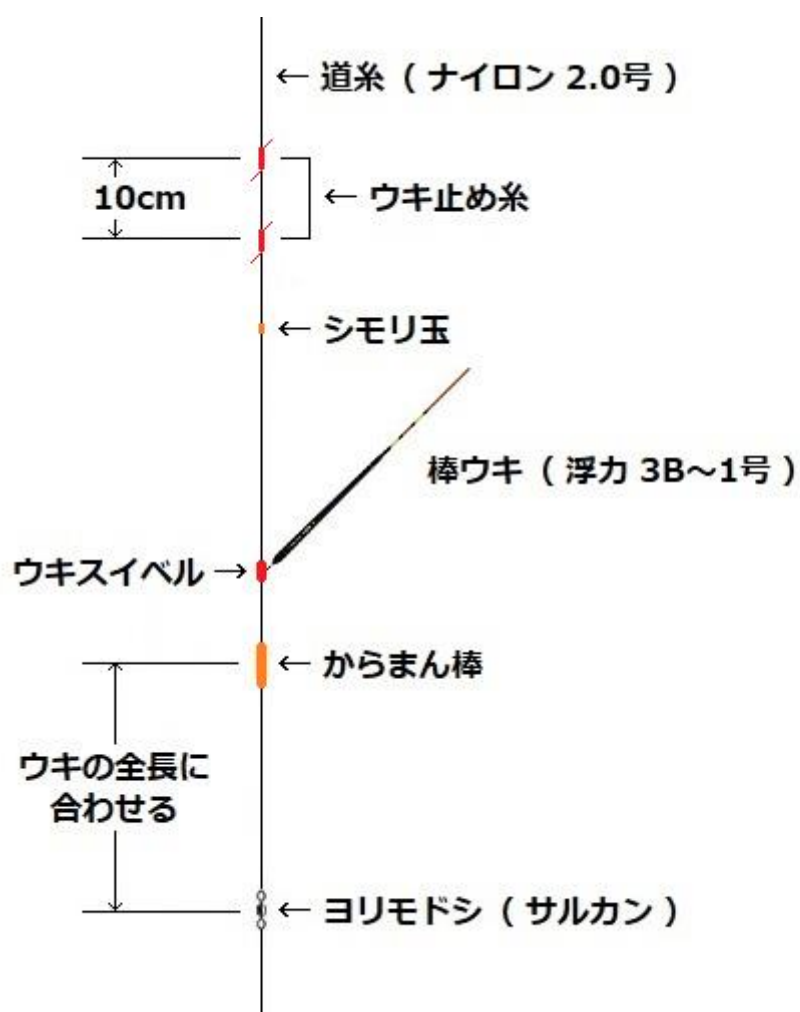
紀州釣りの仕掛けを作る時は、ロッドとリールの他に

1. ウキ止め糸
2. シモリ玉
3. ウキスイベル
4. 棒ウキ or 寝ウキ
5. からまん棒
6. ヨリモドシ（サルカン）
7. フロロカーボンハリス
8. チヌ針

上記の1～8のパーツを使用します。

ロッドにレバーブレーキリールまたはスピニングリールを取り付けてバールを起こします。

次にロッドのガイドに道糸を通してバールを戻せば紀州釣りの仕掛けを作る準備は完了になります。



【 仕掛け図A 】

## 手順 1

- ・ シモリ玉
- ・ ウキスイベル
- ・ からまん棒のゴム管

上記の3つの仕掛けパーツを道糸に通してからダブルクリンチノットでヨリモドシ（サルカン）と結束します。

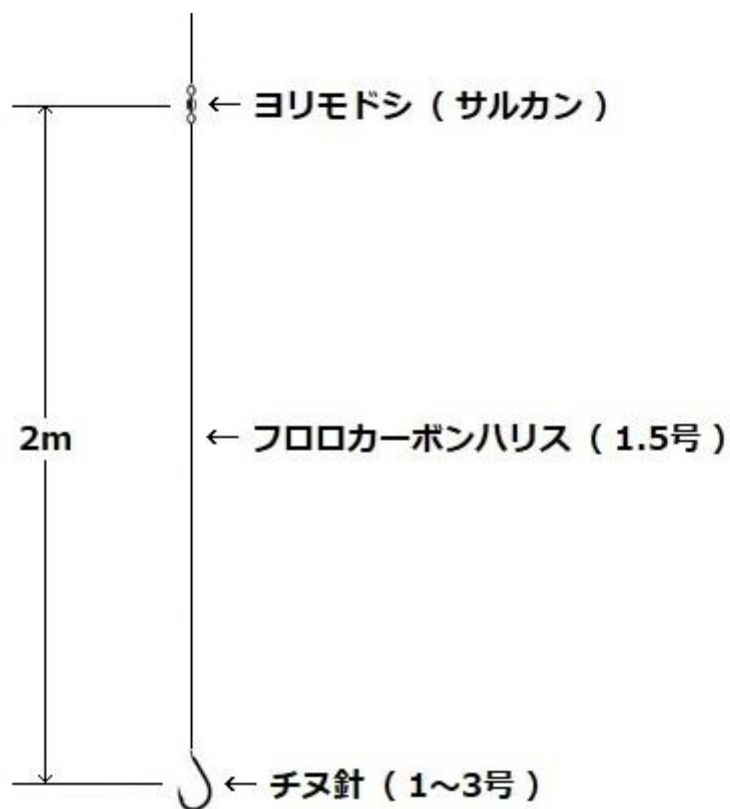
## 手順 2

ウキスイベルに棒ウキまたは寝ウキを取り付けて、ウキの全長に合わせて道糸にからまん棒を固定します。

## 手順 3

ロッドを穂先の部分から順番に伸ばしていきポイントの水深を予測して、道糸の2か所にウキ止め糸を結び付けます。

タナは、仕掛けが完成した後に設定します。



【 仕掛け図B 】

#### 手順 4

ヨリモドシ（サルカン）とフロロカーボンハリスをダブルクリンチノットで結束します。

## **手順 5**

最後にフロロカーボンハリスとチヌ針を外掛け結びで結束して  
紀州釣りの仕掛けは完成です。

掲載した2つの仕掛け図の内訳については

- ・ 仕掛け図A（道糸側）

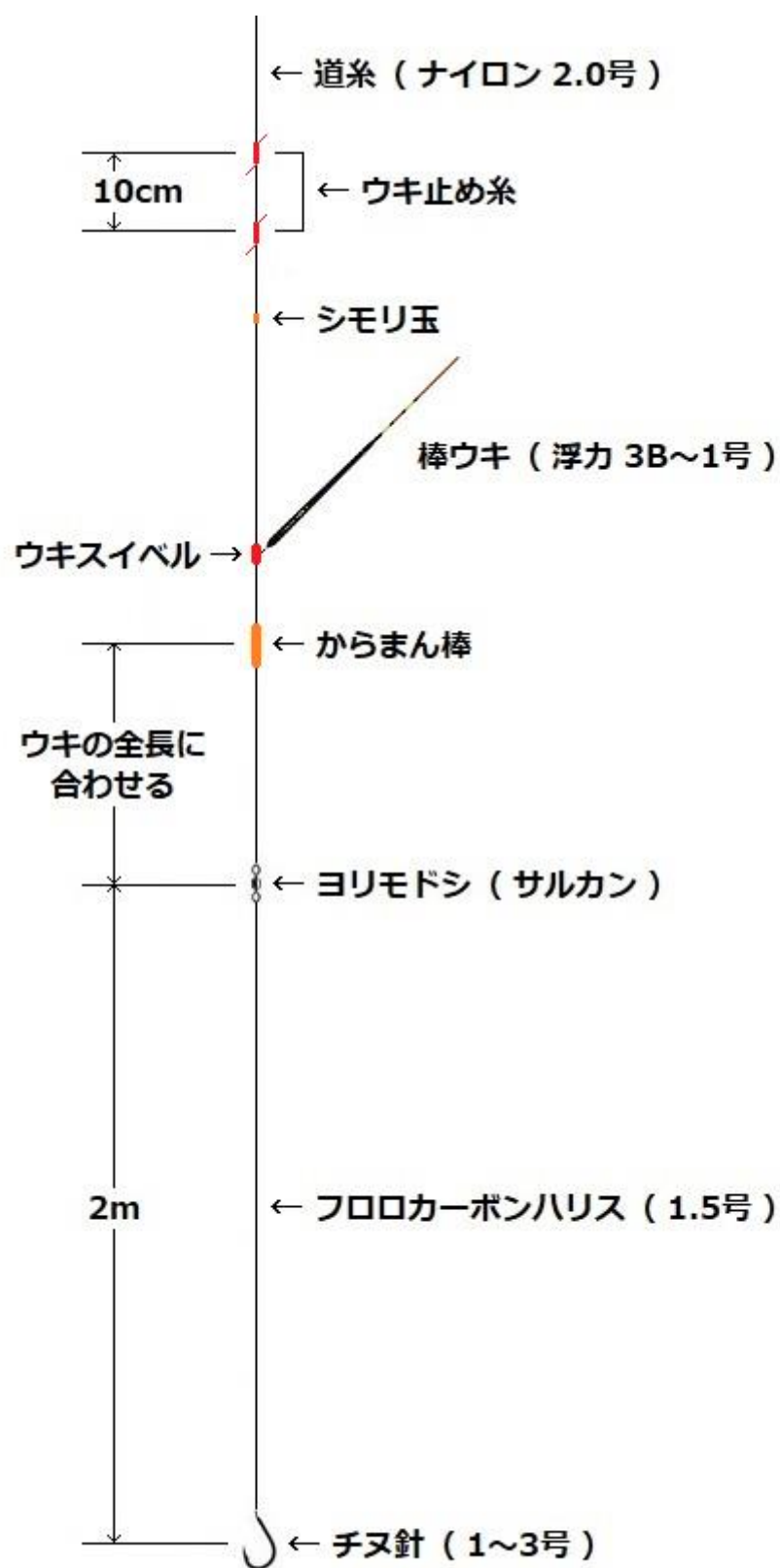
⇒ 手順 1・2・3

- ・ 仕掛け図B（ハリス側）

⇒ 手順 4・5

上記の通りです。

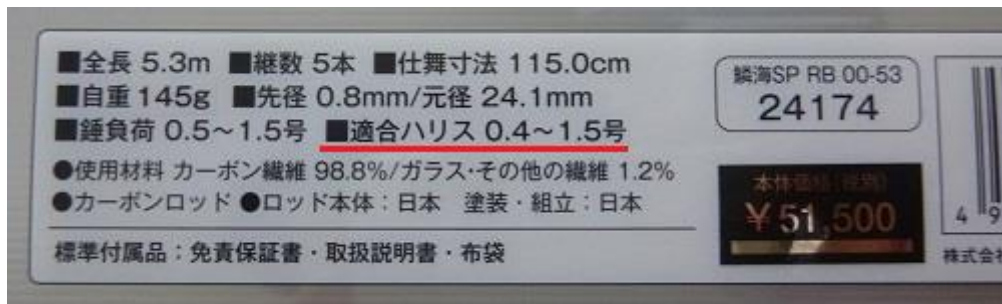
釣行前に自宅で道糸側の仕掛けだけ作り、釣り場に到着したら  
棒ウキまたは寝ウキを取り付けて、ハリス側の仕掛けを作って  
仕上げることも可能です。



【 紀州釣りの仕掛け完成図 】



紀州釣りシーンでは、道糸 **2号** に対しハリス **1.5号** が標準になり、良型のチヌ（黒鯛）に対応できます。



チヌ竿を使用する場合は、ハリス1.5号で50cmクラスの年無しまで獲ることができます。

一方で、ハリスが細くて強度に不安がある方は

- ・ 道糸 2号 / ハリス **1.7号**
- ・ 道糸 2号 / ハリス **2.0号**

ロッドのパッケージに記載された適合ハリスの範囲内であれば上記の組み合わせも可能です。

紀州釣りの実釣中にエサ取りの小魚が釣れるとチヌ針のチモト付近のハリスが傷付いてしまうこともあります。

※ チモト = 結び目

ハリスが傷付くと **仕掛けの強度が低下する** ため傷付いた部分だけカットして結び直しを行います。

最終的にハリスの長さが1.5m（1ヒロ）を切ったら新しいハリスに交換します。

チヌ針1号で紀州釣りの実釣をスタートして、エサ取りの小魚に飲み込まれてしまうような時は、サイズを2号または3号に段階的に上げて対応します。

## 4－1 紀州釣りのダンゴ配合餌

紀州釣りシーンで使用するダンゴは、米糠に押し麦やさなぎ粉などの集魚材を配合して自作することも可能です。

ダンゴを自作するためには、必要な材料をすべて揃えなければならぬため時間と手間も掛かります。



これから紀州釣りを始める初心者さんや自作するのが面倒くさいという釣り師の方には、釣具店などで販売されているダンゴ配合餌の使用をおすすめします。

例えば、マルキューの製品には

- ・ [ウキダンゴX（ エックス ）](#)
- ・ [紀州パワー](#)
- ・ [波止ダンゴチヌ](#)
- ・ [速戦爆寄せダンゴ](#)
- ・ [紀州マッハ](#) / [紀州マッハ攻め深場](#)

上記のダンゴ配合餌があり、教材に掲載したリンクから使い方などの詳細ページをご覧ください。



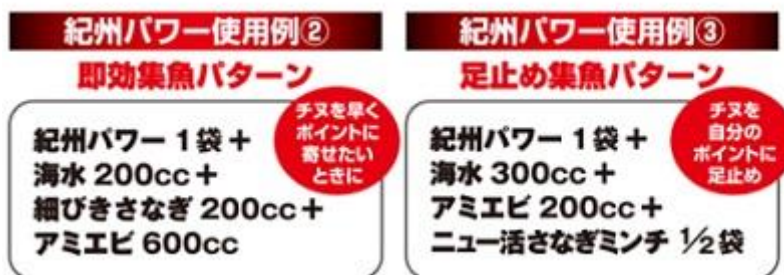
紀州釣りの初心者さんには、ダンゴの扱いやすさと集魚力を兼ね備えた **紀州パワー** をおすすめします。



集魚材が配合された完成品になっているので、釣り場で適量の海水を加えるだけで簡単に紀州釣りのダンゴが作れます。

紀州パワー 1 袋（ 4 kg ）で概ね 4 ～ 5 時間程度の紀州釣りを楽しむことができます。

紀州釣りを 1 日楽しむ場合は、紀州パワーを 2 ～ 3 袋用意する必要があります。



紀州パワーのパッケージの裏に記載された使用例を参考に各種集魚材を配合してアレンジすることも可能です。

単品使用パターン・即効集魚パターン・足止め集魚パターンの使用例が記載されているので

- ・ 春の乗っ込み時期

⇒ 使用例 ③ **足止め集魚パターン**

- ・ 夏と秋の時期

⇒ 使用例 ① **単品使用パターン**

- ・ 真冬の厳寒期

⇒ 使用例 ② **即効集魚パターン**

上記のように釣行する時期に合わせてダンゴの配合パターンを変えて、集魚力を更に高めることもできます。

市販のダンゴ配合餌を使用する場合は、製品ごとにパッケージの裏に使用例が記載されています。

ダンゴ配合餌の使用例の通りに作れば、釣行する時期の特徴に合わせて、あらゆる紀州釣りシーンに対応できます。



## 4－2 紀州釣りの自作のダンゴの配合レシピ

紀州釣りのダンゴの自作に挑戦したいという釣り師の方のために自作のダンゴの配合レシピを解説します。

初心者さんや自作するのが面倒な方は、釣具店で販売されているダンゴ配合餌を使用することで対応できますが、自作に挑戦する時は参考にしてください。



紀州釣りのダンゴを自作するにあたり、無人のコイン精米所やお米屋さんに行って材料の **米糠** を入手します。



無人のコイン精米所にある米糠は無料になり、お米屋さんにある米糠は無料または有料になります。

米糠が10kg程度あれば、紀州釣りを1日存分に楽しむ分量のダンゴを作ることができます。



紀州釣りのダンゴに適度なバラケ性能と比重を持たせて素早く海底のポイントに届けるため **砂** を配合します。

ダンゴの性能を損なわないように粒子が細かいさらさらとした手触りの砂が必要になるので、最寄りの砂浜で採取するまたはホームセンターなどで購入します。



更にチヌ（黒鯛）が好む **押し麦** と



集魚材の **細びきさなぎ** と **チヌパワー** を配合します。

海底で目立つ白い押し麦の視覚効果および細びきさなぎとチヌパワーに含まれる集魚成分の相乗効果でチヌ（黒鯛）を海底のポイントに集めます。

米糠と砂が紀州釣りのダンゴのベースになり、少量の集魚材を配合してダンゴの集魚力を高めます。

### ◆ 自作のダンゴの配合レシピ

- ・ 米糠 5000cc
- ・ 砂 1000cc
- ・ 押し麦 250cc
- ・ 細びきさなぎ 500cc
- ・ チヌパワー 500cc



合計5種類の材料をすべて混ぜ合わせて適量の海水を加えれば  
自作のダンゴ「 **基本の配合パターン** 」の完成です。

配合比率の通り作ると概ね4～5時間程度の紀州釣りを楽しむことができます。

紀州釣りを1日楽しむ場合は、2～3倍の量のダンゴを作って用意する必要があります。

チヌ（黒鯛）の活性が高くエサ取りの小魚も多い夏から秋の時期は、基本の配合パターンで対応できます。



刺し餌が残る時は、細びきさなぎやチヌパワーを更に200ccダンゴに配合すると集魚力がアップします。



オキアミ粉末の **よせアミ** を 200cc 程度ダンゴに配合しても  
集魚力をアップさせることができます。

生のオキアミとは異なり、常温保存も可能なため釣行時に用意  
しておくことをおすすめします。

チヌ（黒鯛）は、晩秋や初冬と春の乗っ込み時期に脂肪分が  
多い生さなぎを好んで食べる傾向が強いです。

1. 越冬に備えて体内に脂肪を蓄える
2. 産卵に備えて体力をつける

上記の理由が考えられます。



脂肪分が多く含まれる **ニュー活さなぎミンチ** を1 / 2 袋程度  
ダンゴに配合する方法もおすすすめです。

チヌ（黒鯛）の好物になる生さなぎの旨味と匂いがダンゴに  
プラスされて集魚力がアップすると同時に海底のポイントへの  
足止め効果も期待できます。

冷凍の真空パックになっているため解凍が必要ですが、乾燥さ  
せて粉末状に加工された状態の細びきさなぎよりも生さなぎの  
方が集魚効果は圧倒的に高くなります。

真冬の厳寒期と春先は、海水温の低下によりエサ取りの小魚は  
少なくなりますが、チヌ（黒鯛）の活性の方も低くなるため  
集魚力を積極的にアップさせる工夫が必要です。





簡単かつ有効な方法は、冷凍の **アミエビブロック** を解凍してダンゴに配合すると集魚力が大幅にアップします。

海水を加える代わりに水分を多く含むアミエビを手ですりつぶしながらダンゴに配合して仕上げます。

夏と秋にアミエビを配合するとチヌ（黒鯛）以外のエサ取りの小魚（スズメダイ、メジナ、アジ など）を海底のポイントに集め過ぎる恐れがあります。

一方で、真冬の厳寒期と春先は、逆にチヌ（黒鯛）を海底のポイントに集めたい時の特効餌になります。



アミエビの解凍作業が面倒な場合は、代わりに常温保存タイプの **アミドリッパ** を200cc程度ダンゴに配合してから最後に適量の海水を加えて仕上げることもできます。

残ったアミドリッパは、ペットボトルなどに入れて次回の釣行まで冷蔵庫または冷凍庫で保管します。

ダンゴの配合の基本は、チヌ（黒鯛）の活性およびエサ取りの小鱼が多いまたは少ないなど時期を踏まえて最適な集魚材を選び集魚力を調整します。

最後に1月～12月までを3か月単位で区切り、自作のダンゴのおすすめ配合パターンを紹介します。



- ・ 1～3月（ 真冬の厳寒期から春先の時期 ）

⇒ 基本の配合パターン + **アミエビ**

- ・ 4～6月（ 春の乗っ込み時期 ）

⇒ 基本の配合パターン + **ニュー活さなぎミンチ**

- ・ 7～9月（ 真夏から秋口の時期 ）

⇒ 基本の配合パターン

- ・ 10～12月（ 晩秋から初冬の時期 ）

⇒ 基本の配合パターン + **ニュー活さなぎミンチ**

上記のように1年を通して同じ配合パターンではなく時期ごとに最適な集魚材を選んでダンゴに配合します。

ダンゴの材料の配合比率の変更および異なる集魚材を配合して釣り師の皆様が独自にアレンジを加えることも可能です。

### 4－3 紀州釣りの刺し餌

チヌ（黒鯛）は、雑食で様々なエサを捕食するため紀州釣りシーンで使用する刺し餌の種類も豊富です。



雑食であるが故に海釣りの刺し餌であれば種類を問わず何でも食えると言っても過言ではないです。

エサ取り対策と食い渋り対策を考慮して、紀州釣りの釣行時に用意したい刺し餌をピックアップして紹介します。



## 1. オキアミ

オキアミは、海釣りシーンにおける **定番の刺し餌** になるため  
紀州釣りシーンでも使用します。

刺し餌の中では、柔らかくて食い込みも良いですが、エサ取り  
の小魚に取られやすいという一面もあります。

チヌ針に付ける時は、上の画像のように尻尾を切り取り、足を  
外側に向けてエビ反りの形に沿って付けるとダンゴを握った時  
に外れにくくなります。



⇒ くわせオキアミスペシャルチヌ

チヌ（黒鯛）が好むさなぎエキスと摂餌力を高める誘引剤の  
ウルトラバイト・アルファを配合したオキアミです。

真冬の厳寒期や春先の刺し餌を食い渋りやすい時期および春の  
乗っ込み時期は特効餌になります。



⇒ くわせオキアミスーパーハードチヌ

チヌ（黒鯛）が好むさなぎの10倍濃縮強力エキス「チヌにこれだ！！」を配合したオキアミです。

オキアミにハード加工を施して、エサ持ちを良くしてあるためエサ取りの小魚が多い夏や秋の時期におすすめです。



⇒ くわせ丸えびイエロー

くわせオキアミスーパーハードチヌが瞬殺されてしまうような時期は、くわせ丸えびイエローも有効になります。

ハード加工したオキアミより硬い殻が付いているためエサ取りの小魚に対する耐久性は更に高くなります。

黄色く染めてあるためアピール力もあり、食い渋る時はむき身にして使用することもできます。

- ・ エサ取り対策 = 殻付き
- ・ 食い渋り対策 = むき身

くわせ丸えびイエローは、上記のように釣況に応じて殻付きとむき身の両方の使い分けができます。



## 2. コーン

コーンは、海中で目立つため視覚へのアピール力が高く黄色いエサに強い反応を示すチヌ（黒鯛）に有効です。

エサ取りの小魚が多くてオキアミがまったく通用しない釣況になった時は、次に繰り出す一手としてコーンがエサ取り対策の刺し餌になります。

チヌ針に付ける時は、上の画像のようにチヌ針のサイズに合わせて3～5粒程度付けます。



自然界の海中には存在しない植物性のエサですが、上の画像のように釣ったチヌ（黒鯛）の胃袋の中には、ダンゴに配合した押し麦の他に黄色いコーンが何粒も入っています。





⇒ ガツガツコーン

チヌ（黒鯛）が好む生さなぎのミンチに漬け込んで摂餌力をアップさせたコーンです。

真冬の厳寒期や春先を除きエサ取り対策ができるようにコーンは用意しておきたい刺し餌です。



紀州釣りの釣行時に集魚材のニュー活さなぎミンチをダンゴに配合する場合は、事前に釣具店などで購入しておいて





冷蔵庫で解凍してから釣行日の前日にニュー活さなぎミンチと缶詰のスイートコーンを混ぜ合わせます。

そして、冷蔵庫で一晩漬け込むと上の画像のように生さなぎの旨味がたっぷりと染み込んだガツガツコーンと同等の刺し餌のコーンが完成します。

- ・ ニュー活さなぎミンチ 100g
- ・ スイートコーン 50g

上記のように **2 : 1** の割合で漬け込みます。



### 3. さなぎ

さなぎは、集魚材でダンゴに配合しますが、チヌ（黒鯛）に食わせる刺し餌としても使用します。

エサ取りの小魚が多くてオキアミがまったく通用しない釣況になった時は、次に繰り出す一手としてさなぎもエサ取り対策の刺し餌になります。

チヌ針に付ける時は、上の画像のように1匹のさなぎでチヌ針の全体を覆い隠すように付けます。



⇒ 活丸さなぎ

チヌ（黒鯛）が好むニュー活さなぎミンチと同じ素材を使用した食わせ用のさなぎです。

真冬の厳寒期や春先を除きエサ取り対策ができるようにさなぎも用意しておきたい刺し餌です。



集魚材のニュー活さなぎミンチには、刺し餌として使用できるさなぎも付属されています。

よって、ダンゴに配合する場合は、刺し餌として使用する活丸  
さなぎを購入する必要はありません。



#### 4. 練り餌

練り餌は、見た目の色と香りおよび配合成分によって集魚力や  
摂餌力などの性質が異なります。

チヌ（黒鯛）にとって大好物のエサになり、紀州釣りシーン  
においては、エサ取り対策および食い渋り対策で多用するため  
アタリエサとしての占有率も高いです。

チヌ針に付ける時は、上の画像のように練り餌でチヌ針を包み込み手で練って涙形または球形にして付けます。

練り餌の付け方の基本は、チヌ針のサイズに合わせた大きさで付けて、エサ取りの小魚が多い時は、更に一回り二回り大きく付けることで耐久性も向上します。



⇒ 高集魚レッド

チヌ（黒鯛）が好むアミエビ・オキアミ・さなぎ粉と強烈な臭いを放つニンニクを配合した赤い練り餌です。

刺し餌のオキアミ・コーン・さなぎが残らない時は、チヌ針に付ける大きさを任意で自由に調整できる高集魚レッドをメインに使用して紀州釣りを組み立てます。



### ⇒ 食い渋りイエロー

チヌ（黒鯛）が好むアミエビやアミノ酸と食い渋り対策できるように摂餌力を高める誘引剤のウルトラバイト・アルファを配合した甘いプリンの香りがする黄色い練り餌です。

黄色いエサに強い反応を示すチヌ（黒鯛）の習性を踏まえて開発されているためアピール力も抜群です。

刺し餌のオキアミ・コーン・さなぎが残る時は、食い渋りイエローを使用して反応を見ます。

高集魚レッドと食い渋りイエローは、チヌ（黒鯛）に対しての集魚効果および摂餌効果が高く食いが良いため時期を問わず紀州釣りの釣行時に用意しておきたい練り餌です。

### ◆ 複合餌のテクニック



紀州釣りシーンでは、上の画像のようにオキアミ+コーンなどチヌ針に2種類の刺し餌を同時に付ける複合餌もエサ取り対策として有効になります。

他には、オキアミ+さなぎやコーン+さなぎという組み合わせにする複合餌のパターンも可能です。

高集魚レッドと食い渋りイエローの場合は、お互いを軽く練り合わせれば **マール練り餌** として使用できます。

◆ 真冬の厳寒期 ～ 春先（ 1～3月 ）

- ・ くわせオキアミスペシャルチヌ
- ・ 高集魚レッド
- ・ 食い渋りイエロー

食い渋り対策の刺し餌を用意します。

◆ 春の乗っ込み時期 ～ 初冬（ 4～12月 ）

- ・ くわせオキアミスーパーハードチヌ
- ・ くわせ丸えびイエロー
- ・ ガツガツコーン
- ・ 活丸さなぎ
- ・ 高集魚レッド
- ・ 食い渋りイエロー

エサ取り対策と食い渋り対策の刺し餌を用意します。



紀州釣りは、エサ取りの有無に関わらずダンゴをコンスタントに打ち返していく釣りになります。

そして、オキアミ・コーン・さなぎ・練り餌をエサ取りの状況に合わせて使い分けます。

エサ取りの小魚が極端に多くて耐えられない場合は

- ・ ボケジャコ（ニホンスナモグリ）
- ・ カニ
- ・ フナムシ
- ・ イガイ

上記を刺し餌にするのも1つの手です。

ボケジャコは砂浜で、カニ・フナムシ・イガイは海岸や釣り場などで採取して現地調達することも可能です。

また、生きエサのボケジャコとカニは、最寄りの釣具店で取り扱っている場合もあります。

## 4－4 紀州釣りの刺し餌の使い分け方

紀州釣りシーンでは、エサ取りの小魚の状況を見ながら数種類の刺し餌を臨機応変に使い分けていきます。



基本的に **オキアミ・コーン・さなぎ・練り餌** などの刺し餌を使い分けてエサ取り対策を行いながらチヌ（黒鯛）の目先を変えてアタリエサを探ります。

特にエサ取りの小魚が多くなる初夏から晩秋の時期は、数種類の刺し餌を使い分けないと苦戦します。

◆ 刺し餌を使い分ける目的

1. エサ取り対策

2. チヌ（黒鯛）の目先を変える



紀州釣りの実釣を開始した直後の **1投目・2投目・3投目** は  
チヌ針にオキアミを付けてダンゴを握り様子を見ます。

刺し餌のオキアミが取られてしまう時は、既に海底のポイント  
にエサ取りの小魚がいると判断します。

⇒ **エサ取り対策が必要**



刺し餌のオキアミが通用しない時は、次の一手としてチヌ針にコーンやさなぎを付けてダンゴを握り様子を見ます。

オキアミに強い反応を示すエサ取りの小魚は、オキアミ以外の刺し餌を使用すると簡単に回避できます。



更に練り餌の高集魚レッドも併用していくとチヌ（黒鯛）を飽きさせることなく目先を変えることができます。

コーンやさなぎが無反応だった時は、練り餌の高集魚レッドを使用した途端に食ってくることもあります。

エサ取りの小魚が多い時は、敢えてオキアミを避けて

- ・ コーン
- ・ さなぎ
- ・ 練り餌（高集魚レッド）

上記の刺し餌を **ランダムに選んで使用** します。

紀州釣りの実釣中に前アタリと思われるアタリが出ても最終的に本アタリまで発展せず針掛かりしなかった時は、**次の一投も同じ刺し餌を使用** して勝負します。

海底のポイントにエサ取りの小魚たちが大量に集まり、猛攻が激しくなった時は、チヌ針にどの刺し餌を付けてもすぐに取りられてしまうようになります。

諦めずに根気よくダンゴを打ち返して、エサ取りの小魚たちと戦いながらチヌ（黒鯛）の時合いが訪れるのを待ちます。

エサ取りの小魚の猛攻に耐えられない釣り師の方は、カニなどの刺し餌も併用することをおすすめします。

歯が鋭くてカニの硬い甲羅も噛み砕いてしまうフグなどの厄介なエサ取りでない限り通用します。



刺し餌のカニを入手できない時は、上の画像のパワークラブがチヌ（黒鯛）に対応しているため代用も可能です。

チヌ（黒鯛）は、海中のヒエラルキー（階層性）の頂点に君臨する魚です。

よって、食い気のあるチヌ（黒鯛）がダンゴに近付くとエサ取りの小魚たちは逃げ始めます。

⇒ 急に刺し餌が残るようになった時はチャンス！



海底のポイントの雰囲気が大きく変わり、急に刺し餌が残るようになった時は、チヌ針に練り餌の食い渋りイエローを付けてダンゴを握り勝負に出ます。

反応が無い時は、次の一手としてチヌ針にオキアミや練り餌の高集魚レッドを付けてダンゴを握り様子を見ます。

チヌ（黒鯛）がダンゴに近付きエサ取りの小魚たちが逃げた時は、これで本命のアタリが出せます。

ボケジャコ（ニホンスナモグリ）を用意している場合は、このタイミングでも使用することをおすすめします。

一方で、チヌ針に付けた刺し餌がすべて無反応で残り、一向に何も起こらない時は

1. エサ取りの小魚たちが去った
2. チヌ（黒鯛）がポイントにいない
3. 底潮の流れが止まって捕食活動を停止した

上記の3つが主な原因と考えられます。

また、釣り場の周囲が暗くなり始めて夜に変わるタイミングで夜行性以外のエサ取りの小魚はいなくなり、急に刺し餌が残るようになることもあります。



上記の釣況に該当する時もチヌ針に練り餌の食い渋りイエローなどを付けてダンゴを握り様子を見ます。

チヌ（黒鯛）は、警戒心が強いいため暫くの間はダンゴの周囲にいて様子を伺っていて、エサ取りの小魚たちがいなくなった途端に捕食活動を開始してアタリが出ることもあります。

紀州釣りの実釣を開始した直後の **1投目・2投目・3投目** も刺し餌のオキアミがまったく取られない時は、海底のポイントにエサ取りの小魚がいないと判断します。

⇒ **エサ取り対策は不要**

エサ取りの小魚がいらない時は、基本的に用意した刺し餌を自由に選んで使用することができます。

ダンゴの投入を繰り返していくうちにエサ取りの小魚が海底のポイントに集まることもあるので、オキアミがすぐに取りられるようになった時点でエサ取り対策を行います。



**真冬の厳寒期と春先は、食い渋りを意識して、食い込みが良い  
オキアミや食い渋りイエローをメインに使用します。**



**上の画像のように半透明だった刺し餌のオキアミが冷たくなり  
白く変色して戻って来る時があります。**

**海底のポイントにエサ取りの小魚たちがいなくて底潮も冷たい  
状態と考えられます。**

チヌ（黒鯛）が近くにいても活性が低くて刺し餌を食い渋る可能性が高いためチヌ針に練り餌の食い渋りイエローを付けてダンゴを握り様子を見ます。

紀州釣りの実釣中は、エサ取りの小魚の状況を見ながら数種類の刺し餌を使い分けるようにしてください。

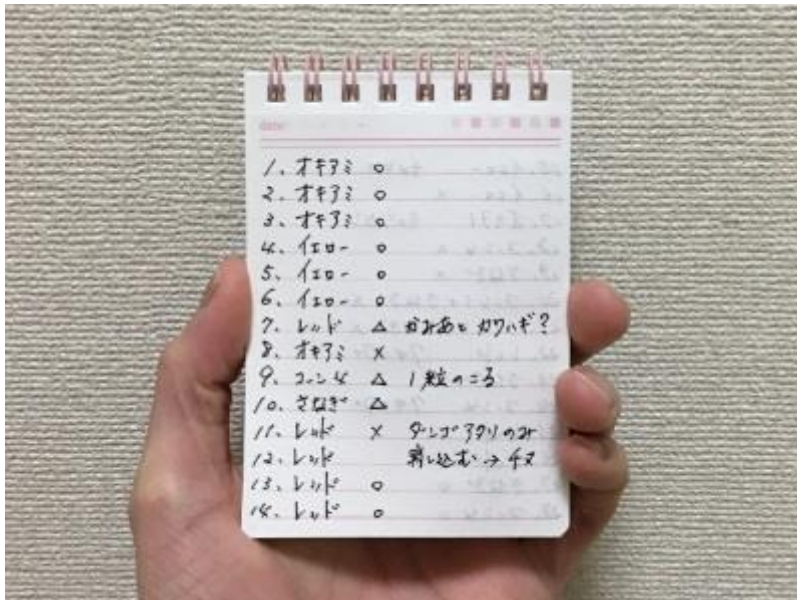
「 刺し餌は、オキアミだけ用意する 」

上記のようなスタイルを取るとエサ取りの小魚たちが集まった時に対策することができずお手上げ状態になります。

紀州釣りシーンでは、刺し餌の使い分け次第で釣果が決まると言っても過言ではないため釣行時にかかるエサ代はケチらずに数種類用意することをおすすめします。

## 4－5 紀州釣りの刺し餌の使い分け実釣データ

紀州釣りの実釣でチヌ（黒鯛）のアタリを出して釣るまでに  
刺し餌を使い分けた実釣データを公開します。



上の画像のように釣り場でメモを取り、使用した刺し餌を記録  
に残しておく。帰宅後に当日の実釣を振り返り、検証して次回  
の釣行に活かすこともできます。

実釣データに解説も付け加えているので、よろしければ実釣で  
刺し餌を使い分けていく時の参考にしてください。

本文中で使用している記号は、紀州釣りの仕掛けを回収した時の **刺し餌の有無や状態** を表しています。

⇒ ○ : 全部残る / △ : 一部残る / × : 残らない

1 投目 : オキアミ ○

2 投目 : オキアミ ○

3 投目 : オキアミ ○

紀州釣りの実釣を開始して 1 ～ 3 投目にオキアミが残ったため  
エサ取りの小魚は集まっていないと判断します。

チヌ（黒鯛）が食い渋っている可能性も考慮して、練り餌の  
食い渋りイエローに変更します。

4 投目 : 食い渋りイエロー ○

5 投目 : 食い渋りイエロー ○

6 投目 : 食い渋りイエロー ○

チヌ（黒鯛）がポイントの近くにいて刺し餌を食い渋っている場合は、この時点で急にアタリが出ることもあります。

7 投目：高集魚レッド △ 噛み跡 カワハギ？

練り餌の高集魚レッドにカワハギの仕業だと思われる噛み跡が付いた状態で戻ります。

8 投目：オキアミ ×

紀州釣りの実釣を開始してから 8 投目でエサ取りの小魚たちが集まり始めてオキアミが取られます。

9 投目：コーン（4 粒） △ 1 粒だけ残る

10 投目：さなぎ △

エサ取り対策で使った刺し餌のコーンとさなぎは、中途半端に少しだけ残る状態です。

**1 1 投目：高集魚レッド × ダンゴアタリ発生！**

ダンゴアタリが発生したものの次のステップになる前アタリや本アタリには発展せずに終わります。



**1 2 投目：高集魚レッド「 ウキが消し込むアタリ 」**

ダンゴアタリが発生した次の1投で突然ウキが消し込むというチヌ（黒鯛）のアタリが出ます。

**1 3 投目：高集魚レッド ○**

**1 4 投目：高集魚レッド ○**

練り餌の高集魚レッドがアタリエサになったため同じ刺し餌で  
続行しましたが、反応がなくなります。

15投目：食い渋りイエロー ★ マダイ

そして、練り餌の食い渋りイエローに刺し餌を変更してみると  
エサ取りのマダイ（チャリコ）のアタリが出ます。

夕方になるとエサ取りの小魚たちの猛攻が始まって刺し餌がこ  
とごとく瞬殺されるようになります。

16投目：食い渋りイエロー ×

17投目：オキアミ ★ キュウセン

18投目：コーン（4粒） ×

19投目：さなぎ ×

20投目：コーン（1粒）+ さなぎ ×

21投目：コーン（1粒）+ さなぎ ×

22投目：高集魚レッド ★ クサフグ

23投目：さなぎ ×



24投目：コーン（4粒） ★ クサフグ

25投目：高集魚レッド ×

26投目：高集魚レッド ×

27投目：さなぎ ○

28投目：コーン（4粒） ○

29投目：オキアミ ○

30投目：オキアミ ○



31投目：オキアミ「前アタリ → 本アタリ」

釣り場の周囲が暗くなり始めたタイミングで刺し餌が残るようになり、チヌ（黒鯛）のアタリが出ます。

3 2 投目 : オキアミ ○



3 3 投目 : 食い渋りイエロー「 前アタリ → 本アタリ 」

オキアミが残るため練り餌の食い渋りイエローに変更してみたところ一発でチヌ（黒鯛）のアタリが出ます。

3 4 投目 : 食い渋りイエロー ○

3 5 投目 : 食い渋りイエロー ★ ゴンズイ

3 6 投目 : オキアミ ★ ネンブツダイ

3 7 投目 : コーン（ 4 粒 ） ○

3 8 投目 : さなぎ ○

39投目：高集魚レッド ○

40投目：食い渋りイエロー ○

41投目：オキアミ ★ ネンブツダイ

ゴンズイとネンブツダイが釣れ始めたので、チヌ（黒鯛）の時合いは終了と判断して納竿します。

当日の刺し餌の占有率は

- ・ オキアミ 27%（11/41）
- ・ コーン 12%（5/41）
- ・ さなぎ 12%（5/41）
- ・ コーン+さなぎ 5%（2/41）
- ・ 高集魚レッド 22%（9/41）
- ・ 食い渋りイエロー 22%（9/41）

上記の通りです。

## 4－6 紀州釣りの進化系ハイブリッドダンゴ

紀州釣りのダンゴを扱えるようになったらダンゴの配合を更に工夫して **ハイブリッドダンゴ** にすることも可能です。



### ◆ ハイブリッドダンゴとは？

ハイブリッドダンゴとは、紀州釣り専用のダンゴ配合餌の中にチヌ（黒鯛）の釣果実績が高いフカセ釣り専用の配合餌を混ぜてハイブリッド化させたダンゴです。

フカセ釣り専用の配合餌の良い部分（ 集魚成分 ）を紀州釣りのダンゴの中に取り入れて性能を強化していきます。

紀州釣りとフカセ釣りの両方の配合餌の力でチヌ（ 黒鯛 ）をポイントに集めて釣果をアップさせることを目的に筆者が独自に試作および試釣を行い完成しました。



- ・ 爆寄せチヌ
- ・ 波止ダンゴチヌ

上記の配合餌を使用します。

フカセ釣り専用の配合餌の爆寄せチヌには、チヌ（黒鯛）を強力に寄せて食わせる集魚成分の他に



赤と緑のタブレット・ムギ・コーン・カキ殻などの荒い粒子も多く配合されています。

よって、チヌ（黒鯛）を自分のポイントに足止めして時合いを逃しにくくする効果も期待できます。

それでは、紀州釣りのハイブリッドダンゴの具体的な作り方と目的に合わせた活用方法について解説していきます。





波止ダンゴチヌ **1 袋 ( 3 kg )** に対してフカセ釣りの配合餌の爆寄せチヌを **1 kg** 配合します。

お互いの配合比率は **3 : 1** になり、配合餌の占有率 ( % ) に換算すると

- ・ 波止ダンゴチヌ **7 5 %**
- ・ 爆寄せチヌ **2 5 %**

上記の通りとなります。



**波止ダンゴチヌと爆寄せチヌをよく混ぜ合わせれば紀州釣りの  
ダンゴがハイブリッド化します。**



**※ 拡大画像**





次にハイブリッド化したダンゴの中に集魚材の細びきさなぎとチヌパワーを **400cc** ずつ配合します。



最後に海水を **600cc** 加えて、よく混ぜ合わせれば紀州釣りのハイブリッドダンゴが完成します。

波止ダンゴチヌの特徴である握りやすさと適度なタイミングで崩壊するバラケ性能を踏襲しているため初心者さんであっても扱いやすいハイブリッドダンゴに仕上がります。



気温 30℃ 以上 / 湿度 80% 以上

上記の条件下で海水を 600cc 加えて作るとしっとりタッチのハイブリッドダンゴになります。

水分量については、当日の天気・気温・湿度など総合的に考慮して微調整してください。

### ◆ ハイブリッドダンゴの材料の分量と時間の目安



- ・ 波止ダンゴチヌ **1袋 ( 3kg )**
- ・ 爆寄せチヌ **1kg**
- ・ 細びきさなぎ **400cc**
- ・ チヌパワー **400cc**
- ・ 海水 **600cc**

上記の分量でハイブリッドダンゴを作ると釣り場で4～5時間  
紀州釣りの実釣を楽しむことができます。



ハイブリッドダンゴを作る時の注意点として、性能を安定させるために仕上がりを毎回均一にする必要があります。

材料の分量は、キッチン計りおよび計量カップを使用して正確にはかり取り配合することをおすすめします。

今回解説したハイブリッドダンゴは、目的に合わせてアレンジを加えて活用することも可能です。

チヌ（黒鯛）が好むさなぎの存在感を高めたい時は、細びきさなぎの代わりに



生タイプのニュー活さなぎミンチを **1 / 2 袋** 配合することで集魚力が更にアップします。

例えば、チヌ（黒鯛）が食欲旺盛になる春の乗っ込み時期や秋の時期などの釣行時に配合すると生さなぎの脂肪分と強烈な臭いで嗅覚と味覚を刺激してアピールできます。

また、ライバルの釣り師が多い釣り場などでも集魚力を高めることができるので効果を発揮します。



チヌ（黒鯛）の活性が低くなり、食い渋りが起きやすい真冬の厳寒期や春先の時期などは、海水の代わりに生のアミエビをすりつぶしながら混ぜ合わせて配合するとハイブリッドダンゴの集魚力を最大限に高めることができます。

短時間の釣行でとにかく早くチヌ（黒鯛）を自分のポイントに集めたい時も生のアミエビが効果を発揮します。

フカセ釣りを楽しむ釣り師が多い釣り場は、チヌ（黒鯛）が撒き餌（コマセ）のオキアミに強く反応している可能性もあるためそのような場面での対策として、ハイブリッドダンゴの中に配合していく方法も有効です。



生のオキアミ **500cc** をすりつぶしながら混ぜ合わせて配合して最後に海水を加えて仕上げることもできます。

紀州釣りのハイブリッドダンゴは、**紀州釣りの配合餌+フカセ釣りの配合餌** という配合パターンが基本になります。

そして、チヌ（黒鯛）にアプローチするための集魚材などを目的に合わせて追加で配合していきます。



- ・ チヌパワームギススペシャル
- ・ チヌパワースペシャル MP
- ・ メガミックスチヌ

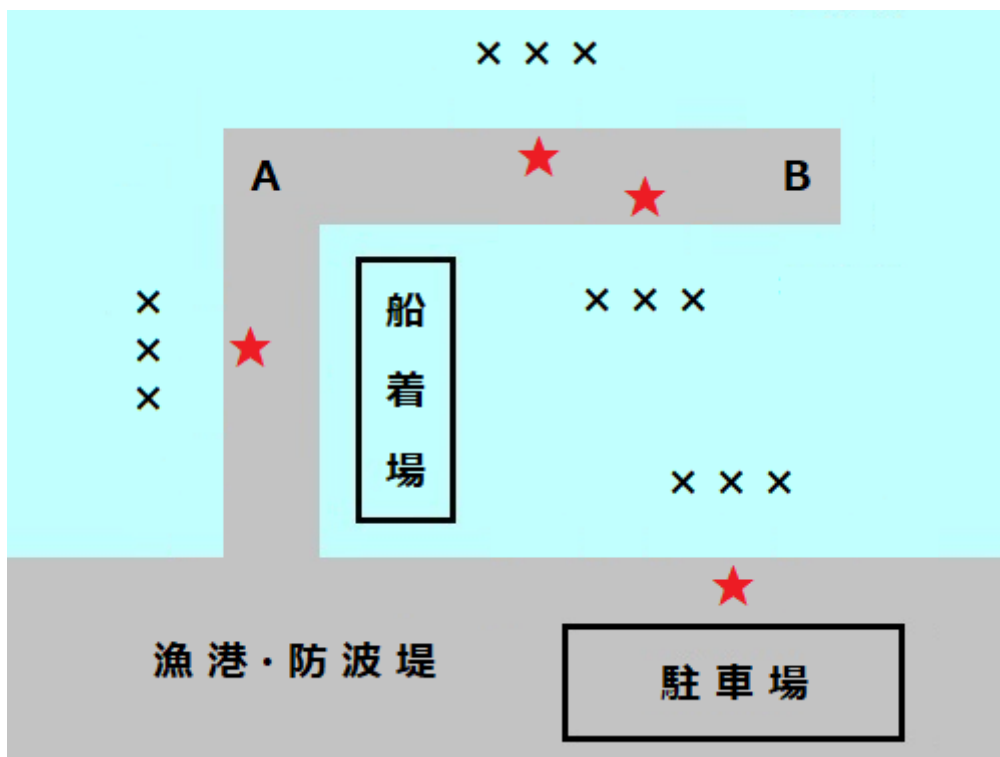
爆寄せチヌ以外の集魚力が高いフカセ釣りの配合餌を使用して  
もハイブリッドダンゴを作ることができます。

紀州釣りでチヌ（黒鯛）の釣果アップを追求する研究熱心な  
釣り師の方は、オリジナルハイブリッドダンゴの作成にもぜひ  
チャレンジしてみてください。



## 5 - 1 釣り座の決め方

防波堤などの釣り場に到着したら最初に紀州釣りの実釣を行う  
釣り座を決めて確保します。



上に掲載した画像は、漁港などにある防波堤の釣り場を上から眺めた時のイメージ図です。

一般的に防波堤の曲がり角になる A および一番先端になる B が釣り座を決める時の第一候補になります。

一方で、紀州釣りの場合は **ダンゴを着底させ海底にポイントを作る釣り** になるためAおよびBの潮の流れが速いまたは複雑になるような場所は、釣りにくく不向きです。

紀州釣りの場合は、潮の流れが比較的に緩くなる★印で示した場所が釣り座としておすすめです。



条件が良い漁港の場合は、自分の釣り座のすぐ後ろまたは隣に車を駐車して紀州釣りを楽しめる釣り場もあります。

紀州釣りを楽しむ釣り師を見たことがある釣り場かつ該当する釣り座が空いていたら確保するのもアリです。



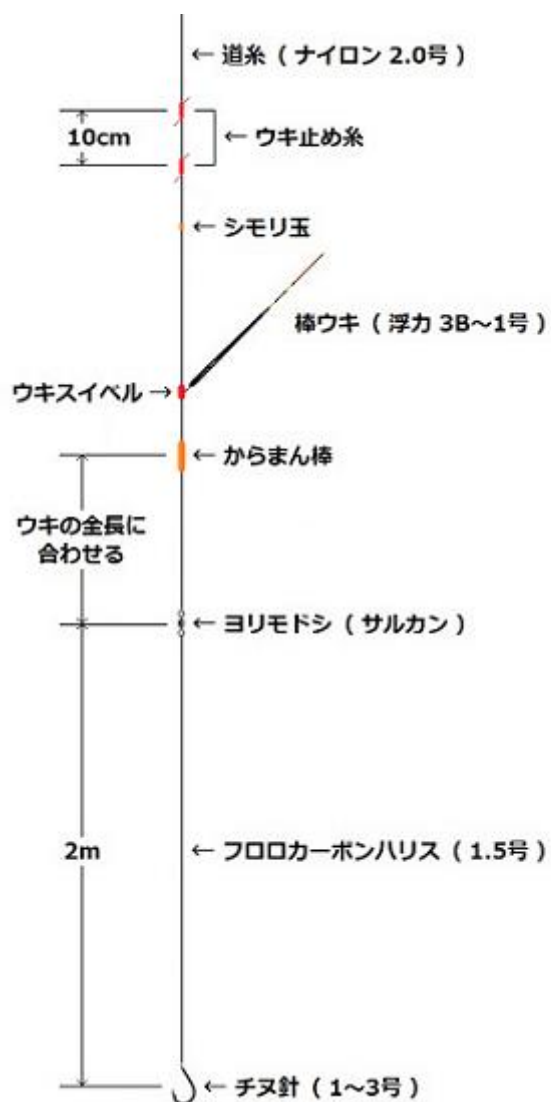
紀州釣りの釣行時は、漁業関係者の迷惑にならないように決められたルールとマナーを守ります。

◆ 釣り師の心得

1. 立入禁止および釣り禁止の場所に入らない
2. 駐車禁止の場所に駐車しない
3. ゴミは持ち帰る

上記の三箇条を必ず守ってください。

釣り座を確保したら **紀州釣りの仕掛け** を作ります。



【 仕掛けの詳細ページ 】

⇒ 3 - 4 [紀州釣りの仕掛けの作り方](#)

## 5－2 ダンゴの作り方

紀州釣りの実釣を行う釣り座を確保して、仕掛けの作成が完了したらダンゴを作ります。



今回は、初心者さんにもおすすめのダンゴ配合餌の紀州パワーを使用して作り方を詳しく解説していきます。

紀州釣りのダンゴを作る時は、最終的に釣り場で海水を加えて仕上げますが、水分量の調整次第でダンゴの割れやすさなどの基本性能を変えることができます。

## 紀州パワー使用例①

### 単品使用

紀州パワー 1袋 +  
海水 500cc (500ml ペットボトル1本)



①「紀州パワー」1袋をバケツなどに入れ、海水500ccを加えます。海水がダンゴに均一に行きわたるように、よく混ぜ合わせます。

②少し時間を置き、ダンゴに海水がなじんだら、できあがりです。

※ 水深やエサ取りの状況に応じて、ダンゴの握る回数を調整してください。



使用例の通り海水を500cc加えて作った場合は、水分多めのしっとりしたタッチのダンゴに仕上がります。

まとまりやすく割れにくいダンゴになるためエサ取りの小魚が多い釣況下で有効になります。

逆に海水の量を400ccに減らして作った場合は、水分少なめのパサパサしたタッチのダンゴに仕上がります。

バラケやすく割れやすいダンゴになるためエサ取りの小魚が少ない釣況下で有効になります。

⇒ 海中で水分をより多く吸収して早くバラケる

紀州釣りのダンゴは、水分を調整することでしっとりダンゴとパサパサダンゴ2通りの作り方があります。

紀州釣りでは、ダンゴの仕上がりが毎回均一になるように計量カップを使用して海水を加えることをおすすめします。

長時間の紀州釣りの釣行で市販のダンゴ配合餌を2～3袋用意した場合は、一気に作らずに1袋ずつ作ります。



自作のダンゴを使用する場合は、使用量に対ししっとりダンゴとパサパサダンゴに仕上がる水分量をメモに残しておくとなりに作る時に目安を把握しやすくなります。

- ・ エサ取りが多い

⇒ **割れにくいしっとりダンゴ**

- ・ エサ取りが少ない

⇒ **割れやすいパサパサダンゴ**

最初は、パサパサダンゴで様子を見て、エサ取りの小魚が多くダンゴがすぐに割れてしまう時は、少量の海水を加えて混ぜ直してしっとりダンゴに変更する使い分けも可能です。

紀州釣りの実釣中は、当日の天気・気温・湿度により、ダンゴの水分が徐々に蒸発します。

特にバツカンの中に入れてあるダンゴの表面は、直射日光や風に晒され乾燥しやすい部分になります。



紀州釣りの実釣中にダンゴがまとまりにくく（握りにくく）  
なった時や空中分解が多発するようになった時は、手水を加え  
混ぜ直すことで性能が改善します。

【 [ダンゴの詳細ページ](#) 】

⇒ 4－1 [紀州釣りのダンゴ配合餌](#)

⇒ 4－2 [紀州釣りの自作のダンゴの配合レシピ](#)

### 5－3 タナの取り方（ウキ下の設定）

仕掛けとダンゴの作成が完了したら紀州釣りの実釣を開始する前にタナ取り作業を行ってウキ下を設定します。

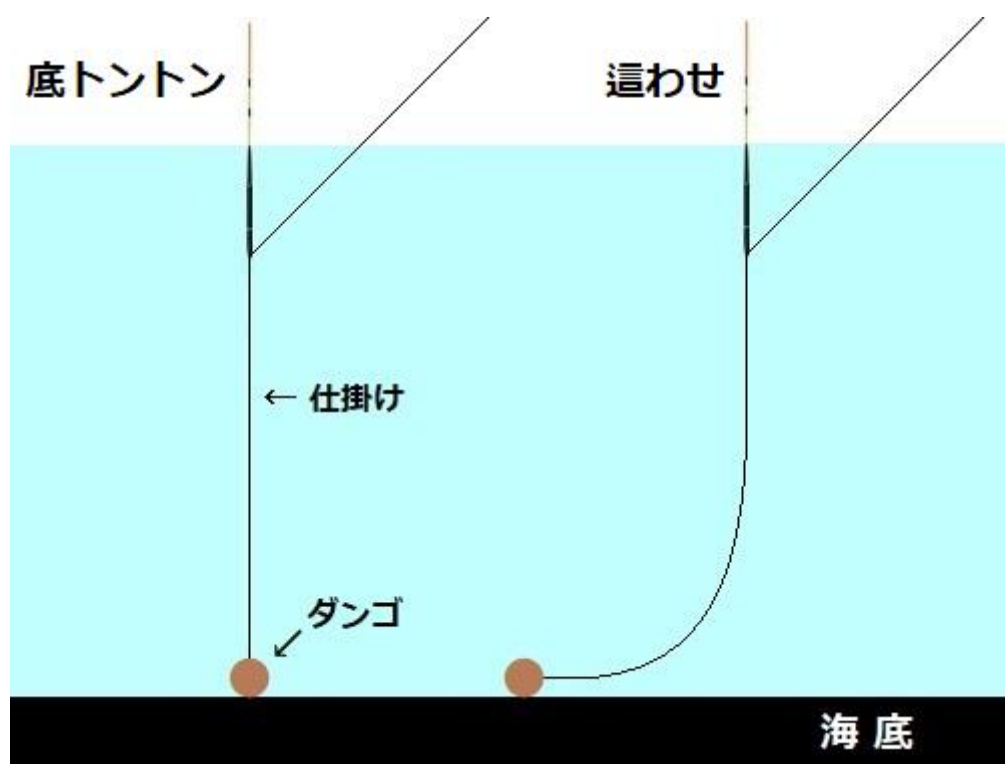


タナ取り作業を行うにあたり、予めポイントの水深を予測して道糸にウキ止め糸を仮固定しておきます。

チヌ針に **ウキの浮力より重いゴム管オモリ** を取り付けてからポイント（ダンゴを投入する場所）に仕掛けを投入して実際の水深を測定します。

ウキが海中に沈み完全に見えなくなってしまう時は、タナが浅過ぎるということになります。

一方で、ウキが沈まず海面に浮いている時は、タナが深過ぎるまたは底トントンということになります。



測定した水深に合わせてウキ止め糸を動かし上のイメージ図のようにタナを **底トントン** または **這わせ** に設定します。

風がなく海面がベタ凧の状態の釣り場では、タナを水深と同じ底トントんに設定して紀州釣りをスタートします。

風が吹き海面が波立つ状態の釣り場では、タナを水深より深く  
這わせに設定して紀州釣りをスタートします。

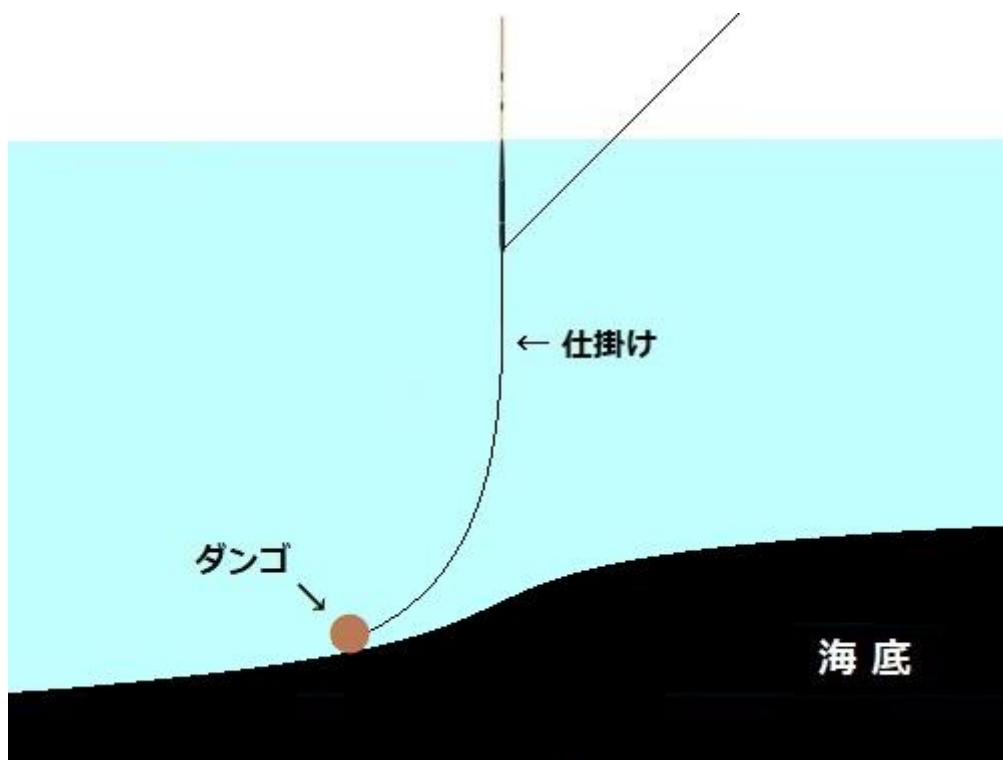
海面が波立つ釣況下でタナを底トントんに設定するとダンゴが  
割れて刺し餌が出た時に波の影響を受けて上下に揺れ不自然な  
アクションが大きくなります。

エサ取りが多い時は狙われやすくなり、チヌ（黒鯛）も警戒  
して刺し餌を食わなくなる恐れがあるためハリスの一部を海底  
に這わせて浮き上がらないようにします。

例えば、ポイントの水深が5m だった場合は、這わせ幅を1m  
取りタナを6m に設定します。

風が強く吹くまたは潮の流れが速くウキがすぐ流されてしまう  
悪条件の釣り場では、釣況に応じて這わせ幅を2m や3m 取り  
更に大きくしていきます。

紀州釣りシーンでは、ハリスを這わせることが多いため海底の  
形状が比較的フラットで根掛かりトラブルも少ない釣り場が  
理想になります。



ハリスを這わせると上のイメージ図のように海底の形状が多少変化するポイントにも対応できます。

ダンゴが割れて刺し餌が出た後に仕掛けが右方向または左方向に流れ始めた時も浮き上がりにくなります。

タナ取り作業のついでにダンゴ投入点の4～5 m 右側と左側の水深も測定しておくことで這わせ幅を調整しやすくなります。

海には干潮および満潮があり、常に潮の満ち引きを繰り返しているため潮位は少しずつ変動していきます。

設定したタナの方も 1 日を通して同じという訳ではなく当日の潮回りに合わせてこまめに調整する必要があります。

- ・ 干潮に向かい潮位が下がる時は？

⇒ **タナを徐々に浅くする**

- ・ 満潮に向かい潮位が上がる時は？

⇒ **タナを徐々に深くする**

上記の調整が基本になり、潮位表を見て当日の釣り場の潮位はどのくらい（ 何 cm ）変動するのか調べます。

潮位が変動する幅を事前に把握しておくとしらぬ釣りの実釣中にタナを調整しやすくなります。

大潮や中潮の日などは、潮位の変動が大きいいためウキ止め糸を 30 分おきに動かしてタナを調整していきます。

小潮の日は、潮位の変動が小さいためウキ止め糸を 1 時間おきに動かしてタナを調整していきます。

例えば、干潮から満潮になるまでの所要時間が5時間30分で潮位が110cm上昇するとします。

⇒ 干潮時刻12:00 ～ 満潮時刻17:30

上記の時間帯に紀州釣りを楽しむ場合は、ウキ止め糸を30分おきに **10cm ずつ** 動かしてタナを徐々に深くします。



防波堤などの壁際を見ると干潮や満潮に向かい潮位がどの程度変動したのか判断する1つの目安になります。

## 5－4 ダンゴの握り方

釣り座の確保、仕掛けの作成、ダンゴの作成、タナの設定が一通り完了したら紀州釣りの実釣を開始します。



チヌ針に **オキアミ・コーン・さなぎ・練り餌** などの刺し餌を付けてダンゴを握ります。

海底のポイントにいるエサ取りの小魚の状況を確認するために最初の1～3投目はオキアミを使用して、通用するのかどうか確かめていきます。



そして、刺し餌を使い分けて紀州釣りを組み立てます。

【 刺し餌の詳細ページ 】

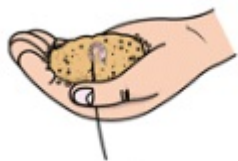
⇒ 4 - 3 [紀州釣りの刺し餌](#)

⇒ 4 - 4 [紀州釣りの刺し餌の使い分け方](#)

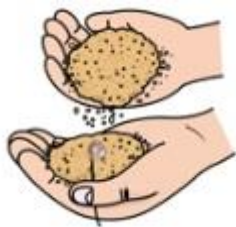
◆ 紀州釣りのダンゴを握る手順



片手で適量のダンゴ材をすくい取ります。



すくったダンゴ材の中央に指でへこみを作ってチヌ針に付けた  
刺し餌を入れます。



反対の手でダンゴ材をすくい取って刺し餌にかぶせます。



片手で圧力を加えていきダンゴが丸くまとまるように形を整え  
ながら20～30回程度握れば完成です。



握り終えた時のダンゴの大きさは、上の画像のように直径 8 cm 程度になります。

目安として、地上 1 m 程度の高さからダンゴを地面に落として割れなければ握りは完璧です。

エサ取りの小魚が多い時は、ダンゴが割られにくくなるように握る回数を増やして表面を固く締めます。

⇒ **しっとりダンゴがおすすめ**

エサ取りの小魚が少ない時は、ダンゴが早く割れるように握る回数を減らして表面を緩く締めます。

⇒ **パサパサダンゴがおすすめ**

1. **ダンゴを握る圧力**
2. **ダンゴを握る回数**

上記の2つを頭の中で記憶およびカウントして統一すると同じタイミングでダンゴが割れるようになります。

後は、圧力の強弱と回数の増減で割れにくいまたは割れやすい理想のダンゴに調整していきます。

ダンゴの取り扱いに関しては、経験を積み重ねていけば割れるタイミングなどのコツを掴め釣況に合わせて握り加減を自由に調整できるようになります。

## 5 – 5 ダンゴの投げ方

チヌ針に刺し餌を付けてダンゴを握ったらダンゴ杓を使用してポイントに投入します。



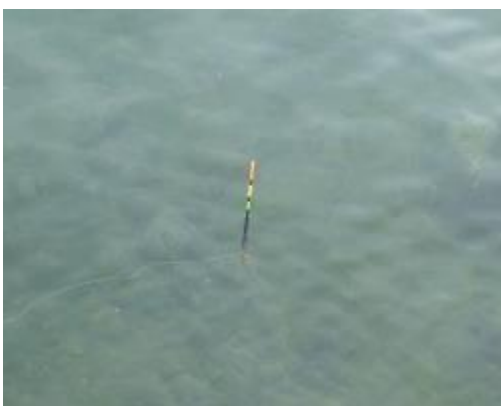
握ったダンゴをダンゴ杓の中にセットします。

ポイントが10m程度と近い場合は、ダンゴを手にとって直接投入することもできますが、飛距離を更に伸ばしたい釣り師の方は、ダンゴ杓の使用をおすすめします。

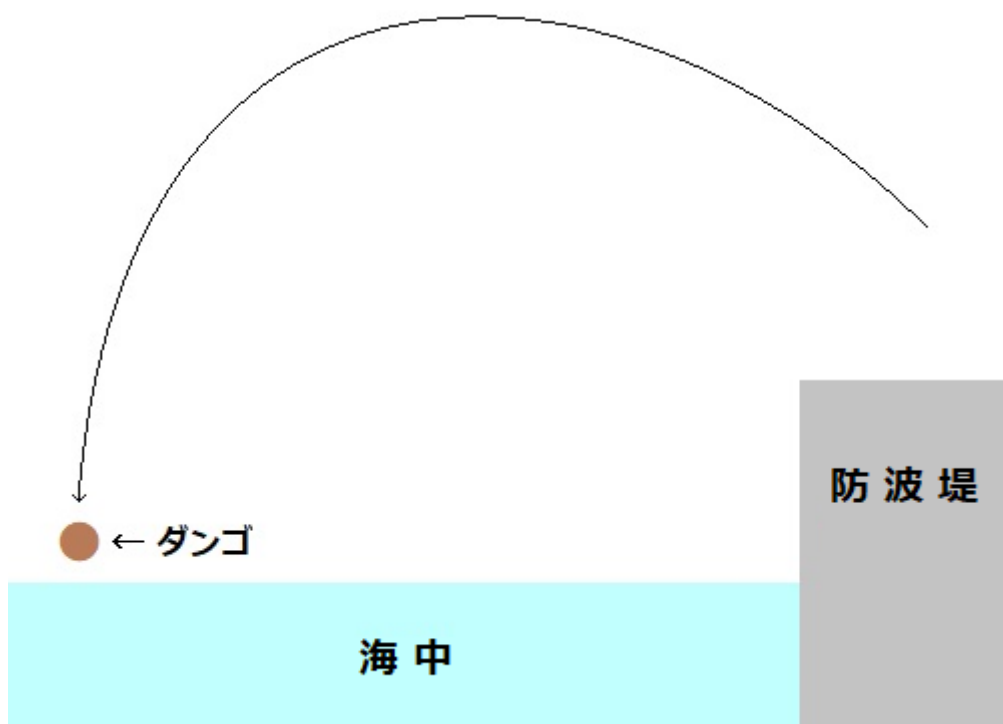


リールのベールをオープンにして海面に道糸を出しスプールを指で軽く押さえます。

オーバースローでダンゴを投げる（ダンゴ杓を振る）と同時にスプールから指を離しロッドを煽ります。

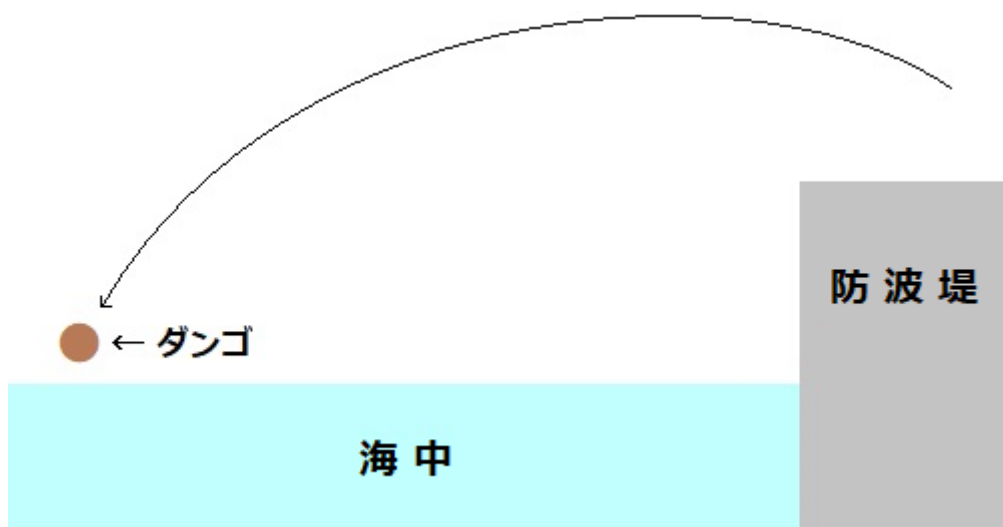


上の画像のように道糸を余分に出して **ウキを海面に浮かせた状態** にしてからダンゴを投げる操作を行うと仕掛けも一緒に追従してスムーズに飛んでいきます。



オーバースローでダンゴの投入に成功すると上のイメージ図のような放物線を描きながら飛んで海面に着水します。

一方で、ポイントが近い場合は、握ったダンゴを手を持ち直接アンダースローで投げることもできます。



アンダースローでダンゴの投入に成功すると上のイメージ図のような放物線を描きながら飛んで海面に着水します。

ポイントが近い時は手で投げて、中距離と遠距離はダンゴ杓を使用するという投げ分けも可能です。

ダンゴを投げる時にハリスがダンゴ杓に絡まるまたはリールのスプールから指を離すタイミングが遅い場合は、ダンゴが空中分解してしまい投入失敗の原因になります。

リールのスプールから指を離すタイミングを掴めば、投入失敗のリスクは少なくなります。



また、道糸がロッドのガイドに絡まっている場合も投入失敗の原因になるので確認する必要があります。

インナーガイドロッドを使用すると道糸とガイドのトラブルによる投入失敗は皆無になります。



上の画像のように自分が決めたポイント（範囲）に集中してダンゴを投入していきます。

紀州釣りは、海底にポイントを作る釣りになるので、バラバラにダンゴを投入してしまうとチヌ（黒鯛）を集めて刺し餌を食わせるポイントが定まらなくなります。

目安として、座布団 1 枚程度の範囲に集中して正確にダンゴを投入していくことが望ましいです。



紀州釣りの初心者さんにとっては、ダンゴの投入に慣れるまでは正確にコントロールするのが難しいと思います。

ダンゴのコントロールは、紀州釣りシーンでチヌ（黒鯛）の釣果にも関わる重要な部分になります。

紀州釣りの実釣経験を積み重ねて、命中精度を少しずつ高めていくことをおすすめします。

## 5－6 ラインメンディングのやり方

ダンゴを投入して海底に着底したら釣り場の風向きに合わせて適切なラインメンディングを行ってアタリを待ちます。



ラインメンディング = **道糸の管理** という意味になり、ダンゴをポイントに投入する度に余計な糸フケを取って仕掛けが受ける抵抗を軽減します。

糸フケが大きいと仕掛けが手前に戻されやすくなり、アワセを入れても決まらなくなります。

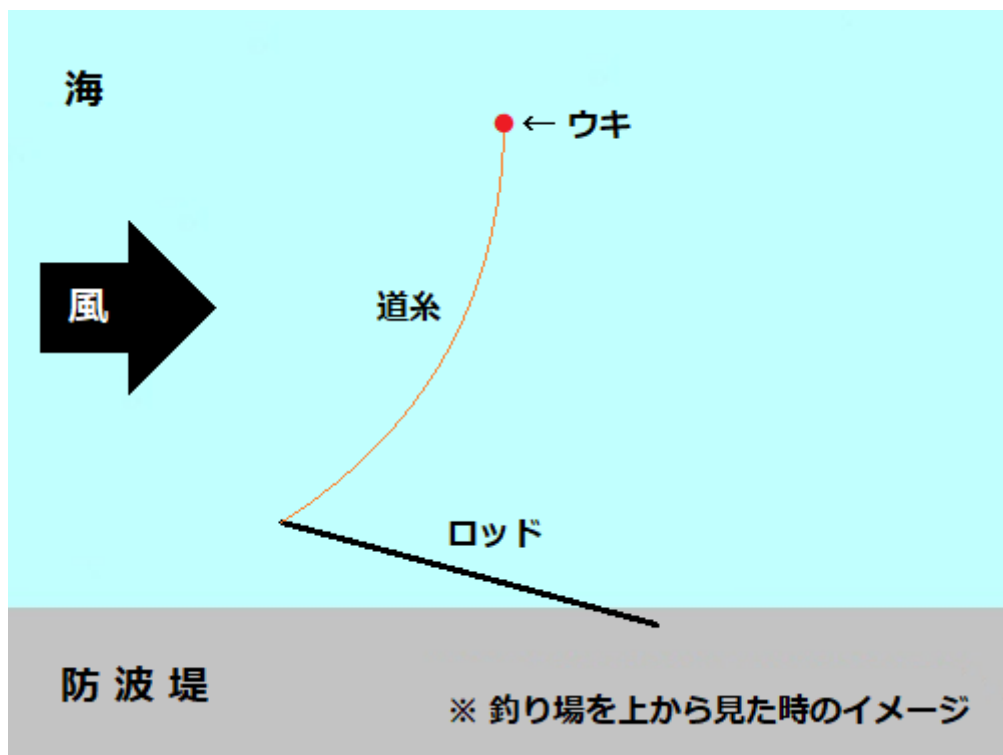
無風で表層の潮の流れもない時は、余計な糸フケを取り **道糸を張らず緩めずの状態** にしてアタリを待ちます。

紀州釣りシーンでは、釣り場で風が吹くことも多いです。



風が右方向から吹いてくる場合は、上の画像のようにロッドを風上の右側に向け穂先を海面に近付けてアタリを待ちます。

逆に風が左方向から吹いてくる場合は、ロッドを風上の左側に向け穂先を海面に近付けてアタリを待ちます。



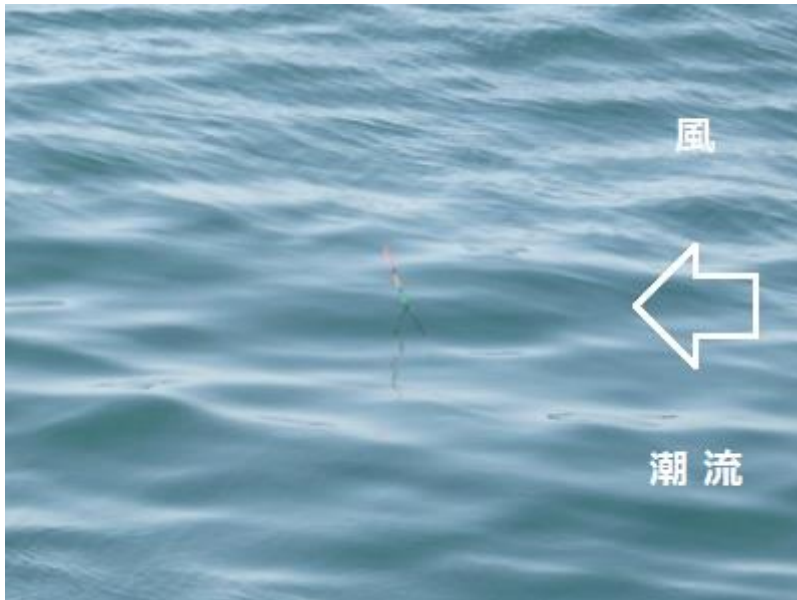
上のイメージ図のように道糸を張らず緩めずの状態に保ちつつカタカナの **ㄣ** の字の状態にします。

そして、ダンゴが割れて仕掛けが2～3m 流されたら回収して再びダンゴを打ち返します。

紀州釣りにおけるラインメンディングは **余計な糸フケを取り**  
**ロッドを風上に向ける作業** の繰り返しになります。

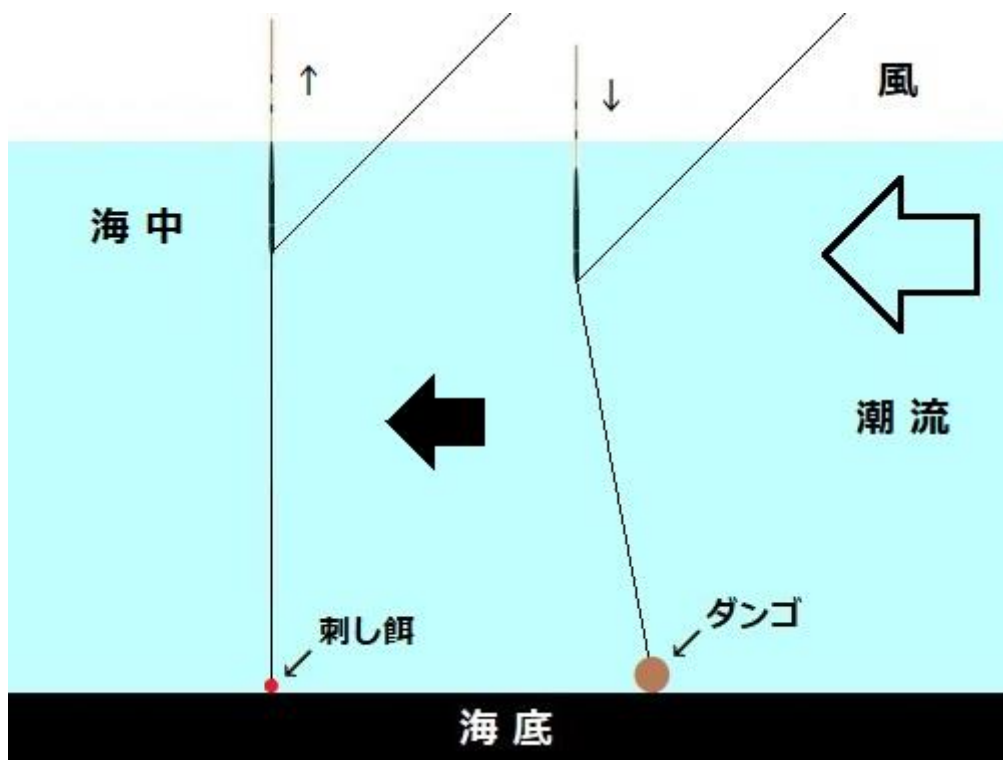
## 5－7 アタリの取り方

ダンゴを投入してラインメンディングを行ったら棒ウキまたは寝ウキでチヌ（黒鯛）のアタリを取ります。



タナ（ウキ下）を底トントんに設定している場合は、ダンゴが割れるまでウキトップの一部がシモる（沈んだ）状態になることがあります。

理由として、紀州釣りの仕掛けが釣り場で吹く風や潮の流れと波の影響を受けているからです。



着底したダンゴが海底のポイントで割れて刺し餌が出るまでの過程は、上のイメージ図の通りです。

ダンゴが割れる前にウキが流されてウキトップの全体が沈んでしまうような時は、タナを水深よりも深く取り、ハリスを海底に這わせることで改善します。

【 タナの詳細ページ 】

⇒ 5 - 2 [タナの取り方（ウキ下の設定）](#)



**ダンゴが割れて刺し餌が出ると上の画像のようにウキトップの全体が完全に浮き上がります。**

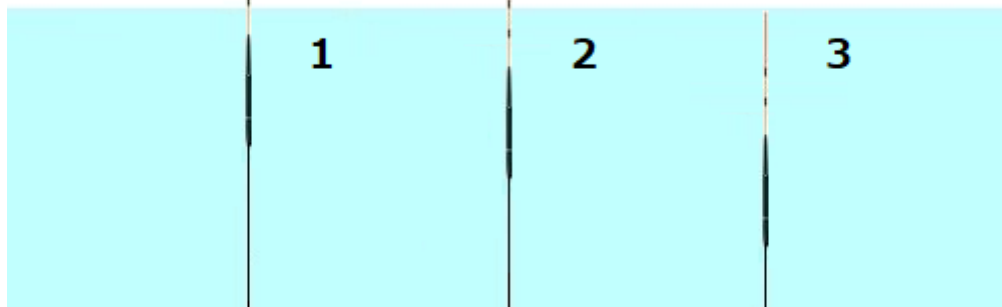
**這わせ幅を大きくしている場合は、ウキトップが一切シモらず常に浮いたままの状態になることが多いです。**

- 1. ダンゴアタリ**
- 2. 前アタリ**
- 3. 本アタリ**

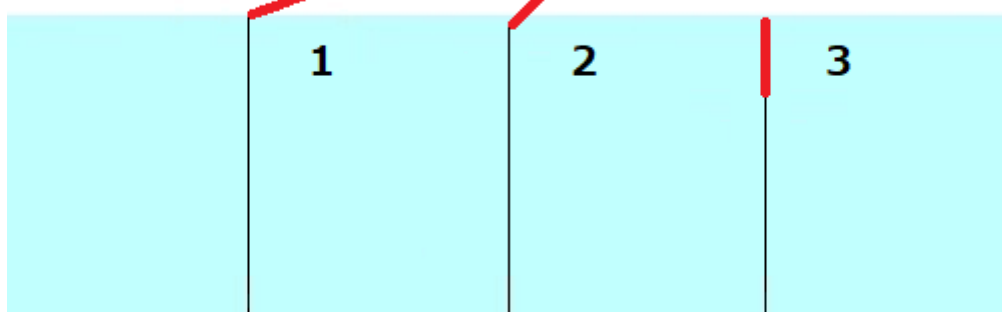
**上記の3種類のアタリを見極めます。**



棒ウキ



寝ウキ



## 1. ダンゴアタリ

ダンゴアタリとは、エサ取りの小魚やチヌ（黒鯛）が海底のポイントにある **ダンゴを突いた時に出るアタリ** です。

棒ウキの場合は、ウキトップが少しでも沈んで上下に小刻みに動くというアタリが出ます。

寝ウキの場合は、ウキトップが少しでも斜めに立つそして寝るという動きを繰り返すアタリが出ます。

ダンゴアタリが出た時は、アワセを入れずに次のステップの前アタリに発展するかどうか様子を見ていきます。

## 2. 前アタリ

前アタリとは、チヌ（黒鯛）が **刺し餌を捕食して噛んでいる時に出るアタリ** です。



棒ウキの場合は、ウキトップが半分ほど沈んで押さえた状態になるというアタリが出ます。

寝ウキの場合は、ウキトップが斜めまたは真っ直ぐに立ったままの状態になるというアタリが出ます。

前アタリが出た時は、アワセを入れても針掛かりせずにスッポ抜けて素針を引いてしまう可能性が高いので、次のステップの本アタリに発展するまで待ちます。

### 3. 本アタリ

本アタリとは、チヌ（黒鯛）が最終的に **刺し餌を食い込んだ時に出るアタリ** です。



棒ウキまたは寝ウキが海中に沈むと同時に道糸も走り始めるためアワセを入れる絶好のタイミングになります。

- ・ ダンゴアタリ → **本アタリ**
- ・ 前アタリ → **本アタリ**
- ・ **本アタリ**（いきなりウキが消し込む）

上記のようにダンゴアタリまたは前アタリどちらかを經由せずに本アタリが出るパターンもあります。

ハリスの這わせ幅を大きくした時もダンゴアタリや前アタリが出にくくなる傾向があります。

チヌ（黒鯛）が刺し餌を居食いしている時は、ウキが海面に沈みそうで沈まない現象が発生します。

前アタリが出て **30秒** 以上が経過してもなかなか本アタリに発展しないという時は、リールのハンドルをゆっくりと巻いて道糸を徐々に張りながら **聞きアワセ** を行います。

そして、ロッドの穂先に生命反応やチヌ（黒鯛）の重量感を  
感じたらアワセを入れます。

エサ取りの小魚が多い時は、ウキに一切アタリが出ずに刺し餌  
だけ取られてしまうことも多々あります。

釣り師からエサ取り名人と呼ばれるカワハギなどがポイントに  
いる場合は、特に顕著に現れます。

仕掛けを回収した時にチヌ針ごと無くなっている場合は、フグ  
の仕業の可能性が高いです。

紀州釣りシーンでは、ダンゴが割れて3～5分程度経過したら  
仕掛けを回収して刺し餌の有無を確認します。

ウキにアタリが出なくても気付かないうちに刺し餌が取られて  
いることも多いためこまめに刺し餌の有無を確認してダンゴを  
打ち返すことも重要です。

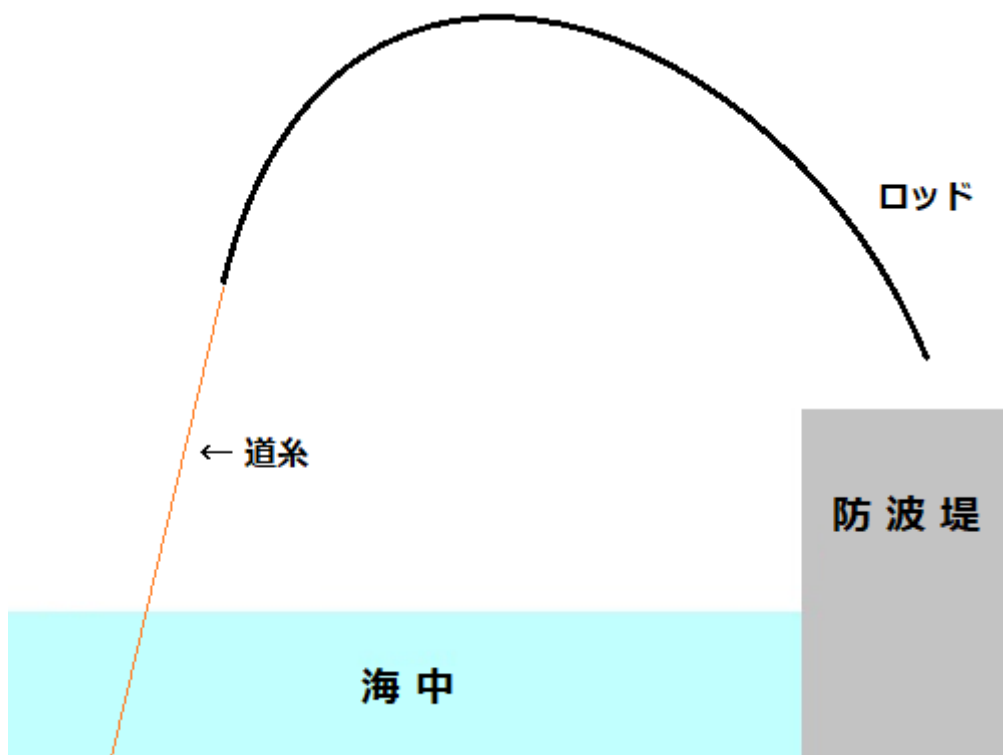
## 5－8 やり取りの方法とコツ

紀州釣りシーンで棒ウキまたは寝ウキにアタリが出てアワセを入れたらチヌ（黒鯛）とのやり取りを開始します。



やり取り中は、チヌ（黒鯛）に対してロッドの角度を90度に保ち反発力を最大限に活かして引きをいなすことがバラシを回避するためのコツになります。

リールを強引に巻いてやり取りするとチヌ（黒鯛）の引きを上手くいなしきれずバラシの原因になります。

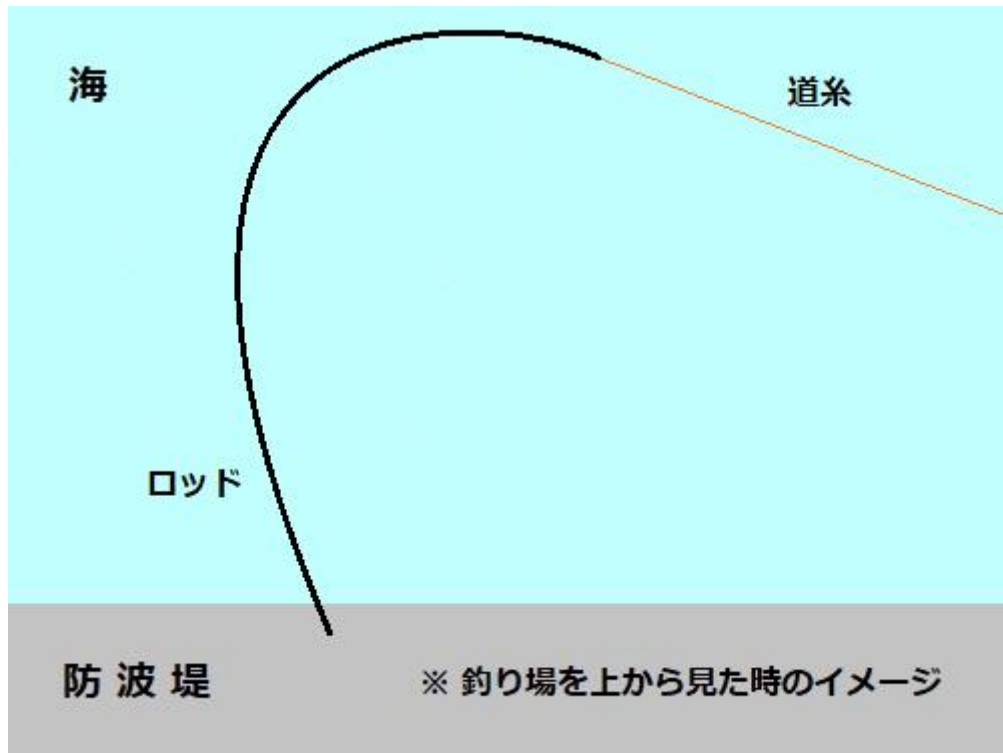


チヌ（黒鯛）が走った（強く引いた）時は、リールを強引に巻かずに上のイメージ図のようにロッドの角度をしっかりと保ちながらタメて動きにブレーキを掛けます。

ロッドの角度を保ちながらタメることで反発力を最大限に活かして引きをいなすことができるようになり、チヌ（黒鯛）の体力も消耗するため弱って浮いたらリールを巻きます。

1. ロッドの角度を保ってしっかりとタメる
2. チヌ（黒鯛）が浮いてきたらリールを巻く

上記の1→2の手順を繰り返しながらチヌ（黒鯛）を徐々に浮かせて釣り座の方に誘導します。



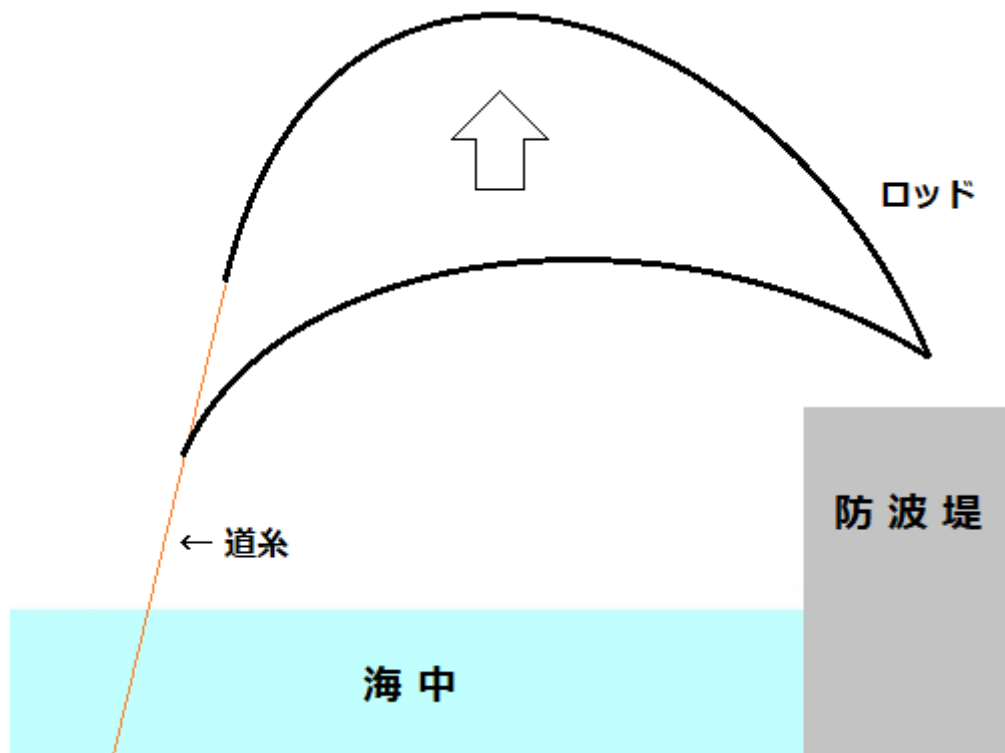
チヌ（黒鯛）が右側に走った時は、上のイメージ図のようにロッドを **左側に傾けて** 角度を保ちながらタメます。

逆に左側に走った時は、ロッドを **右側に傾けて** 角度を保ちながらタメます。

やり取り中は、チヌ（黒鯛）の動きに合わせてロッドを操作しながら引きをいなししていきます。



チヌ（黒鯛）のサイズが大きい時は、油断すると強烈な引きにより、ロッドがのされてしまうこともあります。



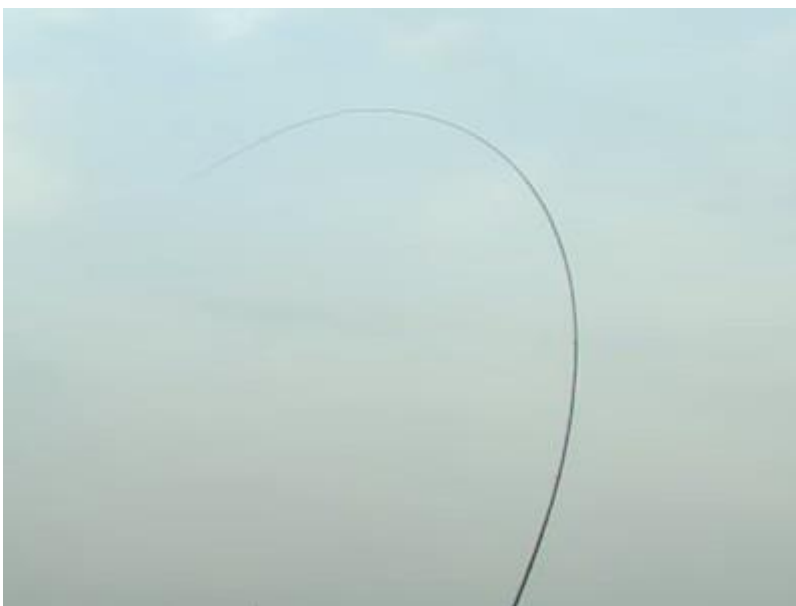
ロッドがのされた時は、レバークレーキリールのレバーを操作して道糸を送ると上のイメージ図のように不利になった態勢を一瞬で立て直すことができます。

スピニングリールの場合は、すべてドラグに頼ることになるためやり取りに備えて事前に調整しておきます。

レバーブレーキリールには及びませんが、万が一ロッドがのさ  
れてしまった時もドラグ機能である程度カバーして、バラシの  
リスクは軽減できます。



シマノの鱗海シリーズなどのチヌ竿を使用している場合は



上の画像のように大きくしなり、チヌ（黒鯛）の重みを胴に乗せて引きを上手くいなすことができます。

対象魚のチヌ（黒鯛）に特化した胴調子のチヌ竿を使用した方がバラシのリスクは低くなります。

また、スピニングリールまたはレバールレーキリールどちらを使用するかでやり取りの安定性にも差が出ます。

釣り味の良さとやり取りの安定性を重視する場合は、チヌ竿とレバールレーキリールと一緒に組み合わせたタックルを使用することをおすすめします。

## 5－9 タモ入れの方法とコツ

チヌ（黒鯛）とのやり取りを楽しんで海面に浮かせたら最後にタモ入れ作業を行って取り込みます。



紀州釣りの実釣中は、玉網を **手の届く場所** に置きスムーズにタモ入れ作業に移行できるように準備しておきます。

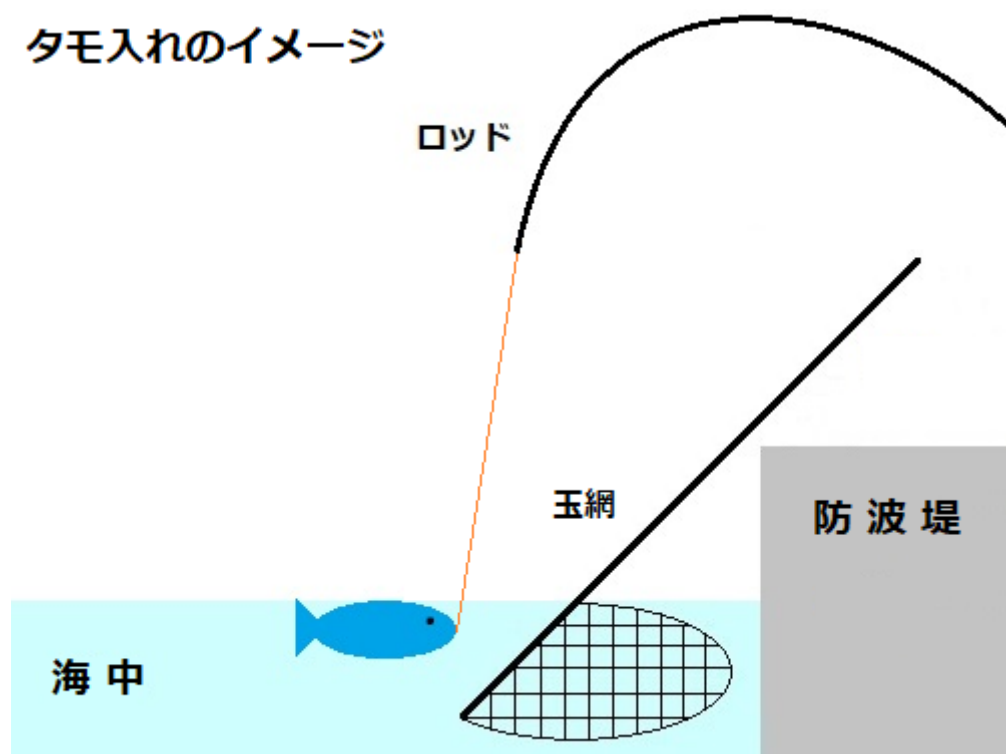
玉網が手の届く場所がないとすぐにタモ入れ作業に移行できず最悪の場合は、玉網を取ろうとしてもたついた隙にチヌ針が外れバラシてしまう恐れがあります。

- ・ 右手でロッドを持ち左手でリールを巻く方は

⇒ **自分の立ち位置の左側に玉網を置く**

- ・ 左手でロッドを持ち右手でリールを巻く方は

⇒ **自分の立ち位置の右側に玉網を置く**

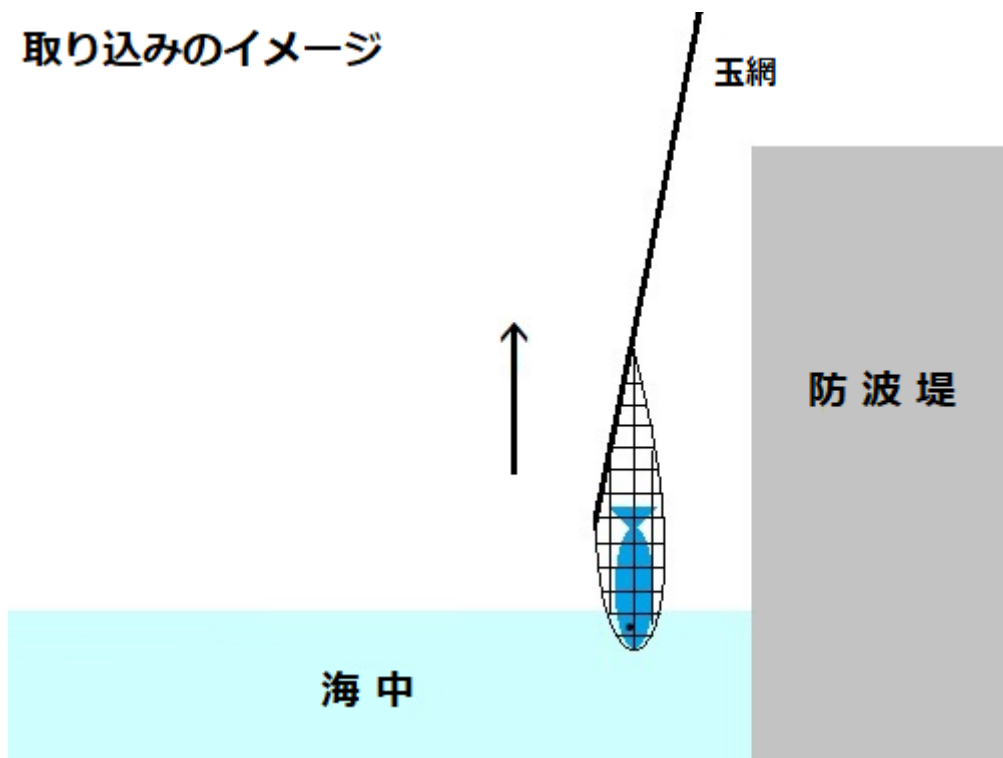


チヌ（黒鯛）を海面に浮かせ空気を吸わせたら上のイメージ  
図のように玉網を入れて **頭の方から** すくいます。

尻尾の方からすくおうとすると玉網で追う形になり逃げるので必ず頭の方からすくいます。

タモ入れのコツは、ロッドとレバールーキリールを操作して道糸に適度なテンションを掛けながらチヌ（黒鯛）を玉網の枠まで誘導してきて一気にすくいます。

取り込みのイメージ



チヌ（黒鯛）のタモ入れが完了したら上のイメージ図のように玉網の柄を **垂直に近い角度** にして縮めます。



チヌ（黒鯛）を取り込んだ後は

- ・ 30 cm 前後のサイズ ⇒ スカリに入れる
- ・ 40 cm 前後のサイズ ⇒ ストリンガーに掛ける

上記の方法で納竿するまでキープします。

チヌ（黒鯛）を持ち帰らない場合は、魚体を傷付けて弱らせないように丁寧に取り扱いながら口に掛かったチヌ針を外して速やかにリリースしてください。

## 紀州釣りの一連の流れをまとめると

### ◆ 準 備

釣り座を決める



仕掛けを作る



ダンゴを作る



タナを取る（ ウキ下を設定する ）

### ◆ 実 釣 開 始

チヌ針に刺し餌を付ける



ダンゴを握る





**ダンゴをポイントに投入する**



**ラインメンディングを行う**



**海底でダンゴが割れて刺し餌が出る**



**アタリを取ってアワセを入れる**



**やり取りを行う**



**タモ入れを行って取り込む**



**スカリやストリンガーでキープまたはリリースする**

上記のように釣り場に到着したら紀州釣りの準備をして実釣を行うという一連の流れになります。

そして、釣行を繰り返し紀州釣りの実釣経験を積み重ねて自身の釣技を磨いていきます。

## 6－1 チヌ（黒鯛）とエサ取りの関係性

紀州釣りの実釣中は、真冬の厳寒期や春先の時期を除くと常にエサ取りの小魚たちとの戦いになります。



エサ取りの小魚たちは、刺し餌を食べてしまう厄介な存在になりますが、いないよりも多少いる方が海底のポイントで有利に働いて釣果にも関係してきます。

紀州釣りの実釣中にダンゴの投入を繰り返していくとエサ取りの小魚たちが海底のポイントに集まります。

## ステップ. 1

エサ取りの小魚が海底のポイントに集まってダンゴを突くことにより **ダンゴの集魚成分が周囲に拡散** します。

ボラの群れが集まってダンゴを突いた場合は、集魚成分が拡散すると同時にチヌ（黒鯛）が好む **濁り** も発生します。

## ステップ. 2

チヌ（黒鯛）がダンゴの集魚成分を嗅ぎ付けエサ取りの小魚の捕食音を聞きダンゴの周囲に集まります。

刺し餌が取られてしまう状況でも周囲にいるチヌ（黒鯛）に対しては **捕食スイッチを入れる刺激** になっています。

## ステップ. 3

チヌ（黒鯛）が警戒している場合は、暫くの間ダンゴの近くに留まり様子を伺います。

⇒ **刺し餌が残る現象が発生する**

食い気のあるチヌ（黒鯛）の場合は、エサ取りの小魚たちを退けて自ら積極的にダンゴを突き始めます。

⇒ **ダンゴアタリが発生する**

ダンゴが割れて刺し餌が出た直後に前アタリが発生して最終的に本アタリに発展します。

紀州釣りの実釣では、海底のポイントに集まっているエサ取りの小魚の活動が起点になり、チヌ（黒鯛）の捕食スイッチが入ってアタリが発生する展開が多くなります。

エサ取りの小魚にストレスを感じることもありますが、釣果を上げるために必要な存在です。

エサ取りの中でも特に中型や大型のボラは、チヌ（黒鯛）との関係性が高く相性が良いと言えます。

ボラがダンゴを突きながら泳ぎ回ることにより、海底でダンゴの材料の米ぬかが舞い上がって適度な濁りが発生します。

濁りを好むチヌ（黒鯛）は、警戒心が解けて捕食スイッチが入り、濁りに突っ込んで刺し餌を捕食します。

釣り座からボラの魚影を目撃するおよびダンゴの投入点付近でボラが飛び跳ねた時は、海底のポイントにも群れが集まっている可能性が高いと判断できます。

一方で、ボラをチヌ針に掛けてしまうとやり取り中に暴れるため海底のポイントが荒れてしまう恐れがあります。

ボラは、捕食時に口を大きく開けて **吸って吐く** という動作を繰り返しながらダンゴを突きます。

ボラがいる時は、チヌ針の先を覆い隠すことができる練り餌を使用すると不要な針掛かりを回避できます。

チヌ（黒鯛）がよく釣れる場所では、これから紹介するエサ取りの小魚たちが外道として釣れる傾向が強いです。



## 1. キュウセン



## 2. ササノハベラ / ホシササノハベラ

砂地の海底にはキュウセンが、岩礁の海底にはササノハベラが生息していて、日中のみ外道として釣れます。

回遊せずに居着くベラが釣れるような場所は、エサが豊富にある証拠になり、チヌ（黒鯛）にとってもエサ場として好条件の環境になると言えます。



### 3. マダイ

初夏から晩秋の時期にかけては、釣り師から別名チャリコとも呼ばれるマダイの幼魚が外道として釣れます。

同じタイ科の魚でリリースサイズの小さなマダイが釣れる場所にもチヌ（黒鯛）は回遊して来ます。

良型のマダイであれば、本命のチヌ（黒鯛）よりも嬉しいと思う釣り師の方もあるような！？



#### 4. カワハギ

春・秋・冬の時期は、釣り師から別名エサ取り名人とも呼ばれるカワハギが日中のみ外道として釣れます。

特に秋口から初冬の時期にかけては、食欲旺盛で刺し餌を食べる厄介なエサ取りになります。

一方で、カワハギの猛攻が急に収まった時にチャンスが訪れる可能性が高いです。

カワハギの口は非常に小さいですが、噛む力は強いためダンゴに配合した押し麦を噛み砕く音がチヌ（黒鯛）に対して刺激になり、捕食スイッチを入れる誘いになります。





## 5. フグ

鋭い歯であらゆる刺し餌を噛み砕きながら食べる非常に厄介な  
エサ取りのフグも外道として釣れます。

特にクサフグは、淡水が流れ込むような塩分濃度が低い汽水域  
の釣り場で多く見られます。



上の画像のように仕掛けを回収した時にハリスが切られていて  
チヌ針がない時は、フグの仕業の可能性が高いです。

一方で、食い気のあるチヌ（黒鯛）がダンゴの近くに集まるとフグは上ずるので猛攻が収まります。

- ・ ハリスを傷付けられる
- ・ チヌ針を取られる

上記のフグの被害に遭うリスクも考慮して、ハリスとチヌ針は多めに用意することをおすすめします。

上記で紹介した1～5の外道のエサ取りの小魚が釣れるような場所は、チヌ（黒鯛）が釣れる可能性も高いです。

初めて紀州釣りに挑戦する釣り場では、エサ取りの小魚の種類と状況を見ていくとチヌ（黒鯛）が釣れる可能性が高いのかどうか判断する1つの目安になります。

特に事前の釣果情報が無い釣り場では有効です。

## 6－2 チヌ（黒鯛）が釣れる時の前兆現象

紀州釣りシーンでは、本命のチヌ（黒鯛）が釣れる時に前兆現象が起こることもあります。



1. 急にダンゴアタリが頻発する
2. 急に刺し餌が残る

上記の2つがよく起こる前兆現象になりますが、更に期待感が高まる前兆現象も起こります。



仕掛けを回収した時ですが、上の画像のように **チヌ針の結び目** の少し上のハリスがキンクしていた 場合は、チヌ（黒鯛）が実際に刺し餌を捕食したというサインになります。

◆ キンクとは？

⇒ 道糸またはハリスの **ヨレ** や **ネジレ**

チヌ（黒鯛）が刺し餌を捕食した時に違和感があり、チヌ針を吐き出した証拠になる **噛み跡** とも言えます。

- ・ 前アタリ → **ハリスのキンク**
- ・ 本アタリ → アワセ → **ハリスのキンク**

ハリスのキンクは、上記のように前アタリが出ても本アタリに発展せずに終わった時や本アタリでアワセを入れても乗らずに素針を引いた時に起こることもあります。

ハリスがキンクした時は、チヌ（黒鯛）が海底のポイントに集まり、実際に **捕食活動を行った** と判断できます。

⇒ **前兆現象が発生！**

キンクしたハリス部分は、強度が低下しているためカットして直ちにチヌ針とハリスを結び直します。

そして、**次の一投も同じ刺し餌で勝負する** とチヌ（黒鯛）が食ってくる可能性が高いです。

⇒ **次の一投が勝負！**



例えば、練り餌の高集魚レッドを使用してハリスがキンクした時は、次の一投も同じ **高集魚レッド** で勝負します。



勝負に出たものの3～5投まったく反応が無い時は、練り餌の **食い渋りイエロー** などに変更して様子を見ます。

チヌ（黒鯛）に対しての摂餌力が高く食い込みも良い刺し餌に変更して目先を変えるということです。



ハリスのキンクを見分ける時の注意点として、上の画像のように **チヌ針の結び目のすぐ上のハリスだけが傷付いていた** 場合は、チヌ（黒鯛）による噛み跡ではありません。

鋭い歯を持つエサ取りのカワハギやフグがハリスを何度も噛んだため傷付いた可能性が高いです。

傷付いたハリスをそのまま使い続けるとチヌ（黒鯛）とやり取りしている最中に切れてしまう原因になります。

バラシを回避するためハリスが傷付いた時は、速やかに該当する部分をカットして結び直してください。

### 6－3 潮の流れが速い時のポイント形成

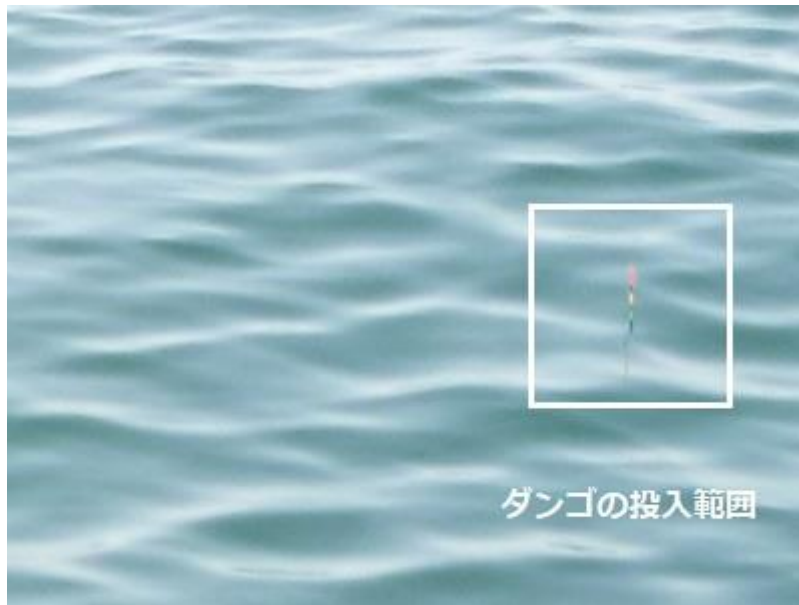
紀州釣りは、海底にポイントを作る釣りになるため潮の流れが速くなるほど釣りにくい状況になります。



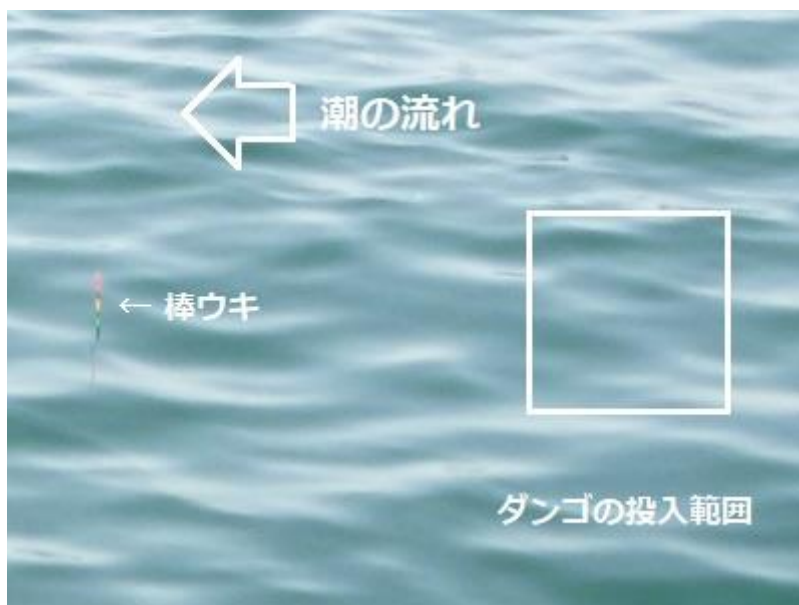
潮の流れが速い時は、タナ（ウキ下）を水深よりも更に深く設定してハリスを海底に這わせるようにして釣っていくことが基本的な対処法になります。

這わせと複合させる応用的な対処法として、潮の流れに合わせたポイントの形成も有効になります。





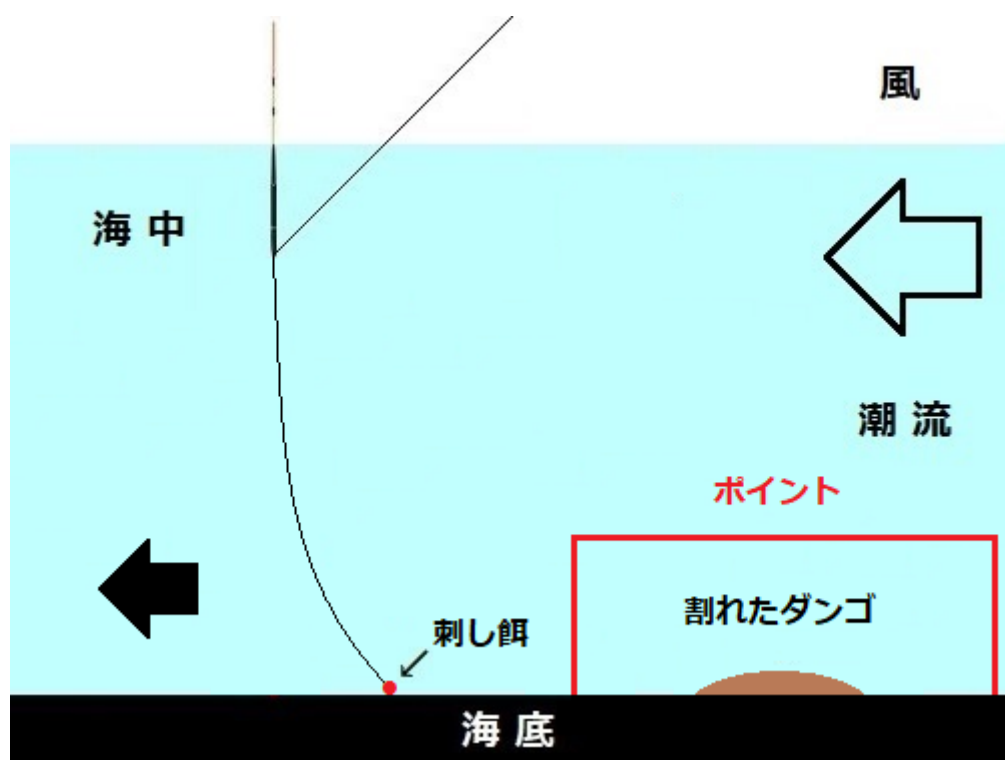
紀州釣りシーンでは、自分が決めた一定のポイントに集中して  
ダンゴを投入していきますが



潮の流れ（特に表層の潮の流れ）が速くなると仕掛けも同様に速く流されてすぐにポイントから離れてしまいます。

また、釣り場で強い風が吹くと道糸や棒ウキが大きく煽られて仕掛けが流されることもあります。

海中では



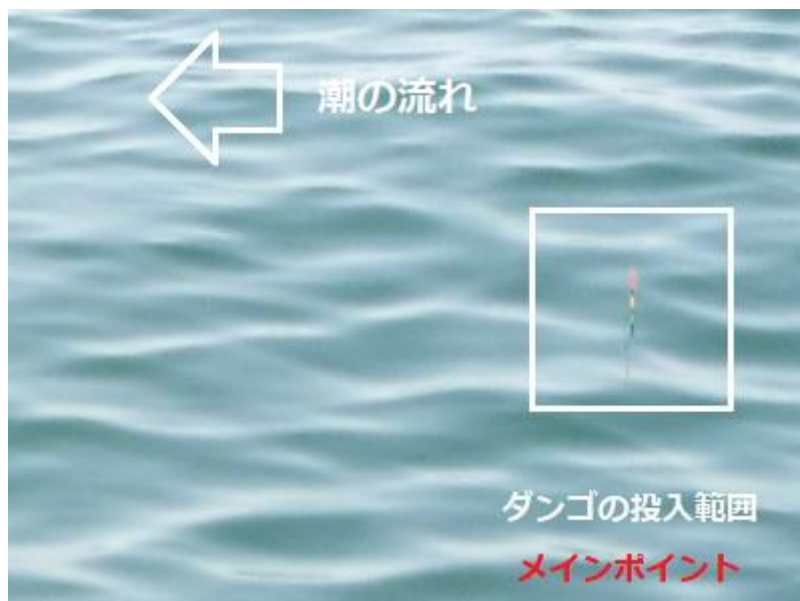
上のイメージ図のようになり、海底でダンゴが割れて刺し餌が出た途端にポイントから離れていきます。

潮の流れが速くなった時は、ハリスの這わせ幅を大きくすると同時にダミーのダンゴを投入して

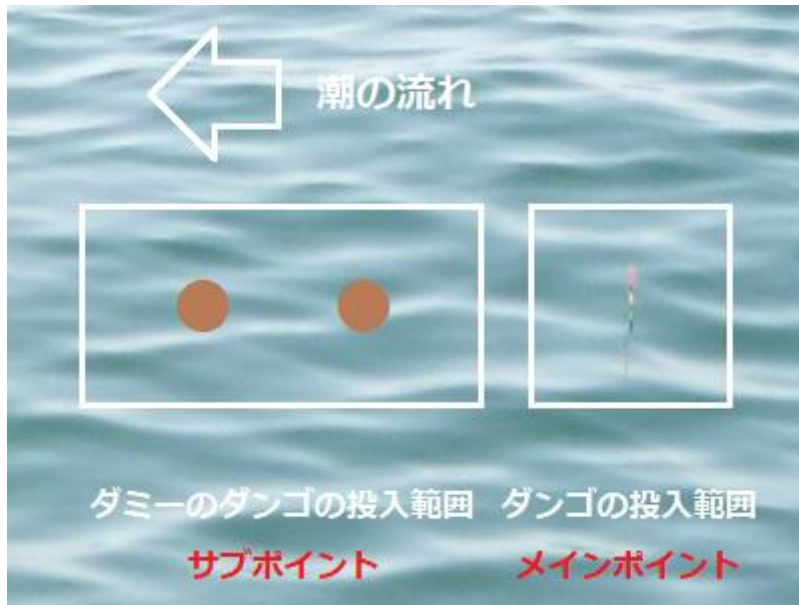
1. メインポイント

2. サブポイント

上記の2つのポイントを形成して対処します。



潮の流れが速くなった時も刺し餌を包んだダンゴの投入範囲は本来通りの **メインポイント** とします。

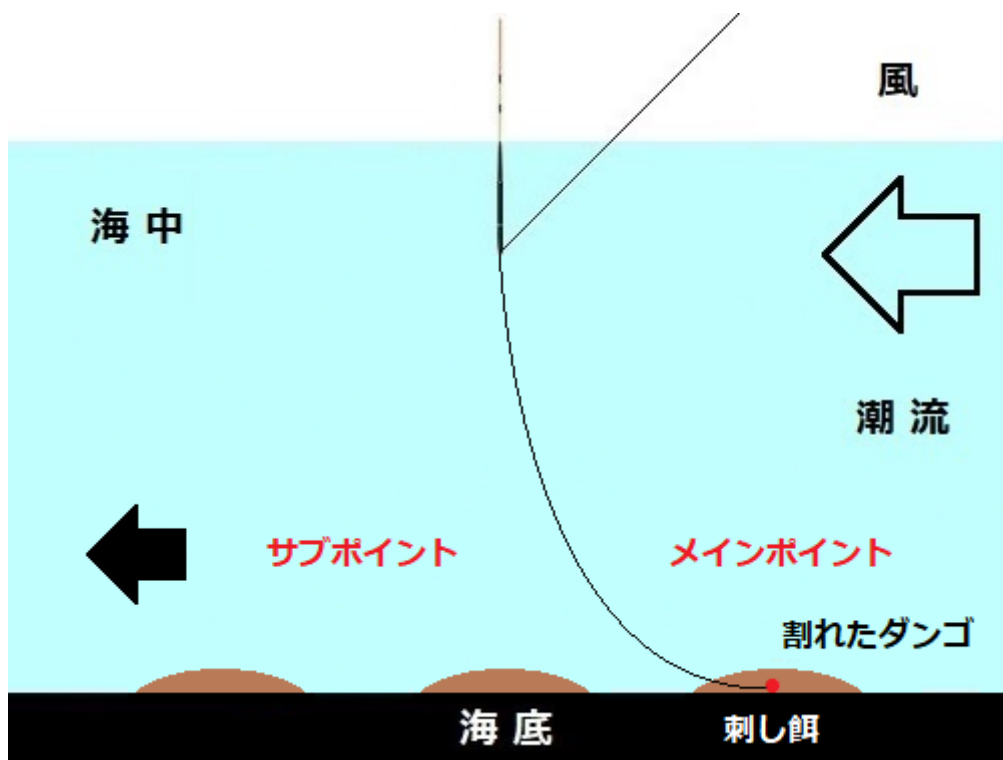


そして、仕掛けが流されて行く方向に **ダミーのダンゴ** を2つ投入して新たに **サブポイント** を形成します。

※ **ダンゴ**を投入する間隔は1 m 程度です。

目安として、刺し餌を包んだダンゴの投入3回に対して1回の割合でダミーのダンゴを2つ投入します。

仕掛けが流されて行く方向に合わせてダミーのダンゴを投入することにより **縦・横・斜め** のあらゆる角度でサブポイントを形成することが可能です。



上のイメージ図のようにチヌ（黒鯛）を集めて食わせる海底のポイント（有効ゾーン）が少し横に広がります。

仕掛けが流されて刺し餌がメインポイントから離れてしまった時もサブポイントで食わせることができます。

ポイントが横に広がることにより、集まったエサ取りの小魚を分散させる効果も期待できます。

潮の流れが速くてハリスの這わせ幅を大きくするだけでは心許ない時は、サブポイントの形成をおすすめします。



一方で、潮の流れが川のように極端に速い時は、紀州釣りには  
厳しくお手上げ状態になります。

※ 釣り師によっては **潮が飛ぶ** と表現します。

極端な潮の流れは、対処のしようがないため一服や食事などの  
休憩をして待つことをおすすめします。

## 6－4 ライバルが多い釣り場の対策法

チヌ（黒鯛）がよく釣れる人気の釣り場は、必然的に平日や休日を問わず釣り師が多くなります。



紀州釣りを楽しんでいるのは、自分1人しかいないという状況の場合は、気にする必要はありませんが、ライバルの釣り師が多い釣り場では、対策を行うことをおすすめします。

それでは、紀州釣りを楽しむライバルの釣り師が多い釣り場で釣果を上げるための対策法を解説します。



防波堤などの釣り場では、上のイメージ図のように釣り師が横に並んでダンゴを打つこともあります。

一方で、ライバルの釣り師が多くなるとそれぞれのポイントでチヌ（黒鯛）を集めて競合する形になります。

ライバルの釣り師に勝る釣果を得るためには、自分のポイントに1匹でも多くチヌ（黒鯛）を集める工夫が必要です。

釣技以外にチヌ（黒鯛）の五感 **視覚・嗅覚・味覚** に訴えるエサの工夫を施して自分のポイントに集めます。





## **1. 黄色い押し麦**

**チヌ（黒鯛）は、黄色いエサに強い反応を示すという習性があるためダンゴに配合する白い押し麦を食品添加物の着色料で敢えて黄色に染めて目立たせ視覚にアピールします。**

**黄色い押し麦は、自作しなければなりませんが、市販のダンゴ配合餌と自作のダンゴに対応できます。**

**それでは、ダンゴに配合する黄色い押し麦の具体的な作り方を解説していきます。**



水 3 0 0 cc の中に

- ・ 食塩（ 小さじ 2 ）
- ・ 味の素（ 大さじ 1 ）
- ・ 黄色の着色料（ 少々 ）

上記の 3 つの材料を加えて混ぜ合わせて白い押し麦を着色するための **調味液** を作ります。

海水の塩分濃度に近付けるため食塩を加え、味の素はアミノ酸なので集魚効果もプラスされます。



**調味液に白い押し麦を200cc加えて1時間漬け込んでから**



**ザルに上げて調味液を切れば完成です。**

水分を含んだ黄色い押し麦は、常温で保存することができないため紀州釣りの釣行日の前日または当日に作ります。

釣行時に市販のダンゴ配合餌を購入して使用する場合は、1袋に対して半分配合します。

釣行時に自作のダンゴを使用する場合は、白い押し麦の代わりに配合します。



ちなみに、手間と時間が掛かる作業になりますが、上の画像のドライバスケットの中に入れて **完全乾燥** させれば常温で保存することもできます。



チヌ（黒鯛）の胃袋の中には、捕食後に時間が経過して色は薄くなっていますが、黄色い押し麦が入っています。

海底のポイントに集まり、落ちている黄色い押し麦を拾って食べたという客観的な証拠になります。

視覚にアピールして、黄色い押し麦を拾わせておく

⇒ **チヌ（黒鯛）をポイントに足止め**

上記の効果が得られます。





## 2. ダンゴのアンコ

チヌ（黒鯛）は、生さなぎの強烈な臭いにも敏感に反応するためニュー活さなぎミンチ激荒を **ダンゴのアンコ** に使用して嗅覚と味覚にアピールします。

本来は、ウキフカセ釣りのコマセ（撒き餌）の中に配合する集魚材ですが、紀州釣りにも使用できます。

ダンゴの中に集魚材として配合する粉末状の細びきさなぎより生さなぎのミンチの方が集魚効果は高くなります。



**ニュー活さなぎミンチ激荒を手でひとつまみ取り**



**刺し餌に添えてダンゴを握ります。**

ダンゴのアンコ作戦を行う時は、まとまりが良いしっとりしたタッチのダンゴに調整してから握ると空中分解などの投入失敗のリスクも軽減します。



チヌ（黒鯛）の胃袋の中には、黄色い押し麦の他にダンゴのアンコとして使用したニュー活さなぎミンチ激荒の生さなぎも入っています。

ニュー活さなぎミンチ激荒のさなぎとカットコーンは、ダンゴのアンコの他に刺し餌としても使用できます。





ニュー活さなぎミンチをダンゴに配合する場合は、別途激荒を  
購入する必要はありません。

激荒に比べると粒自体は細かくなっていますが、ダンゴの  
アンコとしても使用することができます。



### 3. にんにくの配合

チヌ（黒鯛）は、強烈な臭いを放つにんにくにも反応するためダンゴの中に少量のおろしにんにくを配合して臭いを付けて嗅覚にアピールします。



ダンゴの中にチューブタイプのおろしにんにくを少量配合して混ぜ合わせるだけでチヌ（黒鯛）の嗅覚を刺激するにんにく臭いダンゴに仕上がります。

市販のダンゴ配合餌 1 袋または自作のダンゴ半日分に対しておろしにんにく 1 本が使用量の目安になります。



ちなみに、練り餌の高集魚レッドにもんにくが配合されているためにんにくは、チヌ（黒鯛）に有効と言えます。

紀州釣りの釣技に関しては、実釣を積み重ねていき自分自身の腕を磨いていく必要があります。

一方で、紀州釣りのエサに関しては、工夫して差別化を図ることですぐに釣果をアップさせることも可能です。

紀州釣りの釣果を上げるためには、ライバルの釣り師が実践しないことも積極的に取り入れることをおすすめします。

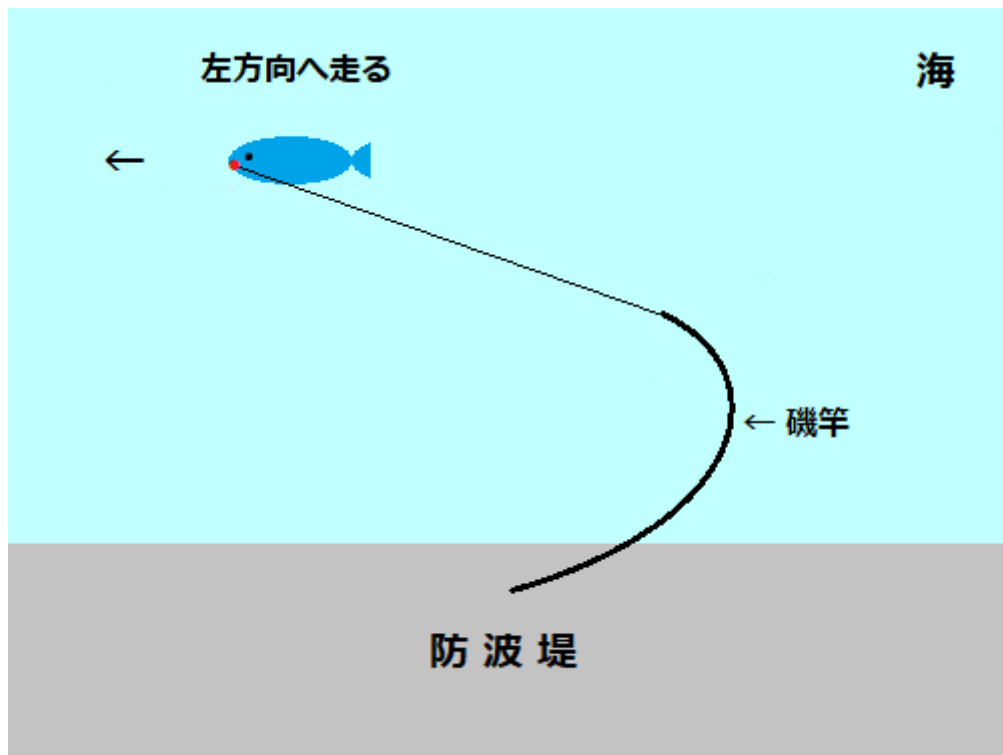
## 6－5 帰巢本能を意識した釣り座の選び方

動物たちは、自分の巣（縄張り）や繁殖地から遠く離れても再びそこへ戻って来るといふ **帰巢本能** が備わっています。



紀州釣りの対象魚になるチヌ（黒鯛）も例外ではなく自分の巣（縄張り）に戻る帰巢本能が備わっています。

釣り師がチヌ（黒鯛）とやり取りする時は、バラさないように引きを上手くいなしますが、全力で引くチヌ（黒鯛）の方には、同時に帰巢本能が働いています。



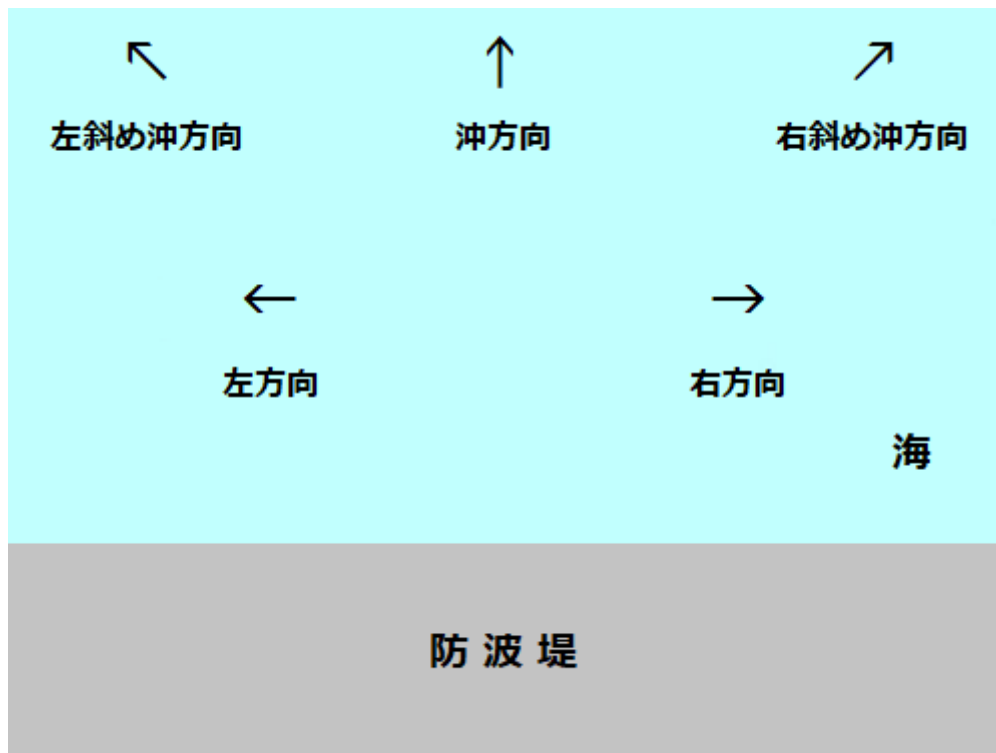
例えば、上のイメージ図のようにチヌ（黒鯛）が刺し餌を捕食してやり取り中に左方向へ走ったとします。

左方向へ走った理由として、身の危険を感じたため帰巣本能が働き巣（縄張り）の方向に戻ろうとしているからです。

⇒ **巣（縄張り）の方向 = 回遊して来た方向**

帰巣本能が働いたことを踏まえると **左方向から回遊して来た可能性が高い** と判断できます。

帰巣本能を意識して釣り座を選ぶにあたり、まずは同じ釣り場に通りやり取り中のデータを収集して検証します。



チヌ（黒鯛）とやり取りする時は、上のイメージ図で示した方向に走ることが想定されます。

やり取り中に磯竿でタメて、**チヌ（黒鯛）がどちらの方向に走ったのか** データを収集して検証します。

例えば、防波堤の釣り場Aに何度か釣行して紀州釣りを楽しみチヌ（黒鯛）と合計13回やり取りしたとします。

◆ チヌ（黒鯛）が走った方向のデータ

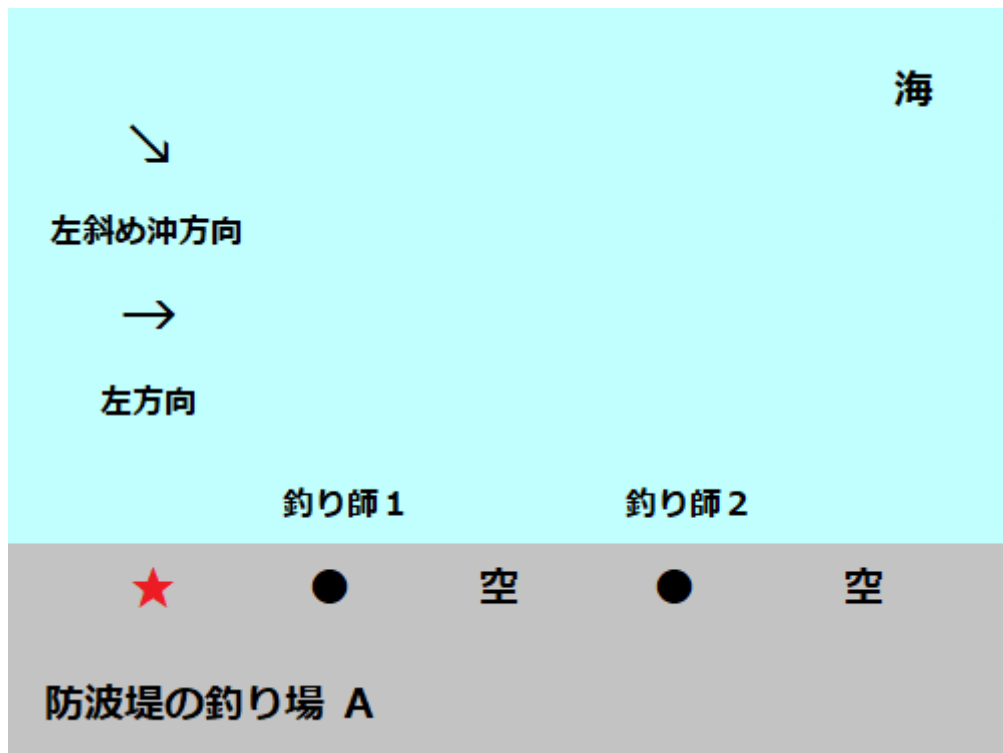
- ・ 右方向（ 0 回 ）
- ・ 右斜め沖方向（ 1 回 ）
- ・ 沖方向（ 1 回 ）
- ・ 左斜め沖方向（ 7 回 ）
- ・ 左方向（ 4 回 ）

防波堤の釣り場 A は、チヌ（黒鯛）が左斜め沖方向や左方向から回遊して来る可能性が高いと判断できます。

やり取り 1 回につき多く走った方向（執拗に走った方向）を有効データとしてカウントします。

やり取り中にチヌ（黒鯛）が走った方向のデータを収集して検証することにより、どちらの方向から回遊して来る可能性が高いのか釣り場ごとに傾向を把握できます。

以上の検証結果を踏まえて



例えば、上のイメージ図のように防波堤の釣り場 A に到着すると既に紀州釣りを楽しむ釣り師が 2 人います。

- ・ 左斜め沖方向
- ・ 左方向

上記の 2 つの方向からチヌ（黒鯛）が回遊して来る可能性が高いという検証結果が出ているので、一番左側の★印で示した釣り座を選んで確保します。



一方で、一番右側と両サイドを釣り師に挟まれる釣り座は、沖方向からの回遊頼みになるため不利になります。



チヌ（黒鯛）は、やり取り中に帰巢本能が働くと

⇒ **回遊して来た方向に走る**

上記の行動を取るため **回遊して来る方向** も考慮して、有利になる釣り座を選ぶと釣果を上げやすくなります。

## 6－6 サイズアップを目指す戦略

紀州釣りは、自然相手のアウトドアなので、チヌ（黒鯛）のサイズを指定して選んで釣ることは不可能です。



一方で、釣り場の選び方や釣り方などを見直せばサイズアップの可能性を高めることができます。

自己記録を更新したいという釣り師の方は、チヌ（黒鯛）のサイズアップを目指すにあたり、自分自身の紀州釣りの釣果を継続的に記録して検証することをおすすめします。

1. 釣行日

2. 実釣時間

3. 潮回り

4. 釣り場の名称

5. 釣果（アタリ時間とサイズ ○○cm）

紀州釣りを行う度に上記の5つの項目を記録します。

特に釣り場の名称と釣果は、サイズアップを目指していくための必須項目になります。

#### ◆ 紀州釣りの釣果記録の検証方法

- ・ 釣り場 A 最大 3 2 cm
- ・ 釣り場 B 最大 3 8 cm
- ・ 釣り場 C 最大 4 7 cm
- ・ 釣り場 D 最大 3 5 cm
- ・ 釣り場 E 最大 4 4 cm

例えば、よく釣行する釣り場 A～E があるとします。

釣り場 A～E で釣ったチヌ（黒鯛）の釣果記録の中から最大サイズをピックアップして比較します。

釣り場 C と E では、サイズが 40 cm 以上あるため良型が釣れる場所であると断定できます。

釣り場 C に関しては、サイズが 47 cm あるため更に上を目指し 50 cm 以上の年無しも狙える可能性があります。

以上の検証結果より、チヌ（黒鯛）のサイズアップを目指す場合は

- ・ 第 1 候補 釣り場 C
- ・ 第 2 候補 釣り場 E

上記のように **過去の釣果実績** を踏まえて、最大サイズを優先して釣り場の候補を選びます。

自分自身の釣果記録を検証していくと良型がよく釣れる場所やあまり釣れない場所などの傾向を把握できます。

チヌ（黒鯛）は、サイズが大きくなるとあまり群れを作らず単体で回遊して来る傾向があります。

サイズアップを目指す場合は、数釣りを楽しめてもサイズが伸びない釣り場より、自己記録を出している釣り場で一発逆転を狙い記録更新を目指すことをおすすめします。

釣り場の名称と釣果（サイズ）以外の記録を検証して活用する方法を解説していきます。

釣行日の記録は、自分が釣行する地域がよく釣れる時期になるベストシーズンとボウズの確率が高い時期になるオフシーズンを把握するためのデータになります。

実釣時間の記録は、当日にチヌ（黒鯛）のアタリが出た時間と照らし合わせアタリが出る時間を踏まえて釣行計画を立てるためのデータになります。

潮回りの記録は、紀州釣りで釣果を上げやすい潮回りの傾向を把握するためのデータになります。

防波堤などの釣り場で紀州釣りの実釣を行った後は、毎回釣果などを細かく記録してメモに残しておくとは後日様々な観点から比較および検証を行う時の貴重なデータになります。

自分自身の釣果を検証してサイズアップを目指していく方法を解説しましたが、その他に敢えて **噂話に便乗してみる** という別の方法で釣り場を選ぶのもあります。

釣具店の店員さんや釣り場にいるベテランの釣り師の方たちと会話して、チヌ（黒鯛）が釣れる場所について

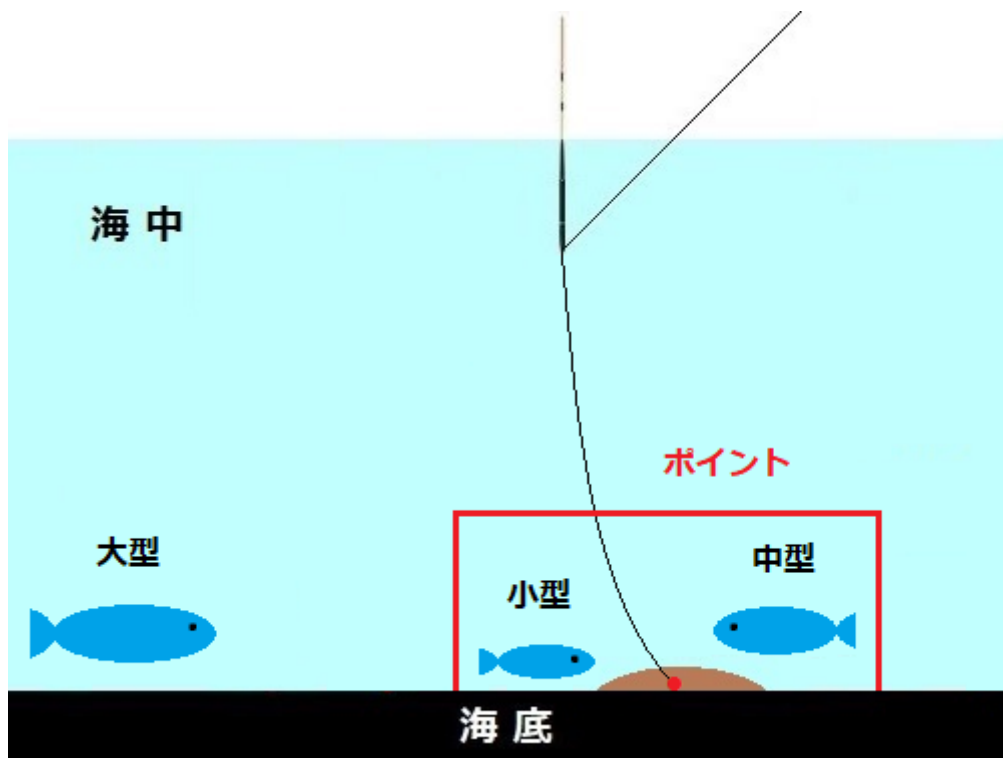
「大型のチヌ（黒鯛）は ○○ で釣れる！」

「大型のチヌ（黒鯛）は ○○ で見たことがある！」

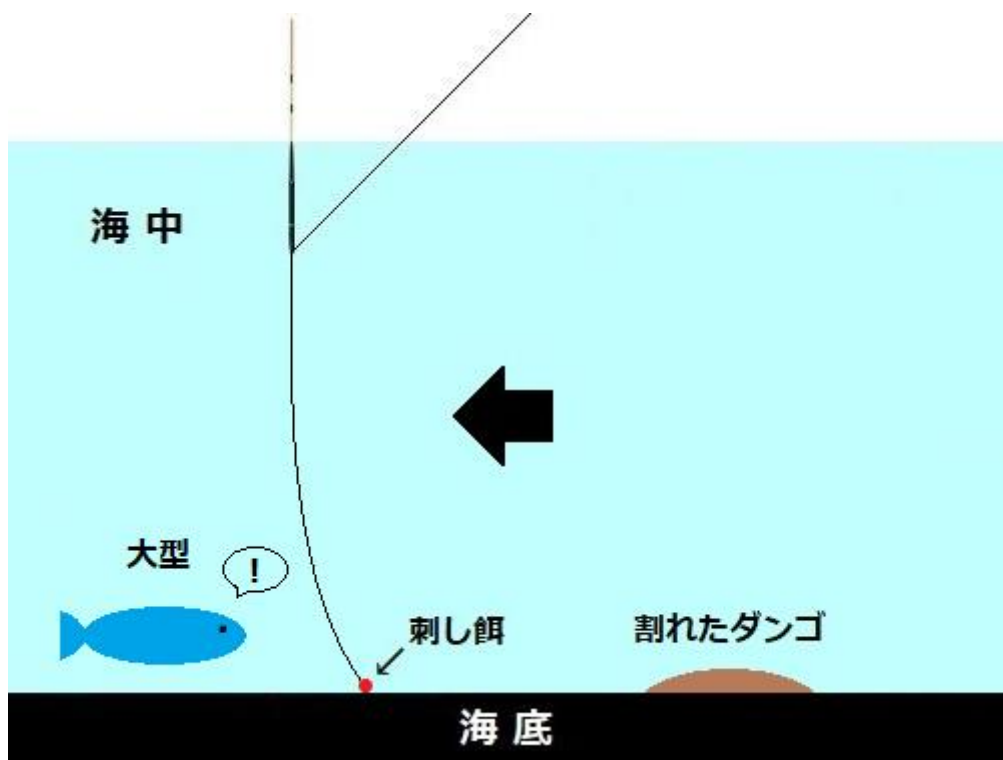
上記のような噂話を聞いた時は、不確かな情報ですが、噂話を頼りに該当する釣り場へ釣行してみます。

チヌ（黒鯛）は、自然界で長く生き成長してサイズが大きくなるほど警戒心が強くなります。

私たち人間は、法律で安全が保障されていますが、弱肉強食の自然界で暮らすチヌ（黒鯛）は、身を守るために成長過程で様々な経験を積み重ねて警戒心も強くなっていきます。



上のイメージ図のように小型や中型のチヌ（黒鯛）は、海底のポイントの中心部に入りやすい傾向があり、大型になるほど警戒して周囲で様子を伺います。



特に **刺し餌が残るような時** は、大型のチヌ（黒鯛）が海底のポイントの周囲に留まっていることも考えられます。

ダンゴが割れて刺し餌が出たら仕掛けを潮に乗せ3～5 m 程度流して反応を見ることをおすすめします。

海底のポイントから少し離れた場所で大型のチヌ（黒鯛）が食ってくることもあります。

チヌ（黒鯛）のサイズアップを目指す時の釣り場の選び方や釣り方の戦略についての解説は以上になります。



## 6－7 チャンスを倍増させるダブルのチヌ針

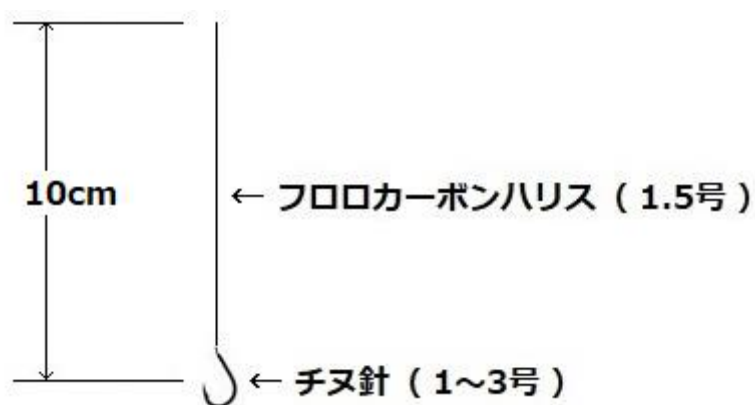
紀州釣りの仕掛けを作る時は、フロロカーボンハリスに1本のチヌ針を結束して仕上げるのが基本になりますが、倍の2本に増やすこともできます。



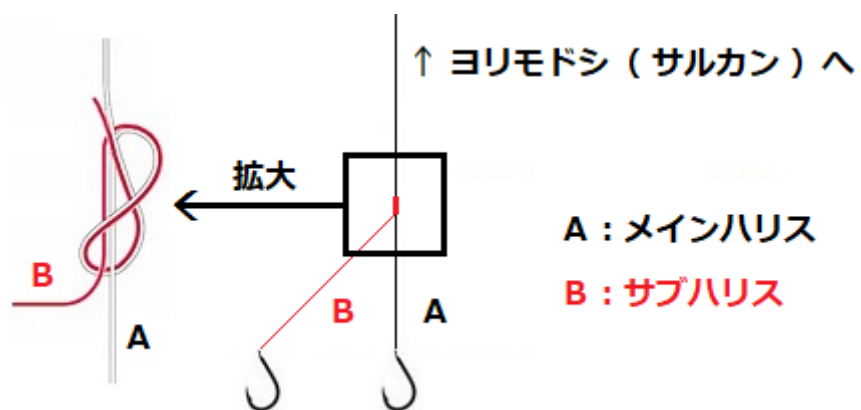
手間が掛かる作業になるため面倒だと思う釣り師の方は、無理に実践する必要はありませんが

⇒ チヌ針2本＝チャンスも2倍になる

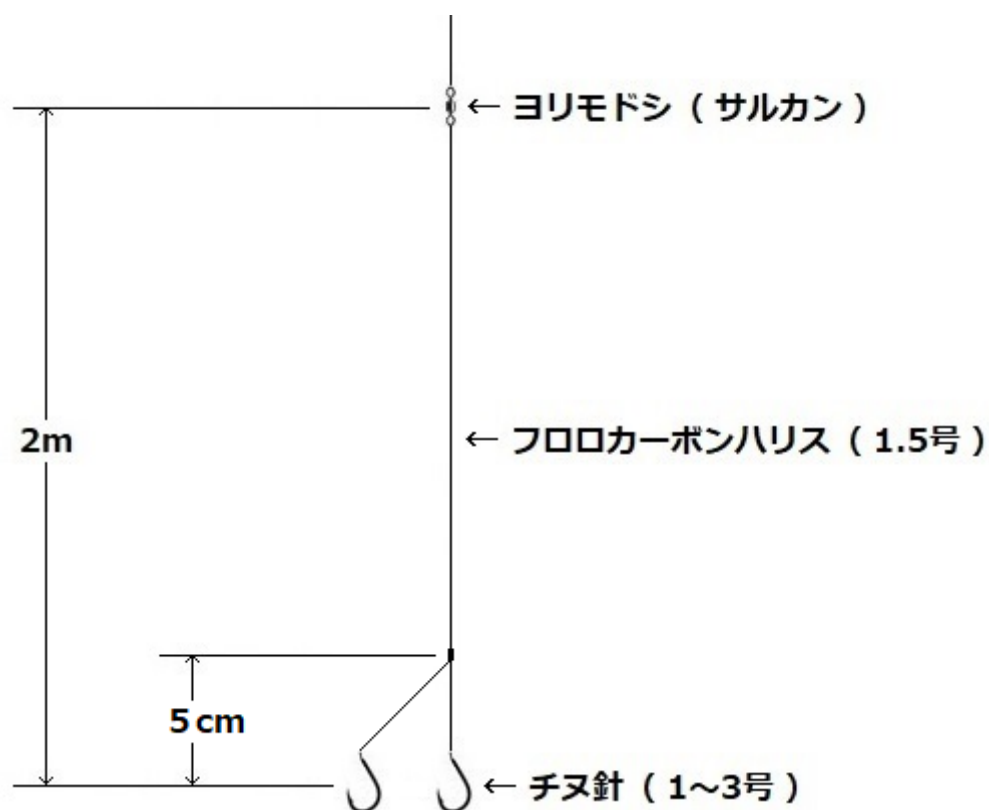
上記のメリットがあります。



作り方は、上の図解のようにフクロカーボンハリスとチヌ針を  
外掛け結びで結束して **サブハリス** を作ります。



次に上の結び方の図解を参考に仕掛けのメインハリスに対して  
サブハリスを結び結束します。



最終的に上の図解のようになり、フロロカーボンハリスに2本のチヌ針が付いた紀州釣りの仕掛けが完成します。

紀州釣りの実釣では、1回のダンゴの投入につき同時に2つの刺し餌を扱えるようになります。

チヌ針が1本から2本に増えるとチヌ（黒鯛）に刺し餌を食わせるチャンスも倍増して2倍になり、エサ取りの小魚が多い時の対策にもなります。

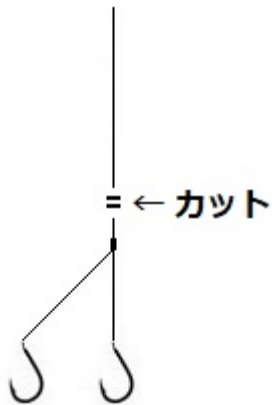


例えば、上の画像の **オキアミとコーン** の組み合わせの他に

1. オキアミ + さなぎ
2. オキアミ + 高集魚レッド
3. オキアミ + 食い渋りイエロー
4. コーン + さなぎ
5. コーン + 高集魚レッド
6. コーン + 食い渋りイエロー
7. さなぎ + 高集魚レッド
8. さなぎ + 食い渋りイエロー

## 9. 高集魚レッド + 食い渋りイエロー

上記の合計9パターンあります。



一方で、デメリットもあり、エサ取りのカワハギやフグなどにフロロカーボンハリスを傷付けられた時は、上の画像の部分でカットして結び直す（作り直す）必要があります。

フロロカーボンハリスが頻繁に傷付けられてしまう時は、結び直しの作業が多くなり、逆に効率が悪くなるため1本のチヌ針の仕掛けに戻すことをおすすめします。

## 6－8 春の乗っ込み時期と夏の藻場攻略

チヌ（黒鯛）は、春の乗っ込み時期になると群れで接岸してエサを漁り藻場で産卵を行います。



上の画像のように春になると藻が生える釣り場は、釣りにくい  
ため避ける釣り師の方も多いと思いますが、チヌ（黒鯛）に  
っては好環境で身を潜めている可能性が高いです。

藻が生える春から藻が完全に無くなる夏までの期間限定になり  
ますが、藻場の攻略法を解説します。



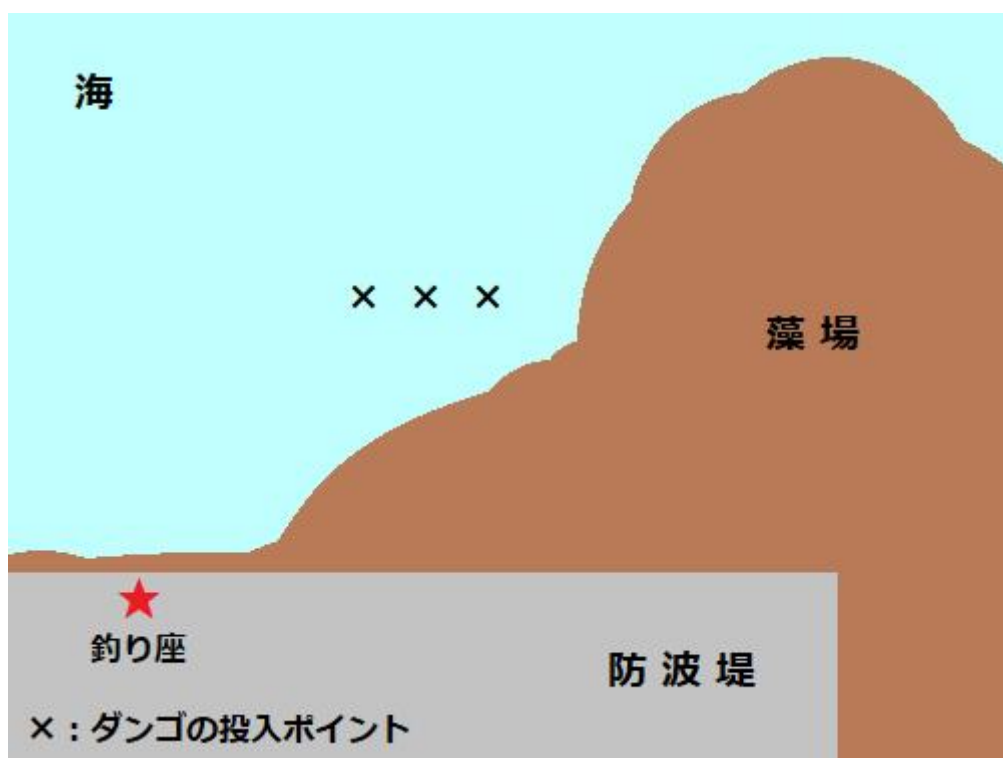
藻場で紀州釣りを行う時は、藻の中に直接ダンゴを投入してしまうと仕掛けが藻に絡むトラブルが多発します。

また、チヌ（黒鯛）を掛けた時も藻場の奥深くに逃げられてしまいやり取りが困難になります。

仕掛けおよびやり取り中のトラブルを避けるために

⇒ 藻場の境目付近にダンゴを投入する

上記の方法で攻略します。

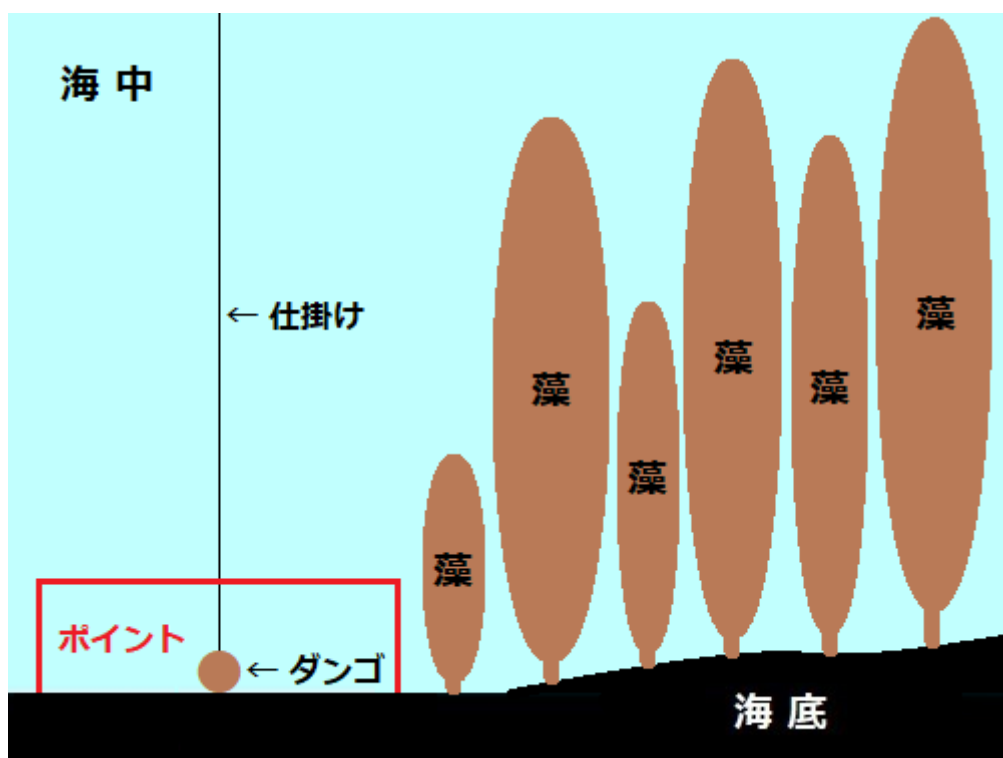


例えば、上のイメージ図のような藻場がある防波堤の釣り場へ釣行して紀州釣りを行うとします。

釣り座の選び方ですが、今回の攻略ポイントになる藻場の境目にダンゴを投入することができる★印で示した場所に釣り座を構えて紀州釣りを行います。

藻場でチヌ（黒鯛）が釣れるという事情を知らない釣り師もいてトラブルを避けるため敬遠されがちな場所なので競争率が低く確保しやすい釣り座でもあります。





上のイメージ図のように海中に藻が生えている場所と生えていない場所の境目付近に集中してダンゴを投入します。

1. 藻場の境目付近にポイントを作る
2. 藻場に潜むチヌ（黒鯛）を誘い出す

上記の手順になり、ダンゴの集魚成分を底潮の流れに乗せ藻場の周辺に拡散させて身を潜めているチヌ（黒鯛）を外に誘い出して刺し餌を食わせます。



上の画像のように偏向サングラスをかけて海面を眺めることで藻場の境目を確認できます。

日当たりが良く水深が浅い場所ほど太陽の光が海底に届くので藻が密集して多く生える傾向があります。

やり取りする時の注意点ですが、チヌ（黒鯛）は藻場の中に突っ込む可能性が高いです。

藻場では、バットパワーがある **1号** や **1.5号** の磯竿を使用して、チヌ（黒鯛）に反撃する隙を与えずに素早く藻場から引き離し浮かせることをおすすめします。

チヌ（黒鯛）が藻場の中に入ってしまった時は、強引に引っ張り出そうとするとバラシの原因になります。

リールを操作して道糸を送り、完全に緩めた状態にして放置したまま暫く様子を見ます。

緩んだ状態の道糸が張り始めるとチヌ（黒鯛）が移動を始めたサインになるのでやり取りを再開します。

磯竿でタメて、チヌ（黒鯛）にブレーキを掛けつつリールを巻き藻場の外へ徐々に引き出します。

**1. 道糸を緩めて張り始めるまで様子を見る**

**2. 磯竿でタメつつリールを巻く**

上記の手順を繰り返します。

藻場という特殊な環境になりますが、紀州釣りの釣果をアップさせたい釣り師の方は、藻場攻略にもチャレンジしてみることをおすすめします。

## 6－9 砂浜および浅場の海岸攻略

ダンゴを使用する紀州釣りは、漁港などにある一般的な防波堤の釣り場で楽しむイメージが強いです。

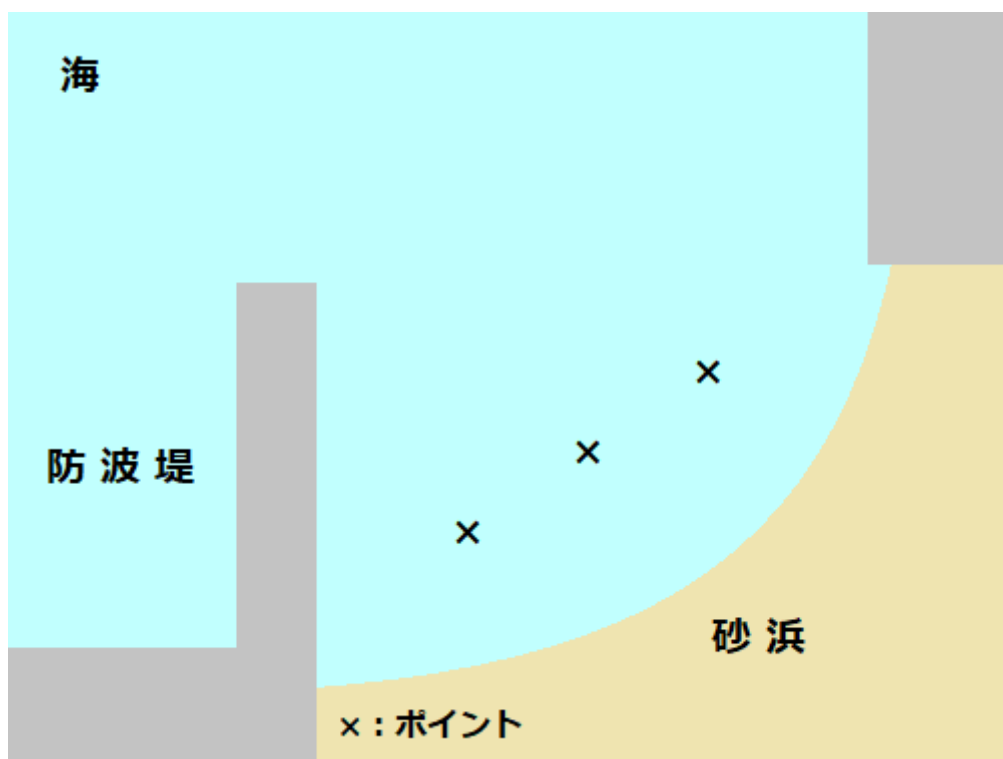


チヌ（黒鯛）は、環境適応性が高いため自宅から徒歩や車で行ける範囲にある海の釣り場であれば、どこでも回遊して来て釣れる可能性があります。

応用編の最後にシチュエーションがまったく異なる砂浜および浅場の海岸の攻略法を解説します。

砂浜のチヌ（黒鯛）釣りは、釣り師から **渚釣り** と呼ばれて  
ウキフカセ釣りが楽しまれています。

夏になると海水浴で賑わうような砂浜も実はチヌ（黒鯛）が  
釣れるポイントになります。

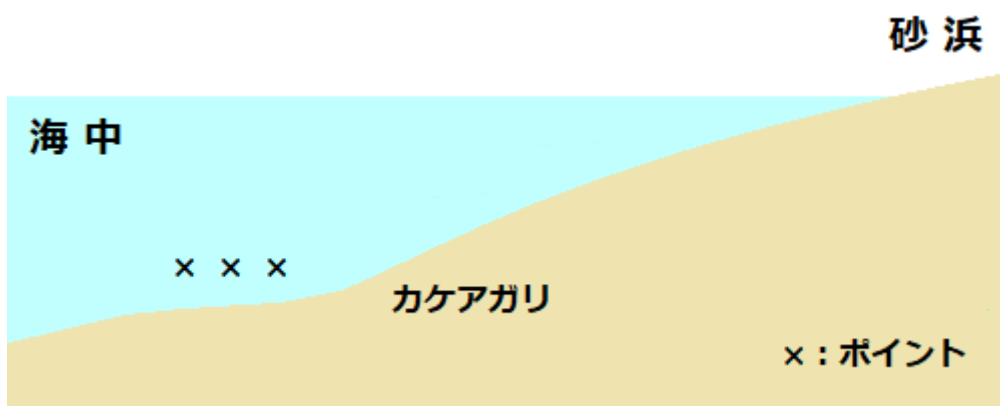


上のイメージ図のようにチヌ（黒鯛）が釣れる防波堤の近く  
に砂浜があると釣れる可能性も更に高くなります。

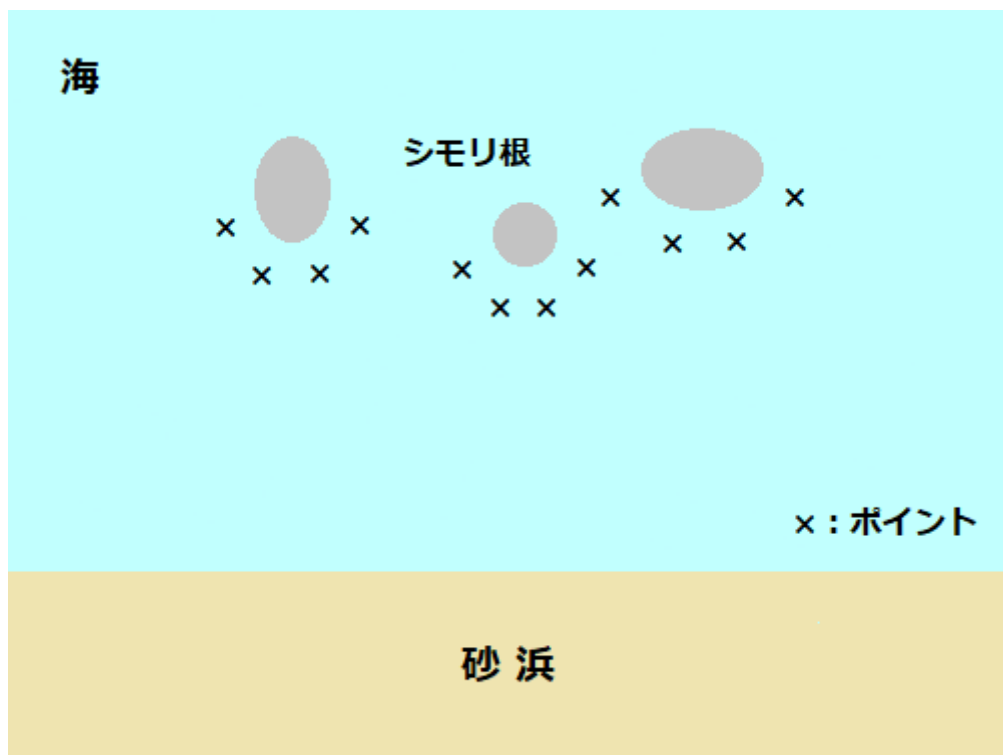
実績ポイントに近いかどうかという点を考慮して砂浜を選んで  
いくと失敗するリスクも小さいです。



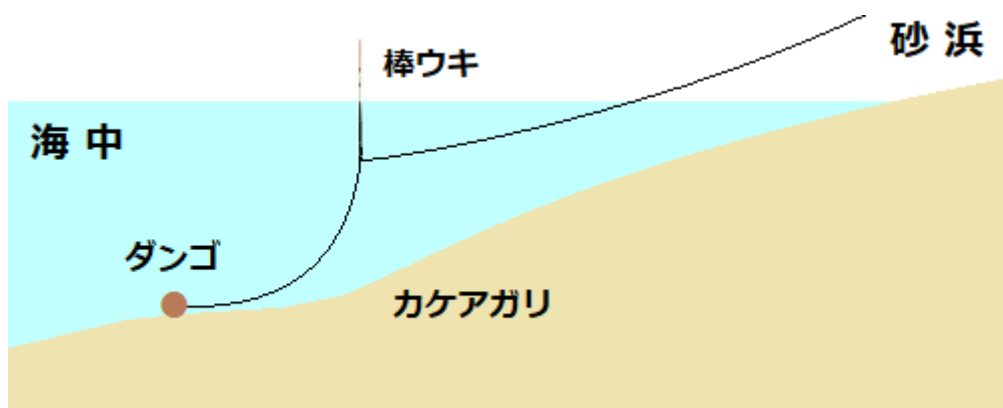
紀州釣りをを行う目的地の砂浜に到着したら海面を眺めて、上の画像のように **変化が見られる場所** があれば、そこに集中してダンゴを投入します。



変化が見られる場所は、上のイメージ図のようなカケアガリになっている可能性が高くポイントとして有力です。

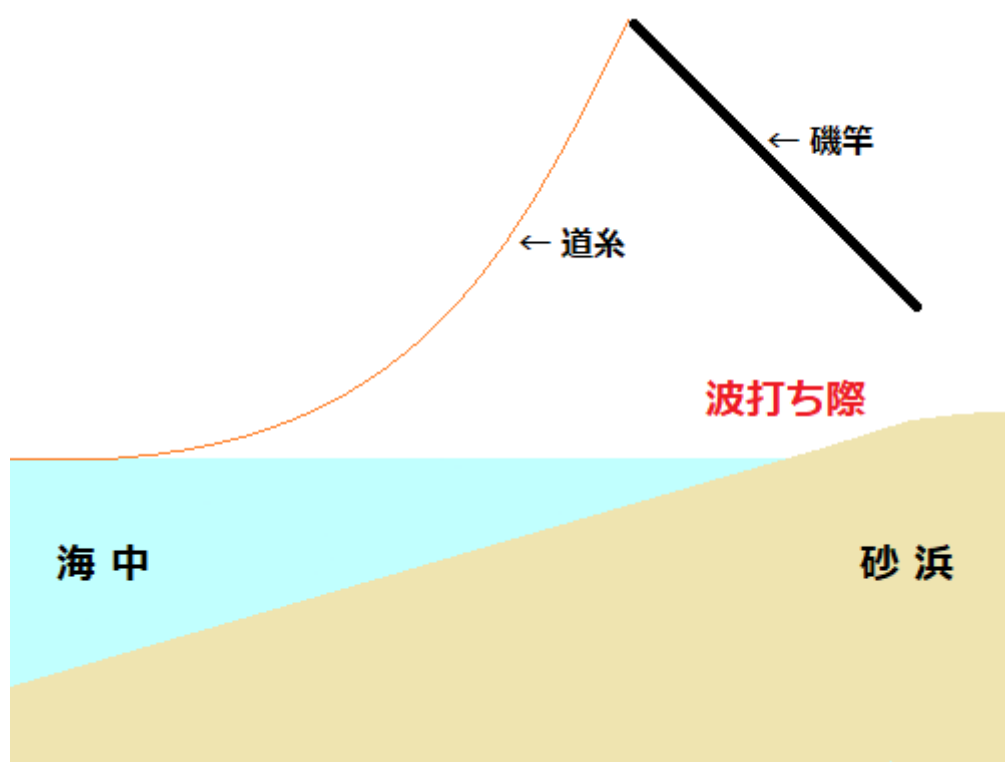


また、上のイメージ図のように砂地にシモリ根が点在しているような場所もポイントになります。



タナ（ウキ下）は **水深+1m** に設定して、上のイメージ図のように海底にハリスを這わせて釣ります。

波で刺し餌が浮き上がらないようにするためタナは本来の水深よりも更に深く設定します。



アタリを待つ時ですが、砂浜に波が打ち寄せている場合は、上のイメージ図のように磯竿を立てます。

磯竿を立てた状態でアタリを待つことにより、道糸が波打ち際の波にさらわれにくくなります。



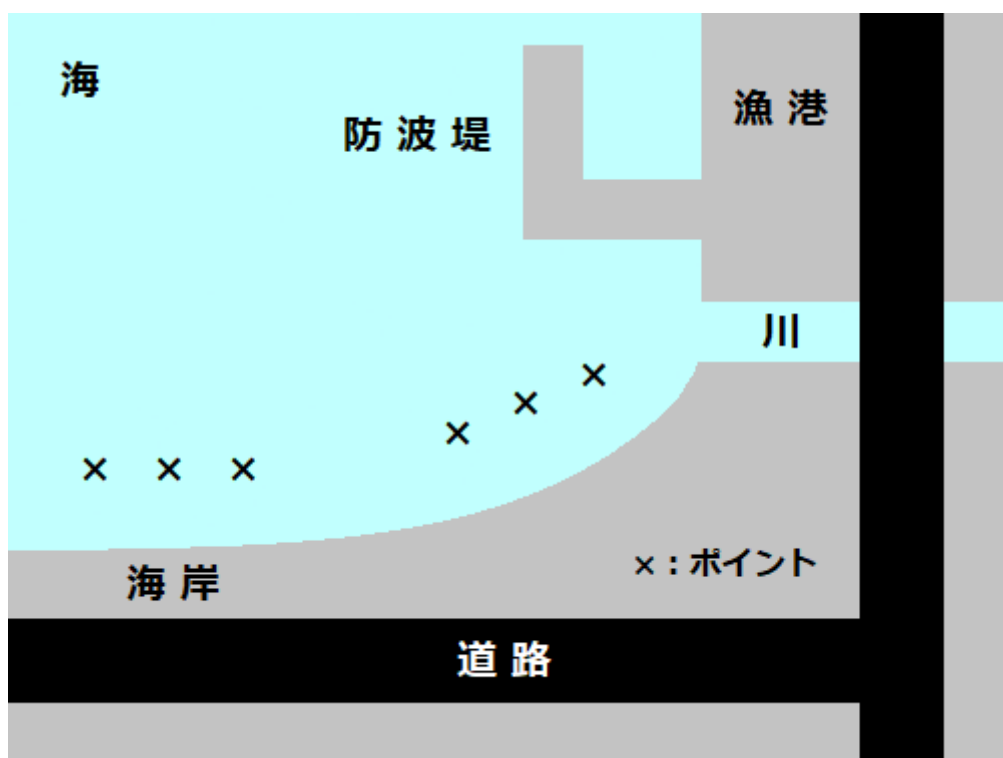
干満の差が大きくなる中潮や大潮の日は、干潮に向かって潮が引いていく時に釣り座を前進して、満潮に向かって潮が満ちてくる時に釣り座を後退します。

チヌ（黒鯛）を取り込む時は、砂浜に打ち寄せる波の動きに合わせてそのまま砂浜に引き上げます。

玉網を使用する場合は、波打ち際でチヌ（黒鯛）に玉網を被せるまたは波で玉網の中に誘導してすくいます。



チヌ（黒鯛）は、浅場の海岸でも釣ることができます。

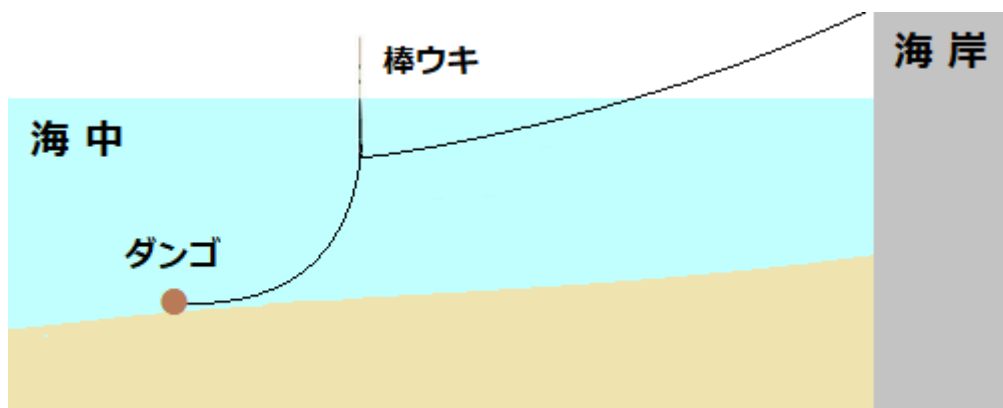


例えば、上のイメージ図のような道路沿いにある浅場の海岸などでも釣れる可能性は十分にあります。

砂浜の時と同様にチヌ（黒鯛）が釣れる防波堤の近くにある浅場の海岸などは、釣れる可能性も更に高くなります。

チヌ（黒鯛）からは、釣り師の姿が見えなくなる10m以上沖に向かってダンゴを投入します。

海岸から海面を眺めて、カケアガリやシモリ根など変化が見られる場所があれば、そこにダンゴを投入します。



タナ（ウキ下）も砂浜の時と同様に **水深 + 1 m** に設定して海底にハリスを這わせて釣ります。



チヌ（黒鯛）は、砂浜をはじめ干潮時の水深が1～2 m 程度になる浅場の海岸でも問題なく刺し餌を食ってきます。

漁港などにある一般的な防波堤の他に釣り師が近付かない意外な場所にもチヌ（黒鯛）は回遊して来ます。

紀州釣りの釣果をアップさせたい釣り師の方は、砂浜や浅場の海岸攻略にもチャレンジしてみることをおすすめします。



チヌ（黒鯛）は、砂浜や浅場の海岸でも釣れるメリットがある一方で、上の画像のように鳥の群れが飛来した時は、逃げて一時的にアタリが止まるデメリットもあります。

魚にとって鳥は天敵になり、水深が浅いとチヌ（黒鯛）に鳥の姿がはっきりと見えてしまうからです。

特に海水が澄んでいる（ 透明度が高い ） 釣り場ほど鳥が飛来した時の影響が大きくなります。

運に左右されてしまう部分もありますが、鳥が飛来して魚の気配が完全に消えた時は、休憩などを取り暫くの間ポイントを休ませて対応します。

紀州釣りの初心者から中級者にレベルアップして釣果を上げられるようになった釣り師の方は

⇒ [Google マップ](#)

上に掲載した Google マップで提供されている航空写真を見て新規の釣り場を開拓する方法もおすすめです。

皆様が釣行する地域の航空写真を見て紀州釣りを楽しめそうな気になる場所があったら直接現場に行き下見を行います。

そして、紀州釣りは可能かどうか総合的に判断して特に問題がなければ釣行計画を立てて実釣を行います。

**第1章～第5章の紀州釣りでチヌ（黒鯛）を釣るための基本  
ノウハウとテクニックを習得してから**



**更に第6章の応用ノウハウとテクニックを習得して釣技を磨く  
ことで釣果アップおよびサイズアップして紀州釣りの上級者に  
レベルアップできます。**